

孟宗

第 45 号



平塚市医師会

孟子

宗

平塚市医師会

孟宗 第45号

平成二十五年八月

題 字 川口浩

表紙絵 山梨熙一郎

巻頭言 平塚市医師会会長 武川 慶孝 4

絵 短歌に詠まれた植物 内田 久則 6

随想 笑い草（其の五） 山梨熙一郎 13

鵜飼い そうめんと冷麦 九里よりうまい十三里 ビール何メートル？ けんもほろろ 口福 八百長
素人と玄人のシロクロ判定は？ 火の車 元の本阿弥 海千山千 Yシャツ すててこ 風呂敷 お茶の子さいさい とんちんかん
（娑婆）しゃば 神社の「狛犬」は、犬ではない？ 礼砲は、なぜ21発と決まっているのか？ お転婆（おてんば）
袖にする あがく 土壇場 へま 鬼の攪乱 あと書き

定点観測「この素晴らしき朝日かな」 丹羽 明博 22

紀行 「葛城古道を歩く」 白石 龍二 24

「秋の京都プチ散歩」 久保田 亘 31

菩提峠から三ノ塔へ

第3回 平塚市医師会ウォーキング大会 平成24年5月13日（日） 武川 慶孝 33

北欧フィヨルドの旅 中村 千里 35

南イタリア一人旅 伊東 幸子 58

俳句 五色沼 寺田 公明 77

詩 生きていることが／水産特区／再稼働／料金 寺田 公明 84

折紙 花の器より花卉を増やす 遠藤 和邦 88

随想 「ハードカバーコレクションとマイ書評2013」 久保田 毅 93

金目川河畔のチョウ キアゲハ 内田 久則 105

新入会員紹介

新任の挨拶と、結核漫談 横浜ゴム健保組合平塚診療所 塩之入 太 115

自己紹介 医療法人 湘鵬会内田クリニック 内田 泰至 120

訃報 思い出話 高橋克孝先生を悼む 武川 慶孝 121

部報 テニス部報 武川 慶孝 123

ボウリング同好会 鈴木 盛彦 126

編集後記 130

巻頭言

平塚市医師会 会長

武川 慶孝

H・24年秋、山中伸弥京都大学教授がノーベル医学生理学賞を受賞された。受賞理由は「成熟した細胞を多能性を持つ状態に初期化できることの発見」皮膚の細胞から、あらゆる組織に変化しうる万能細胞を作る。これはプロの学者でも「とても無理」と考えるレベルのものらしい。しかし、彼はこの一点に目標を絞り、挫折をバネにして超人的な努力を続ける。

元は、整形外科医（日医の会員でもある）だったが、自分には不適であると悟り基礎医学へ。大阪市立大大学院で基礎医学の基本を習得後、米グラットストーン研修所に留学し、胚性幹細胞の研究に取り組む。その後、大阪市立大学に戻るも彼我の研究環境の較差に絶望し、意欲が途絶えそうになる。しかし、ここからが彼らしい。なんとかしなくてはと奈良先端科学技術大学の助教授公募に挑戦し合格。この大学に在任中にも科学技術振興財団から助成金を受け取るために面接。面接官の阪大元学長は「1パーセントの可能性もないが、もしかしたらすごいことに・・・」3年間で5億円の助成が決まる。（秀でた目利きの存在）その3年後に京都大教授に迎えられる、かつての米国なみの研究環境を手に入れ、多くの研究員の協力「裾野の広がり」を得て、3年後にはヒトiPSを作製し、6年後にノーベル賞に至る。

この悪戦苦闘の半生を「失敗ばかりで泣きたくなくなるような20数年」と彼は振り返る。しかし、失敗の連続とは人類が初めて向き合う領域だからであり、絶望のうちにあつて、多少なりとも、慰めになったのは臨床医への道が残されていた事実であろう。新聞・テレビで見る彼の顔は、稀有な学者とは程遠く、誠実で優しい医師の眼である。

ノーベル賞授賞式の翌日の会見で「ノーベル賞のメダルは、どこかにしまつて、2度と見ることはないでしょう。」と事もなげに言う。気持ちには既にiPS細胞の臨床応用に移っている。医師としてはそこまで行かぬことには意味がない。まだ50歳の若さであり、その時は、間違いなくやって来る。

政府も京大のiPS研究所に10年に亘り計200～300億円の予算を計上しており、それとは別に「再生医療のプロジェクト」として京大を含む4拠点を公募し、5年間で150億円の助成も決まった。元来、再生医療の研究開発には多額の資金が必要であり、世界を相手にした場合、国を含めた総力戦が欠かせない。私達も同じ医師として、再生医療の将来をしっかりと見ていきたい。

短歌に詠まれた植物

内田 久則

古来日本人は植物を愛し、古くは万葉集の編纂された時代から現在に至るまで、多くの植物が和歌に詠まれている。最近では、外国産の華やかな園芸種の花がもてはやされ、野草の花に関心が向いていないのは残念なことである。神奈川県、静岡県でよく見られる、昔から和歌に詠まれた野草を、ここに紹介してみたい。

採集地と日時を記した

ニリンソウ 金目川、河内川河畔 高麗山麓

平成21年4月5日

アセビ 石垣山、一夜城址公園

平成20年3月16日

キイチゴ（ニガイチゴ）伊豆赤沢

平成24年4月28日

キブシ 伊豆赤沢

平成24年3月31日

アザミ（ノアザミ）

小田原辻村植物園

平成20年5月

クサボケ（シドミ）

金目川河畔 高麗山麓

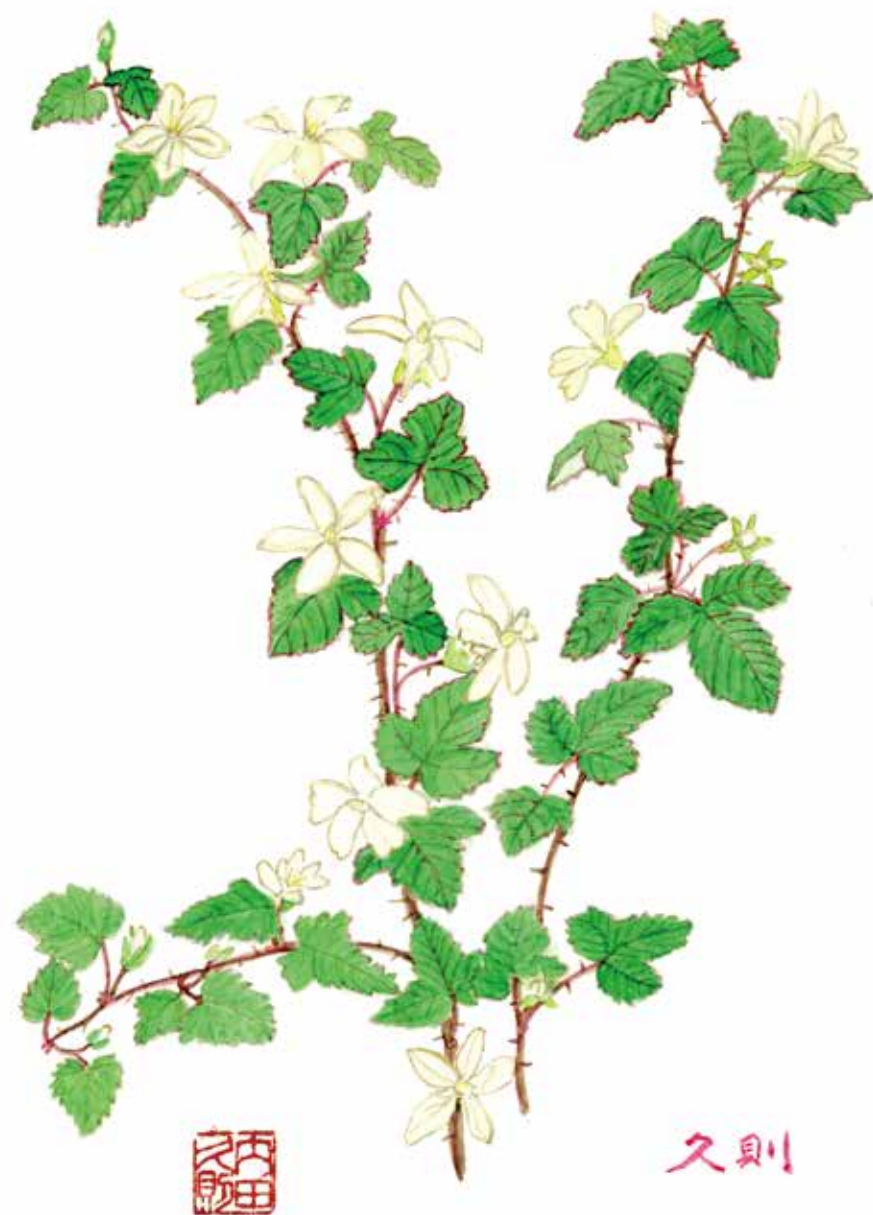
平成21年1月26日



【ニリンソウ】

かそかなるひとり静の花もみて猫背をかがむ群るる二輪草

千代国一



【キイチゴ (ニガイチゴ)】

木莓の下向く花に顔よせて嗅げばほのけき香に匂ひある

木下利玄



【アセビ】

かはず鳴く吉野の河の滝の上の馬酔木の花ぞ地 (つち) に置くなゆめ

万葉集 卷十



【アザミ (ノアザミ)】

口をもて霧吹くよりもこまかなる雨に薊の花は濡れけり

長塚節



【キブシ】

うばわるるものわれになく雪の上にきぶしの淡き花房は散る

森村浅香

随想



【クサボケ（シドミ）】

あしびきの山のたをりにこころよし熟めるしどみの香をかぎ居れば

吉茂藤育

笑い草（その五）

山梨 熙一郎

そうめんと冷麦

そうめん―練った小麦粉を引き延ばして作る。即ち「引っ張りめん」手延べ式であるから、独特のコシ、つまり歯ごたえの良さが出る。太さはそうめんの方が細い。断面は丸い。

冷麦―うどん、そばと同様に練ったのを平にしておいて、包丁で細く切る。従って「切りめん」手打ち式と言う、さっぱりとした風味がある。太さはすこし太く、断面は角形。



鵜飼い

鵜匠は世襲されアユ漁で生計を立てているわけだが、アユのほか、フナ、ウグイ、ナマズも捕れ、それらは鵜の餌になります。ウナギは鵜の嘴にからみ、飲み込むことが出来ません（ウが難儀するのでウナギの名称？）運が良ければ鵜の嘴の跡がついているアユを食べることができます。年間禁猟区のご漁場で、年に8回天皇殿下に

献上するために御料鵜飼いが行われます。

す。鵜匠は宮内庁式部職に所属します。

「おもしろうて やがて悲しき 鵜舟

かな 松尾 芭蕉」



九里よりうまい十三里



九里は栗にかけ、十三里は芋のことだが川越の別称である。江戸から十三里ほど隔てた川越は芋の産地であったので、十三里＝川越芋となった。

ビール何メートル？

大ジョッキの底は10cm、だから空ジョッキが10個並ぶと1m飲んだという。



けんもほろろ



「けん」も「ほろろ」も雄雉の鳴き声。ほろろは本来は羽音だが、鳴き声と羽音が切れ目なく聞こえ「けんけんほろろ」と一体化してとらえるようになった。「けん」を「けんつく」や「つつけんどん」などに掛け、取りつく間もないさま。冷たい態度を「けんもほろろ」という。

口福

うまい酒を飲みながら、うまいものを喰って、ああ、このまま死んでもいい…という気持ちになる時である。

素人と玄人のシロクロの判定は？



プロやベテランを「玄人」と呼び、その対語としてアマチュアや初心者

を「素人」と呼ぶ。なぜ上級をクロ、初級をシロと表現するのか。その語源は、まず有力なのが囲碁に関するもの。平安期までは上位者が黒石を持つのが習わし



で（現在は逆に白が上位者）、上位の強者を「黒人（くろひと）」と呼んだことに由来するという説。江戸時代の役者評判記（ランキング）では、上位者を表す「黒吉」に対して、芸を持たない遊女を「白人（しろと）」と呼んでいたことから、玄人、素人が出来たという説もある。また中国では僧侶を玄人（黒衣を着ている人の意）と

呼んでいたが、これに対する平民の意味で素人という言葉が有った。

ちなみに柔道では初心者が白帯、有段者が黒帯を締めるが、大相撲の世界の稽古では黒回しは若い衆の者。関取になると白回しが許されるようになる。

八百長

明治時代の八百屋の店主「長兵衛」に由来すると言われる、八百屋の長兵衛は通称を「八百長」（やおちょう）といい、大相撲の年寄、伊勢の海五太夫と囲碁仲間であった。

囲碁の実力は長兵衛が勝っていたが、八百屋の商品を買ってもらう商売上の打算から、わざと負けたりして、伊勢の海五太夫の機嫌を取っていた。しかしその後は回向院近くの碁会所開きの来賓として招かれていた本因坊秀元と互角の勝負をしたため、周囲に長兵衛の本当の実力が知れ渡り、以来、真剣に争っている様に見せながら、事前に示し合わせた通りの勝負をつけることを八百長と呼ぶようになった。大相撲で隠語で「注射」（真剣勝負は「ガチンコ」ともいう。競馬、自転車競技、モーターボート競走、小型自動車競走などの八百長に対しては刑法186条2項が適用される。



火の車

【火の車】は、仏教用語「火車」を語源としている。

仏教では生前に悪事を働いた者の行き着く先として、さまざまな地獄があるが、「火車」とは、その最も過酷な無限地獄へ罪人を乗せていく燃える車のことをいう。カネにまつわる苦しみほどつらいものはないのが世の常。それはまさに「火車」という地獄の一丁目への直行便に寄せられるようなもの。というわけで、経済的に窮乏することを「火の車」というようになった。



元の木阿弥

いったん良くなったものが、再び元の状態に戻って、苦労も努力も無駄になるという意味。「水泡に帰す」などと同じ意味で使われる。

「木阿弥」というのは名もない盲目の僧侶の名前。戦国

大名・大和の筒井順昭は、息子順慶が2歳の時28歳の若さで死去したが、国を守るため3年間自分の死を隠すよう遺言した。そして、自分に姿形や声までそっくりな木阿弥を影武者にすることを命じた。その後、順昭の死は公表され、替え玉の木阿弥は用済みになって、贅沢な城主の生活から一転、元の僧侶に戻ったという話が語源になっている。また、朱塗りの椀の朱が剥けて、貧弱な下地が現れた「元の木碗」が転じたものという説もある。



るという言い伝えには立派な（竜になること）といった意味が含まれるが、現在では褒め言葉としては用いられない。



Yシャツ

背広の下に着る襟と袖のついたシャツのこと。明治時代に日本に伝わり、初期のものは襟が取り外せたという。大正10年以降、襟が身ごろに縫いつけられたものになり、一般にも普及した。

語源は英語の「white shirt」が訛ったもの。



ホワイトはh音が発音されない事が多く、最後のt音も聞こえにくいため、耳で聞くと「ワイシャツ」と聞こえ、聞いた通りの音がそのまま名になった。元々は白の長袖をいうが、現在は夏は半袖のワイシャツがあり、色も柄もさまざまである。

海千山千

「海に千年、山に千年住んだ蛇は竜になる」という伝えを人間の経験にあてはめたもので、世の中で様々な経験を積み、物事の裏表を知り尽くしてずる賢く、したたかな人の事。もとは「海に千年山に千年」という言葉で、これが省略されて「海千山千」となった。また、竜にな

すててこ

男性用の下着。膝下までの汗除け用のズボン下で、日本特有のものである。明治時代の初期、落語家の初代三遊亭円遊が、寄席で踊った「すててこ踊り」が語源といわれる。

円遊はひときわ鼻が大きかったので、鼻の円遊と呼ばれたが、その人が後ろ鉢巻に、ダブダブの下ばきをはき、大鼻をつまんで捨てる真似をしながら、滑稽なしぐさで踊る。その面白さが受けて、人気を呼ぶようになった。

鼻をつまんで、「捨ててこい、捨ててこい」と捨てるしぐさをしたところから、その踊りは「すててこ踊り」といわれるようになり、その時円遊がいた下ばきを「すててこ」と呼ぶようになった。



風呂敷

物を包む四角い布。物を包んで持ち運び、先方に届けた後は、小さく畳んで持ち帰れるので、現在でも携帯用具として、その便利さが見直されている。

元々は、風呂の脱衣場に敷いて使ったもの。銭湯に行くときは、まず入浴用具を包んで行き、脱いだ衣服を包んで棚などに置く。そして風呂から上がった後、脱衣場の足下に敷いて、バスマットのように濡れた足を拭きながら衣服を着る。そしてまた風呂の用具を包んで持ち帰る・・・というのも風呂に敷くから「風呂敷」といった。



お茶の子さいさい

さいさい「そんなのお茶の子さいさい」とは、今でもよく使われる言葉。「簡単、簡単、朝飯前さ」という意味である。

「お茶の子」とはお茶うけに出される菓子のこと。仏前に供える餅も「茶の子」といい、農家で朝飯前の一仕事

のときに食べるものという。要するに簡単にたべる軽い食べ物ということで、そこから「簡単」「朝飯前のこと」という意味である。「さいさい」は俗謡の「んこさいさい」をもじったものである。



とんちんかん

息の合った鍛冶職人同士が金床の上で鐵を打ち合うと、「トンカン」「トンカン」とリズムよく鳴り響く。そこに経験の浅い弟子が入り、不慣れな槌を振るうと、途端にリズムが崩れ、「トンチンカン」「トンチンカン」と音がそろわなくなる。ここから転じて、ちぐはぐなことや訳のわからないことを意味するようになった。

漢字では「頓珍漢」と書くが、これは当て字である。

なお、鍛冶職人の師が槌を打つ合間に弟子が槌を打つことを「相槌」といい、そこから「相槌を打つ」、つまり相手の問いに答えるとか、相手の話に合わせるという言葉が生まれた。



(娑婆) しやば

自由に心行くまでということから遊郭を「浄土」と見立て、廊の外の世界を娑婆とよんだ。

サンスクリット語の「Saha」（サハー）の音を漢字にしたもの。煩惱と苦しみの俗世を、自由のない娑婆世界とした。仏教用語で「忍耐」を意味する。



神社の「狛犬」は、犬ではない!?

神社の入口に番犬のように座っている狛犬。狛犬というくらいだから、犬の仲間かと思いきや、実はライオンである。

発端は古代オリエント。当時、動物は信仰の対象になることが多かったが、なかでも百獣の王・ライオンは人々の心をとらえ、神殿の彫刻や石像に使われることが多かった。

この「ライオン信仰」が、エジプトに渡ったのがスフィンクス。また、インド、中国に渡り、仏教と結びついて

生まれたのが、唐獅子である。日本には朝鮮半島を経由して六世紀に渡来してきたといわれているが、唐獅子など見たことがない日本人はこれを犬だと考えた。

そして、朝鮮半島を収めていた高麗

(当時は「こま」と呼んだ)の犬、すなわち高麗(狛)犬と呼んだ。ただし、中国の唐獅子はチャウチャウがモデルとする説もあり、そうになると、日本の狛犬はやつぱり犬ということになるのだが。



礼砲は、なぜ21発と決まっているのか?



外国の元首を国賓として迎える時、歓迎式典では、21発の礼砲を撃つというのが国際的な外交儀礼である。なぜ、21発なのかというと、西洋では3は幸運を表す数。更にラッキィセブンという言葉もあるように7は神聖な数。その二つを掛け合せたのが21で、この21

という数は二重の意味で縁起がいいというわけである。ちなみに、なぜ、礼砲などという物騒な方法なのかというと、これは一種の悪魔祓いの意味。

大きな音で、悪魔を退散させてしまうというわけだ。

お転婆(おてんば)

若い娘が慎みに欠ける程に活発に行動すること。「うちの娘は気だてはいいんだが、お転婆で困る」といった言い方をする。

跳ね返り娘を「お転婆」という語源は、宿駅(街道の荷物の中継所)で待機する御天馬(公用馬)には駿馬が多く、いつも元気が良く跳ね回っていたから、という説が一つ。また機敏なさまをいう「てばしこし」「てばかし」という意味があり、この「てば」が「てんば」になり、

接頭語の「お」がついたものともいわれる。同じ江戸時代の「おきゃん」「おちゃっぴい」も、お転婆の要素を含む。



袖にする



無視する、おろそかにする、ないがしろにする、すげなくするの意で、相手が嫌い、相手を振るというニュアンスで使われる。袖は身ごろにたいして付属物であるため、おろ

そか、ないがしろの意でもちいられるようになった。

袖から生まれた言葉は多く、「袖の下」「無い袖は振れぬ」「袖にすぎる」「袖振り合うも多生の縁」などが良く知られている。

「袖振る」ということばがある。昔は袖も口ほどに物を言い、内面の思いを袖に託して表現することが多かった。恋人に「振られた」「振った」という言葉もこれが語源。

あがく

馬が前足で地面を掻くようにするしぐさ。これは「前掻き」といって、喉の渇きや空腹を覚えて水や食べ物を

ねだったり、疝痛を訴えたりするときの仕草だそうである。

「あがく」は、もともと、この「前掻き」の仕草を意味する言葉だった。「あがく」は漢字で「足掻く」と書く。読んで字のごとく、足で地面を掻くという意味である。

馬が地面を掻く姿はいかにもらだたしげで、また苦しそうでもある。

そこから、自由になろうとがく、じたばたするとう意味で、「あがく」という意味が用いられるようになったのである。



土壇場

① 近世、首切りの刑を行うために築いた土の壇、土壇（どたん）

② 決断を迫られる、最後の場面。進退きわまつた状態。「ーで話がひっくり返る」「ーに立たされる」



へま

① 気の利かない事。間の抜けていること。又その様。「へまな奴」「へまな応答」
② 手抜きをする事。処置を誤ること。失敗「とんだーをやる」



あと書き

思いつくまま気づくまま、面白いと思われた題材をメモして置き、広辞林、新聞、雑誌、単行本、等を参考にして更にパソコンで調査し、メモしたものです。

皆様ご承知の事も多いと存じますが、御笑納いただければ幸いと存じます。

鬼の攪乱

「かく乱」とは「霍乱」と言い、昔でいうところの「嘔吐を伴う病気」日射病や熱射病。腹痛や下痢といった病気が一般的である。普段は健康で全然病気などは無さそうな人が急に悪くなることを言う。



定点観測『この素晴らしき朝日かな』②

平塚共済病院 院長 丹羽 明博

昨年の『孟宗』に投稿した同じタイトルで続編を書いてみることにした。相変わらずのマンション6階のベランダからの定点観測であるが、前回と同じ印象の写真ではない。変えたのは撮影装置が携帯電話から、極めて単純なデジカメに変わったことくらいであろうか。画質の違いは私には鑑別できないが、携帯時代は撮影画像をパソコンに転送すると高い料金がかかっていたが、今はそれがなくなっただけで携帯料金を気にすることはなくなり、以前より気軽にシャッターを押している。

雨の日や曇天以外には東の空を見る癖がついた。冬は暖かい部屋から朝日を覗うことが出来るが、夏は玄関から出てマンションの東の端まで行って朝日に挨拶するようになった。朝のわずかな幸せを感じるひとときである。こんなにも太陽の出る位置が違うのかと改めて感じ入っている。やっぱり昇る朝日の顔は良い、飽きない。雲がなくても素晴らしいし、あればあったで雲の種類や厚さによって全く別な世界を作り上げてくれる。年を取って

目覚めが早くなって良かったと感じる時である。

今回の三枚は2012年秋の院内文化祭で出展したものである。①は朝日が顔を出す直前の何ともいえない空の美しさ、雲の絶妙な色調に思わず見とれてしまった、②は朝日が出きった瞬間で、快晴の朝の空で強く「俺は太陽だ!」と主張しているのではなく、雲の薄いベールに包まれて控えめに顔を出してみたという、古い日本人の性質を思い出させる一枚、③は上下を雲に挟まれて、その隙間から鋭いビーム光線を地球に投げ入れている一枚である。

相変わらず同じ写真はないし、相変わらず楽しく気分も晴れやかにしてくれる。朝日は良いな。今年の平塚で、今年の日本で、今年の世界で、人を晴れやかにする出来事が多く起こることを期待したい。



『葛城古道を歩く』

白石 龍二

もうかれこれ40年前の話になる。大学入試では世界史を選
択したが、日本史が嫌いな訳ではなかったし、特に奈良時代
を中心とした古代史は好きであった。2年間の浪人生活で鬱
屈した気分を晴らすように、バイト代がはいると、3週間ほ
ど奈良旅行をした。

大垣行の普通列車に横浜から夕方に乗り、しだいに乗客が
減り、前の席が空くと足を伸ばした。しかし、お尻の痛さは
辛く座って寝てられず、丸まって横寝して一晚過ごした。朝
になると、豊田あたりで通勤通学の乗客が入ってきて白い目
でみられながら眼を覚ました。

大垣駅で顔を洗い、在来線で京都そして奈良へ乗り継いだ。
往復を普通列車とし、旅行先で周遊券の学割を使い、ユース
ホステルで宿泊すれば3週間で25,000〜30,000円
で十分であった。奈良での移動は徒歩かヒッチハイクをし、

よく軽トラックの荷台にのせてもらった。このようなことを
医進課程の2年間で奈良（佐保、三輪、初瀬、明日香、斑鳩）
に5回いった。ほかにも出雲、津軽・下北、返還後の小笠原
にも2〜3週かけていった。この頃はキャラバンシューズを
履き1日20〜30kmは歩いた。大学を卒業し、外科医になり
結婚し子供も生まれた。1回目に平塚共済病院に2年間勤務
したとき、車で家族旅行をした。当時は4駆のハイラックス
にのっていた。伊良湖岬より鳥羽へカーフェリーで渡り、熊
野、那智へ、そして北上し奈良にも行った。その後、奈良は
訪れていない。

2回目に平塚共済病院にきて20年過ぎて、永年勤続により
共済病院本部から宿泊保養施設の利用券を昨年もらった。そ
の有効期限が切れるギリギリで、夏休みの残りを使って今年
10月初めに奈良に4泊5日で出かけた。行き先は、長い間あ
たたため懂れていた、まだ訪れたことのない葛城と平群であ
る。9月の間は、病院から帰るとネットで地図を開き何度も
シミュレーションし、道々の神社仏閣、遺跡を調べた。航空
写真もみていたので地形もほぼ頭に思い描けていた。

9月30日（日）

04…30 自宅を出る、平塚駅までは妻が送ってくれた。

07…00 のぞみで小田原出発

白洲正子の「かくれ里」、上野 誠の「万葉びとの奈良」、
近江俊秀の「道が語る日本古代史」を携え車内で読み返す。
ときどき見やる車窓からの眺めは素晴らしく、駿河湾、遠州
灘、浜名湖、三河湾と過ぎてゆく。今日は台風17号が近付
いており、夜半には近畿地方を通過し、明日は晴天に恵まれ
るはずだ。

09…10 京都で下車し奈良線に乗り換え10…30に奈良に着く。

もう雨が降り始めていたが、奈良に着いた途端、土地が持つ
ている不思議なパワーを体を感じる。大和国だ！。40年前の
感覚が鮮やかに蘇り、ああ俺はこの感覚に魅かれて5回も奈
良に来たんだと気づいた。軽い昼食をとり、バスにのり、K
R奈良みかさ荘に11…30に到着した。ここは奈良公園の傍
らにあり、志賀直哉の住宅の近くであった。ここは、かつて
通った道であった。彼は好きな作家で、その作品はほとんど
読んだ。揃えてあった文庫本は、何回かの転居のすえ処分し、
もう無い。今日の宿泊するところがここにあるとは。部屋は
2階の（飛鳥）を選ぶ。建物は古いがこざいいで、くつろげ
た。ゆつくり風呂に入る。夕食は1階の（高円…たかまど）
で、他に老夫婦2組と、男性の友人らしき1組がおもいおも

いの団欒をとった。何日か連泊しているようで、「今日は雨
で予定のところは回り切れなかった。」などと聞こえてくる。
こちらはひとりで、ガラス戸の外の日本庭園を見つつ、ビー
ル1本、日本酒1本を空けていた。嬉しいことに、食事もお
酒も利用券を使用できるとのことである。部屋に戻ると、今
後の計画を頭にいれた。今回、訪れるのは葛城（かつらぎ）、
平群（へぐり）いづれも大和時代の磐余・三輪に先行して
開けた土地であり、豪族名でもある。

10月1日（月）

07…30 粥を主とした朝食をとり、08…00に出発

見上げると、台風一過、期待通りいい天気である。宿のす
ぐ隣で、小鹿が木の実を食んでいた。公園内を抜け、春日大
社の参道をくだる。遠くに生駒山、二上山、葛城山がみえる。
ふりかえると三笠山から若草山がみえる。【倭は国のまほろ
ば、たたなづく青垣、山隠もれる倭しうるわし】ヤマトタケ
ルの望郷の歌を口ずさみつつJR奈良駅まで歩く。

09…39 万葉まほろば線にのり、奈良駅を出発。2両編成
のワンマン列車で南へ向かった。

むかしは、この線と併走する山辺の道を幾度となく歩いた。
同じ頃、津軽旅行のとき五能線にのり十二湖駅でおり、文字

通り12の湖を徒歩で廻った。いまでは知られるようになった白神山地である。美しい湖をみ、また日本海に沈む夕日を眺めた。駅は無人駅で他に誰もいなかった。あの時は1両編成の列車で、海岸ぎりぎりを走った。あの頃の記憶が唐突に鮮やかによみがえった。そんなことを思い出しながら窓外を見ていると左手に三輪山が見えてきた。近年、話題をさらっている纏向遺跡はこのあたりだ。桜井駅を過ぎると列車は西に方向を変えた。磐余、真神原、藤原と古名を思い描きながら進むと左に天香具山、右に耳成山、左に畝傍山がみえてきた。大和三山の間を縫って、高田を経て、列車は南へ向かった。終点は紀氏の本拠地の和歌山である。

10・30 北宇智にて下車する。さきほどまでいい天気だったのに金剛山周辺の山頂はにわか雲が出てきた。せっかくここまできたのに隠すつもりか。ルートはすでに頭にはいつている。まずは風の森峠をめざす。山々の中腹寄りの道を北上する。登り道でややきつかった。ここは分水嶺でもあり葛城川は北上し大和川に注ぐ。

12・00 付近の民家のご老人に聞き風の森神社に着く。ちいさな祠でありしかもお寺の裏にあり気づきにくい。実は葛城（かつらぎ）には、もう一つの呼び名があり、風猛（かざらぎ）で、風の通り道でこの神社には風の神様シナツヒコが祭られている。この周辺から鉄滓が見つかり製鉄が行われていたようだ。その作業には韃（ふいご）で強い風を送り込む必要が

ある明神大社とされている。全国に高天原の候補地は多くあるが、平野が少なくかつて原始林に被われた日本であるならば、このような地理的条件を満たすところは随所にあり当然であろう。山を下り古道にもどる。さらに北上し青旗（あおはた）の葛城山の麓の一言主神社をめざす。自販機をみつけ水分を取るが、食事処、コンビニではなく昼ごはんぬきで歩き続ける。前方の眼下に奈良盆地の南西部がみえてきた。その向こうの北東に三笠山、若草山、南東に大和三山がみえる。振り返れば、吉野、熊野、紀伊の山々。素晴らしいパノラマ風景である。葛城の出身であり、山麓で修業した役の小角は鬼を使役して葛城山から吉野の金剛山へ大きな岩橋を架けたという。なんと雄大な話であろう。しかし、この景色をみれば想像するに難くない。この辺りは奈良周辺では最初に稲作が開始されらしい。金剛山、葛城山に降った雨は勾配が変化する丘陵地帯で豊富な水をもたらしたであろう。当時は奈良盆地は湿地帯であり手を加えなければ稲作はまだ無理であったろう。南郷遺跡・長柄遺跡の発掘は紀の川に沿って朝鮮半島よりの文物、渡来人の流入を物語っている。葛城古道はそのルートであり葛城氏が支配・独占し、その実力は天皇家をも俊駕した。すこしづつ高度を下げながら歩き続け、左に折れ、松並木の参道を抜け一言主神社に着いた。石段を登り切り社殿の前に行くと、近在の人が5人ぐらいで循環しながら祝詞？を唱えながら礼拝していた。彼らは、社殿の前

あり、ここで風神が祀られる理由であろう。仏教が伝わる前であるから、当然この神社のほうが古いのである。わたしは、この呼び方の方が好きである。あたりは次第に晴れてきて山頂もみえはじめた。鴨神と呼ばれる領域にはいり、その中心の高鴨神社に着く。祭神は、鴨氏の祖先神であるアジスキタカヒコネである。鳥居から社殿石段までの間に美しい放生池があり常に水が湧いているようだ。この神域の森は特に保存されており古代からそのままなのであろう。実は京都にある上加茂神社、下鴨神社はこの神社から遷座されたものだ。しだいに高度を上げて、高天彦神社をめざす。途中で遠くを見やると紀州、吉野その向こうの熊野の山々が薄い青、濃い青、郡青、紫が幾重にも見え素晴らしい。いま登って来た手前の丘陵は秋の気配をふくみ心地よい。この辺りは朝妻の集落でそれより下がったところはおかつて高尾張と呼ばれ、尾張氏の本拠地だったという説もある。

車の通れる道からはずれば本来の参道にはいる。急峻な道のぼると額から玉のような汗が噴出し始め、息切れがするようになる。最近の運動不足が後悔された。手前の山を登り終えると少し下り始める。こんなところにも人が住んでいるんだ。高天の集落である。林立した杉並木のなかに神さびた高天彦神社の鳥居と社がみえた。ここは、名前の通り記紀神話の高天原（たかまがはら）と江戸の初期頃まで信じられていた。祭神はタカミムスビノミコトで延喜式では最高の社格で

後にある樹齢1200年の巨大な乳銀杏と周囲の森に融け込み自然のうちにあった。21世紀にあつて、このような信仰の姿をみて深い感銘をうけた。横道から山の縁に沿って歩くと高宮跡に着いた。実はここが来てみたかったところでもある。

葛城襲津彦の娘で仁徳天皇（16代）の皇后である磐之姫が詠んだ望郷の歌に【つぎねふや 山代河を 宮上り わが上 がれば あおによし 奈良をすぎ 小楯 倭をすぎ わが見が欲し国は 葛城高宮 吾家のあたり】とある。彼女の帰りがかった所は、まさしく葛城の自然なのだ。今日、わたしがあててきた道のあたりなのである。だが、彼女の墓はここにはない。雄略天皇（21代）と一言主との物語は有名であるが、この頃に葛城氏は滅ぼされてしまう。しばらく歩くと九品寺にでた。行基が開き、空海が平安初期に戒那千坊という大寺院を創建した。その多くは失われたが九品寺はその中のひとつである。「かくれ里」にこの寺の庫裏からの眺望が絶賛されていた。入ることができないが、どう見てもその前に木々が生い茂り眼下にいい景色がみえるとは思えなかった。白洲さんがこの地へ来てから45年ぐらい経っており、変わってしまったのかもしれない。山門をでて左の方へ上がっていくと、煙草を燻らしながら三脚を据えてカメラをかまえている人がいた。車を止めて、一日いて気に入った瞬間がみえたら撮るという風であった。もう15・30であり、JR御所駅を目指さなければならなかった。眼下に見える御所市には、秋津とい

う土地もあり、日本を表す秋津島の名の起こりとされる。またヤマトタケルの白鳥稜もある。景行天皇（12代…稜は天理にある）の子とされるが、なぜここにあるのだろうか。彼は倭に至らずに死ぬに及んであの望郷の歌を残したのだ。死後、八尋の白鳥になって西を目指したという。本当に景行天皇の子であったのだろうか。16…30の王子行に間に合った。17…30に奈良につきバスにのりつき18…15に宿についた。昨日の台風の影響で、他の宿泊予定者はキャンセルとなり今日はひとりであった。今日の葛城川領域の眺めを思い出しながら、明日の龍田川の流れに沿って歩く平群を頭に描きつつ夕餉をとった。昼は食べていないのでおいしさもひとしおで、日本酒、焼酎をすこしづつ飲み、至福のひとつであった。久しぶりに長い距離を歩き、しかもアップダウンがあったので程良い疲れのうちに熟睡した。

10月2日（火）07…30に朝食をとり、08…00には宿をでた。

朝靄が少し残る春日大社参道を下り奈良駅に着く。JR王子駅で下車し、近鉄生駒線の新王子駅に移動する。左に信貴山を正面に生駒山をみつ、やがて元山上口駅で降りる。雲ひとつない晴天で暑いぐらいである。遠くに昨日廻った葛城山麓が陽光を浴び輝いていて、眼下に王子町をみつ、平群町をくだる。これといった史跡はあまりなく訪れるひともしない。生駒山は物部氏の祖先とされるニギハヤヒノミコトが天

猿楽四座のひとつ板戸座の発祥の地で、能楽金剛流の源流になったことが書かれていた。古代より俳優人（わざおぎびと）の系譜がこの土地にはあったのであろうか。

龍田川から富雄川の領域はトミノナガスネヒコの本拠地で、その妹とニギハヤヒは結婚したようだ。ニギハヤヒを祭る神社は河内の方にもあり、そこから大和に入ってきて在来のナガスネヒコと手を結んだのであろう。いまそのルートを辿ってきたのだ。

近鉄新王子駅にもどり列車で移動し近鉄西大寺駅に14…00ごろ着く。

東に向かい平城京の中心である平城宮跡につく。（奈良駅は東の外れにすぎない）さきほどまで王子、斑鳩、西大寺の開発を目的にみても、愕然としていた。奈良市の中心に広大な土地開発がされずに残っているのを見て驚き、奈良びとの決断に感謝した。

資料館で奈良文化財研究所の最近の発掘事情を見聞きし、ゆつくりと巡った。朱雀門をはるかにみて、南の方角を確認する。今日は雲ひとつなく晴天で、東に三笠山、春日大社のあたりから三輪山、南の吉野の山々、葛城山、二上山、西の生駒山、北の那羅山と、ぐるっと360。みわたせる。遷都1300年を記念して建てられた大極殿にのぼる。また、360。の眺望。

かつて訪れたのは佐保川、初瀬川、飛鳥川の領域にそった

磐船（天磐楠船、天鳥船とも云われる神）ののって舞い降りた哮峯（イカルガノミネ）といわれている。斑鳩をイカルガと読むのはこのことに発している。この天鳥船の名に魅かれ大学に入ってから随分、民俗学の書籍を読んだ。ヤマトタケルが詠んだ豊薦（たたみこも）平群の山であり、葛城より小さめだが水量が豊富で稲作が盛んで、葛城氏のと台頭した平群氏の本拠地である。平群氏は武烈天皇（25代）のとき滅ぼされてしまう。【からくれないに水くくるとは】と後世に歌われた龍田川の流れの右岸に沿って歩く。やがて瀧田公園になり、ここはさすがに人気のある場所のようで、両岸から川床近くまでおりて休憩できるように整備されていた。龍田大橋を左に渡り、龍田神社に入る。ここは、風の神である龍田比古、龍田比名の男女二人神を祭っている。龍田彦は風の森神社にいたあのシナツヒコである。シナとは（息が長い）という意味である。

社殿の前では60代半ばぐらいの夫婦が立位で大きな声で祝詞をあげていた。ふたりで交互に詠唱するようで15分ぐらいつづいた。信仰が息づいているのに驚かされ、昨日の一言主神社での光景を思い出した。万葉集のなかに平群の乞喰人（ほかいびと）が、鹿や蟹の立場に立ってわが身に起こることを縷々訴える歌がある。おそらく家々の前で身ぶり手ぶりで縁起しながら面白おかしく歌い、寿ぎ（ことほぎ）し食べ物を得ていたのだろうかとされている。この境内には中世の大和

あおによし奈良、うまさかの三輪、こもりくの初瀬、飛ぶ鳥の明日香、と奈良盆地の東側であった。今回、訪れたのは葛城川、龍田川、富雄川の領域に沿った、あおはたの葛城、豊薦の平群、斑鳩の哮と奈良盆地の西側であった。

歴史をさかのぼる旅であったなど感じつつ歩いているうちに、自分自身の階段を過去に下がっていることに思い至った。一段ごとのかつての記憶は失われずに残っていた。ああ人間の脳はこれほどまでに記憶を保持しているのか。そんなことを思い浮かべながら大極殿の階段を下り、北へ歩いた。平城天皇稜（51代）の東をぬけ水上池のほとりについた。もう気温は下がりはじめ、秋の気配が急に忍び寄ってきていた。池の中央の浅瀬に白鷺が一羽たっていた。ナガスネヒコの長脰はシラトリの長い足に通じ、ヤマトタケルではないかという説もある。ほどなく、磐之姫命稜についた。彼女は葛城に帰ることなく京田辺市の筒木宮で亡くなり、この地に葬られている。あれほどの望郷の歌を残した彼女は、仁徳天皇への相聞歌を四首残している。嫉妬深い女人の代表のように言われているが、彼女が拒んだのは息長氏出の八田皇女だけのだ。筒木宮から那羅山あたりは木津川沿いで息長氏の勢力範囲であり、その牽制のための極めて政治的な行動であり、仁徳への愛情は相聞歌に溢れているという意見もある。彼女のこども3人は天皇となるのである。新大宮駅まで歩き、近鉄奈良駅に着く。また宿まで歩いた。長い距離歩くのは2日目

のせいか、体が慣れてきてそれほど疲れなかった。ゆっくりお風呂に入り、夕食をとった。他に老夫婦、外人夫婦がいた。畳敷きで、座るのが難儀そうにしていた。夫の方は日本通のようで妻に説明していた。内容が日本のことなのでゆっくり喋っていて内容が聴き分けられた。和食も上手に食べていた。「飲み物は何にしますか?」と問われて「japanese sake」と答え「発泡する新しいタイプの日本酒です。」と宿の人が説明すると、「おおsparkling sake」と喜びの声をあげた。このような外国人夫婦に会えてうれしくなった。ここ二日はよい天気恵まれ今度の奈良旅行の目的は達成できた。その嬉しさを味わいつつ、きょうも日本酒、焼酎を一杯ずつ空けて部屋にもどった。翌10月3日(水)もよい天気であつたので、もう一泊することにした。近鉄西の京駅でおり、薬師寺、唐招提寺と秋篠川に沿って歩いた。この地は中学校の修学旅行以来で、足早にバス旅行で通つたにすぎなかつた。薬師寺では画家・平山郁夫の西城図を味わつた。唐招提寺では、寺院のなかを時間をかけて歩いて、その伽藍の大きさ、またその北側に広がる本坊、中興堂、御影堂の佇まいはすばらしく、また訪れたいと思つた。鑑真和上御廟はあることさえ知らなかつた。中学から高校にかけては、井上靖の「天平の甕」がきつかけになり西城物をよく読み、数少ない写真でイメージを膨らまし、シルクロードにあこがれた。結婚した頃、NHKでシルクロードの取材報道

『秋の京都 プチ散歩』

久保田 亘

関ヶ原を過ぎ車窓から西の方角に眼をやると、琵琶湖が広がりにさらに比叡山の山並みが眼に留まる。十一月ではまだ山頂に雪の気配はないが、冬の訪れが感じられる。比叡山から東へ連なる五百メートル級の山並みを越えなければ京都には入れない。滋賀県から京都に入るには主に四つの経路がある。湖北から鯖街道を通り大原へ抜ける国道367号(途中越え)、近江神宮より山中町を越えて北白川に降りる山中越え、瀬田川べりを走り宇治に抜ける宇治川ライン、そして「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関 蟬丸」と詠まれた国道一号である。学生時代はいろいろな経路で京都へ出かけたが電車を利用すればわずか十数分で京都へ入る。しかしあの山並みを越えるのが戦国時代、天下を統一するためにも大変だったのである。

昨年一月に卒後三十年の同窓会が琵琶湖畔であり懐かしい顔ぶれと再会した。皆それぞれ研究職、病院勤務、地域医療といういろいろな方面で活躍しており、昔話に大いに花が咲いて時の経つのも忘れてしまった。翌日は久しぶりに京都在住の恩師と昼食を共にした。そこで「京都の紅葉は燃えるような美しさで、特に天龍寺や高台寺、嵐山などは本当に素晴らし

がはじまり、喜太郎のLPをよく聞いた。俺はそんなことさえ忘れてしまっていた。外科医として勤務医でありつづける日常に完全に埋没していた。そんなことを思いながら秋篠川をさかのぼり秋篠寺に着いた。ここは初めて訪れた。奈良末期に建立されたが、平安末期に本堂は焼失し鎌倉時代に再建された。金堂の中は薄暗くひんやりとした空気の中に仏像が佇んでいた。奈良にありながら平安の趣のある寺で、西行も和歌を残している。

【秋篠や外山の里や時雨らむ生駒の岳に雲のかかれる】

この日はゆっくり秋の奈良を楽しみながら歩いた。この日の夜も、昨夜と同じ面々であつた。今回の奈良旅行を思い返しながら、記憶の階段をたどりながら、また日本酒と焼酎を2杯づつ空けた。次の朝、雨天であつた。奈良には雨は似合わない。朝食後、荷物をまとめると相模国への帰途についた。

い」と絶賛され、一度はその時期に訪れることを勧められた。しかし日々はなかなか時間が作れず、京都の紅葉をテレビのコマーシャルで見る程度であつた。そんな折、大河ドラマ「清盛」を見ているうちに、平安末期の貴族政治に変革がもたらされた「都」を訪れ、是非見事な紅葉を愛でたいと思うようになった。

*

昨年十一月二十五日、朝早く京都駅からバスに乗り銀閣寺前で降りた。京都の朝は殊のほか寒く身に染みた。この時期



写真①

で最低気温三度であつた。銀閣寺垣と呼ばれる竹垣と白砂の調和が凜とした参道を抜けると、観音殿と鮮やかな紅葉、さらに苔の緑の絨毯が眼に飛び込んできた。波紋を表現した銀沙灘と白砂の富士山型の向月台は江戸時代に作られたと言われているが、

東山文化の代表的な趣である（写真①）。境内を散策し展望所から全景を臨んだが、背後は月待山を有する東山の山々である。銀閣寺を後に南北に流れる疎水に沿った哲学の道を南に歩く。やや紅葉はピークを越えた所もあったが京都らしい風情がある。学生時代は淡い恋を感じながら歩いたこともあったが、今は京都の歴史の深さに驚くばかりである。途中、有名な老舗「叶匠寿庵」の和菓子を片手にしばらく歩いてゆくと、連休の最中のためか多くの人が波のように押し寄せて



写真②

大変な賑わいになった。われわれは人の波から外れ東山の山麓の方に向かった。この辺りに俊寛僧都の山荘があったと云う（写真②）。平家追い落しの陰謀が練られた所謂「鹿ヶ谷の陰謀」の場所である。これは一一七七年、強大な力を身に付けていく平清盛に対して後白河法皇が強い不安を感じ、側近の藤原成親、

師光らが平家を打倒するための謀議をこらした事件であった。しかし結局行綱の密告により未遂に終わり、清盛は師光を斬り、藤原成親を備中の国へ、成親の子成経と俊寛、平康頼を鬼界島に流した。さらに法皇にも厳罰を以て処したかったが、長男重盛は「忠ならんと欲すれば功ならず、孝成らんと欲すれば忠ならず」と涙を流しながら父清盛を説得したという。感動的なドラマの場面を思い浮かべながら急斜面の坂を十五分程登ると、鬱蒼とした木々の間に山荘への道跡があり、ここよりさらに一時間程山に入ると山荘跡があるという。軽装だったためここで断念したが、この場所では歴史を変える事件があったと思うと心が躍るようであった。山の高台から京都市内が一望できる。山並みの紅葉も鮮やかだ。これは盆地特有の寒暖差によるものである。時代とともに変わる京都を想像するとその美しさも違って映るようになる。また新しい発見ができた。

東山から南方へ下り、七条通りへ向かった。三十三間堂に隣接して法住寺がある。ここは「天下の犬」と頼朝に言わせた後白河法皇の院政の拠点「法住寺殿」があったとされる所である。清盛の出世、平家の滅亡、源氏の台頭を間近に見てきた法皇はその御陵に眠っている。観光客で賑わう三十三間堂の喧騒と対照的にひっそりとした晩秋の佇まいであった。

平成二十五年 一月

紀行

菩提峠から三ノ塔へ

第3回 平塚市医師会ウオーキング大会

平成24年5月13日（日）

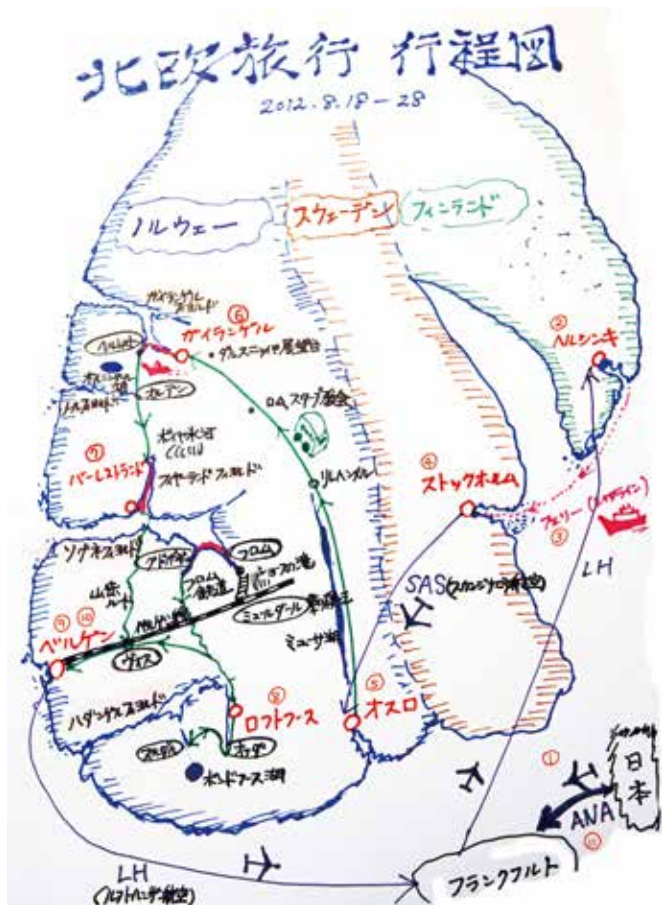
武川慶孝

昨年の大山登山の際、頂上から西の方角に見えた二つの峰、それが二の塔、三の塔である。今回は、そこを目指す。

当日は、数日前からの雨もあがり、快晴とはいかぬまでも晴。午前7時に、保健センターに集合し、神奈中のマイクロバスで、いざ出発。この小型バスは小回りがきいて、ヤビツ峠から降りてくる神奈中の大型バスとも、ギリギリで擦れ違いながら、ヤビツ峠を越えて菩提峠まで運んでくれた。これでヤビツ峠からの片道1時間強の行程がなくなり、時間的には十分な余裕が取れた。

入山前のストレッチングを軽くすませ、林の道をゆっくりと登る。そのうち、雨の直後なら確実に滑落するであろう赤土の斜面に出た。ここで、荒井副会長がしっかりとザイル





猛暑の続く8月の日本を離れて北欧へ旅行してきました。「今度の旅行はどうでしたか？」と帰国後はよく聞かれますが、一言で答えると、「予想外に涼しく、物価が高く、景色が綺麗だった」となるでしょう。

今回の旅行記は8編目になりますが、きつかけとなった孟

北欧フィヨルドの旅

中村 千里



を取出し、高野家の三人の女性（2人は子供）の腰を確保する。実は2日前に、彼は同じ道を歩き、危ない滑る斜面を確認し、ザイルでの滑落防止に及んだ訳である。これも、山男の責任感というものであろう。

二の塔までは稜線状の林の登りを黙々と歩き、眺望の開けた場所ですと休み。道端の樹木も初々しく、まさににもえぎ色の春である。こんなにノンビリと、春を楽しめるのも、マイクロバスのおかげだ。大山も同じだが頂上近くなると、いづこもきつい。皆、体力は残っているの

り、更に直線状に頂上に向かっていく。バテバテの時は一番見たくない景色である。しかし、当パーティーはバスのおかげで余力十分。最後の階段状の坂も、しつかり歩いて三の塔に着。大山と異なり、人影も少なく、木製のベンチも準備されていて、休憩には最適だ。昼食は休診事務の遠藤さんと一緒にになり、自家製のかりんとう等を戴く。

近くに地藏さんがあると聞き、200メートル程行くと、三の塔尾根の分岐点に小さい地藏さんが立っていた。赤い帽子に赤いマントでくるまれのかわいらしい。三の塔尾根で亡くなられた人がいたのかも？

帰路は二の塔を過ぎてからは歩きやすい下りで、山道を楽しみながら菩提峠へ。更に、かのマイクロバスに乗り込んで、一路秦野へ。運転もさすがにプロでうまいものだ。ただ、すべてが順調で時間が余り、盛さんと相談して、震生湖まで車を回してもらおう。車を降り、下へ下へとかなり歩いてたどりついた震生湖は、暗い大きな池の感じで、悪いけど印象に残るものなし。

今回のウォーキング大会は、マイクロバスのお蔭で、非常に効率的な軽登山になった。車の通る道を登山靴で歩くほど空しいものはないと、小生は感じている。今後は、マイクロバスを上手に使った、軽登山レベルのウォーキングが、ベストであると思われる。

宗への投稿は3編目になります。少しでも一緒に旅を味わってもらうには、私の言葉では足りないので写真を増やしてみました。老眼にはもっと大きくしたいのですが、ものには限度があるので仕方なし。

旅行の全行程はイラストにまとめておきましたのでご参照下さい。今回もANAツアーにお世話になり、我々夫婦の他は5人家族と添乗員含めて8名で行動します。

「ヘルシンキ」第2日目

恒例の朝の散歩から始まります。国会議事堂、中央駅、国立劇場、アテネウム美術館と建物だけは写真に納めておきました。この街のイメージはオリピックしかありませんでしたが、現地に来ると毎回新しいことを教えられます。北欧は福祉の国であるとは知られたことですが、その代わりに物価が非常に高いと知りました。物品によつての違いはありますが、消費税が20%、30%近いこともあって大体物価は日本の1.5倍はあります。学費は小学校から大学まで無料で、18歳で成人となります。職業に就くには資格を要することが多く、そのため年離れた大学生が多いとのこと。もちろん男女同権なので男女ともまず仕事に就きます。市街地には高さ制限があるので高い建物は大体教会のようです。水道水を飲めるのはありがたいことでした。



船室の冷蔵庫内もご自由にどうぞとは嬉しいことです。でも、シャワーを浴びて寝てしまいましたよ。旅の序盤から疲れては困りますからね！と言うよりも、夜明けの海を是非とも写真に撮りたいので寝過ぎすわけにはいきませんから。大型船だけあって振動もほとんど感じませんし静かなのでよく眠れます。フィンランドとスウェーデンはお隣であっても時差が1時間あり、通貨もユーロとスウェーデンクローネ（SEK）と微妙に異なります。1ユーロ＝約100円弱、1SEK＝15円強でノルウェークローネ（NOK）もほぼ15円強と同じくらいです。

朝の4時過ぎから起床のタイミングを図っていました。5時には海上も明るくなってきたようなので階上のデッキにカメラを持って上がりました。「ブルツ」とくるような寒さを感じます。すでにデッキには数十人のカメラマンが控えてい



展示潜水艦



至近通過のシンフォニー号



テンペリアウキオ教会



ヘルシンキ大聖堂

さて、最初の観光は港から観光フェリーで15分程沖合にあるスオメンリンナ島からで、1991年に世界遺産に登録されています。ここにはフィンランドの南海岸を守る要塞の遺構が残され大砲や砲台が残っていますが、今では市民の憩いの場として活用されているようで様々な催しが行われています。第二次世界大戦中に実際に使われた潜水艦の展示もありました。それよりも島のすぐ傍を巨大な客船がすーと通り

過ぎたのが驚きかも知れません。水深がすごく深いのでしょうか！

次に向かった所は、岩山をくり抜いて造ったテンペリアウキオ教会で内部は岩肌を生かした独特の雰囲気醸しだしていて地下室のようでもあります。あの手く光を取り入れてとても教会とは思えません。反対に、ヘルシンキ大聖堂は堂々と地上に聳えた巨大な建造物ですが内部には入りませんでした。

さてさて、今度のツアーの一つの目玉はヘルシンキとストックホルムを大型フェリーでクルーズすることで北欧旅行の定番にもなっているようです。あのスオメンリンナ島で横切った船に我々が乗船します。このシンフォニー号は全長203mで総トン数5万8400トン。乗客乗員合わせて3,000人以上を定期的に運んでいます。いつも乗客であふれるほど人気のある航路になります。専用の乗り場から15時半頃入船しました。船室は11階で屋上デッキが12階になります。7階がメインのフロントやカジノに商店街で、6階にはマキシムをはじめ数軒のレストランやスナック等一つの小さな町になっています。ツアーの食卓が指定されていたので5時からバイキング形式での夕食です。ここではビールもワインもアイスクリームもお代わり自由。いつのまにやら出航していました。

ましたが空は灰色の雲で覆われていました。じつと朝日が昇るのを待ちます。

一体どの辺に居るのかカーナビが無いのでわかりませんが、無数（28,000位？）の小さな島々の間を縫うように航行しており「バルト海は松島だ！」と感じます。双眼鏡で覗くと住人の生活ぶりがかかる至近距離をモーターボートでない巨大な客船が航行するなんてとても信じられません。日本最大の客船である飛鳥よりも大きい船舶が松島湾を遊覧するなんてあり得ませんからね。

7時にマキシムで朝食をとって船内でお買い物を少々。9時半に予定通り到着予定とのアナウンスが入り下船の準備にとりかかります。入船時に全員の写真撮影があり希望者が購入し



シリアラインのシンフォニー号



船内7階のメインフロア



ガムラ・スタンの王宮



ノーベル博物館



赤い馬（小）＝約3,000円

大聖堂



市中騎馬衛兵行進



ストックホルム湾からの展望



バイオ燃料バス

「ストックホルム」―第3日目―

北欧最大の都市のストックホルムにはスウェーデンの人口の約1／10が集まっており、「北の水の都」とも称され市街地は14の島で構成されているようです。実際には橋でつながれているために実感はありませんが、普通のサラリーマンの多くがモーターボートを持っているようなので「北欧のヴェ

ますが、指定の時間には出来上がっていました。北欧の人は結構時間に正確だとかにつけて感じましたよ！南欧州の人が今まであまりにも、、、決めつけてはいけなかったのですが！また、下船間際には中国人ツアー客の多さに驚きました。集団行動パターンや服装の柄にあの大声ですぐにわかってしまいます。例外もありますけどね！

を見張るもので非常に多くの観光客が押しかけていました。が、ここに来るまで私にはこの船に関する知識が全くなくて恥ずかしい！

欧州の街には旧市街地が必ずと言ってよい程残されていて中世の雰囲気や今に伝えています。ここストックホルムにもガムラ・スタンと呼ばれる旧市街の島があり王宮や大聖堂にノーベル博物館、ドイツ教会やリッダーホルム教会に大広場とひしめています。スウェーデンは立憲君主国でグスタフ国王が国事行為を行います、実際は象徴天皇と同じ象徴的な存在のようで、英国王室や日本の皇族とも親交が深いようです。したがって王族の結婚や王位の継承問題が話題になることも同様のようです。この王宮には国賓の方々招待されるのでさしずめ日本の皇居に相当するのでしょう。周辺には国会議事堂や国立美術館もありますが観光地としての重要性も土産の値段も高そうです。王宮警護に女性の衛兵がじーと立っていたのが印象的でした。男女同権ですから当然！

市庁舎の見学です。ここは何度もテレビで見たことがあつて知れたところ。ノーベル賞授賞式の会場としてあまりにも有名です。スカンジナビア半島は土が無く岩だらけと現地の人は嘆きます。確かに土を掘るとすぐに岩盤が出てくるのでノーベルがダイナマイトを発明したのは必要に迫られてのことだと納得。この市庁舎は現役ですから観光の見所と言うのもおかしい気もしますが、観光客が必ず訪れる必見の場



係留中のマイボート

車やフランス車、イタリア車も負けません。公共バスの屋根の上にはバイオ燃料のタンクが印象的。

観光に最初に向かったのは、現存する最古の完全船として有名な戦艦ヴァーサ号を展示する博物館です。1628年に処女航海に出た途端の20分程でストックホルム湾内に沈没し1961年に引き上げられましたが損傷が少なくほぼ完全な形で復元されました。特に船尾に施された彫刻の見事さは目



船尾の彫刻



ヴァーサ号

ニス」とも呼ばれるのでしよう。到着時の気温は18℃の快晴で夏期休暇を終えた人々が戻って車の渋滞も始まっています。車種はここでもドイツ車が目立ちますが地元のボルボもさすがに比率が高く日本



黄金の間

青の間



市庁舎南

所になっています。場所は中央駅のすぐ近くで、メーラレン湖に面しています。中に入って最初に案内されたのがノーベル賞受賞祝賀晩餐会会場の「青の間」です。しかし、放映される場面とは異なりテーブル等が一切ありません。晩餐会では1300人分の食事がここで提供されるのに、目の前はただただ赤レンガの壁で囲まれた大広間です。それでもノーベルのレリーフが壁にあることで窺うことが出来ました。2階に上がる階段は正装でも歩きやすい高さで広さにしてあるとのこと、決して下に降りないでくださいと念押しされました。この階段を降りる特権は受賞者だけに限られています。2階の「黄金の間」は受賞パーティーの舞踏会に使われますが、壁画に使われた金粉は10kg以上とのこと、1850万個もの金箔モザイクで飾られています。



ドロットニングホルム宮殿



メーラレン湖の散歩

吹き抜けのような造りに絵が描かれており、ヴァイキングルネッサンス様式と言う必見のものだそうです。

午後はメーラレン湖でつながっているドロットニングホルム宮殿へバスで向かいました。中心部より約10km離れた場所になります。北欧では全ての道で日中でも車は点灯する義務があるのでエンジンキーをまわすだけで点灯するようになっているそうです。市街地には自転車専用レーンが車道と歩道の間に整備されており、ここでは歩行者より自転車優先なので注意が必要とのこと。またストックホルム市街の排気汚染が進んだので車の乗り入れ制限を開始し、入ってくる車のナンバーをカメラで撮影して後日課金しますが季節や時間帯で無料の時もあるとのこと。

さて、このドロットニングホルム宮殿は1662年に着工

市議会の議場も見学ルートに入ります。議員定数の過半数は女性が占めており、国会議員も47%が女性とのこと。それでも比率は20年来の低さですから女性天国でしょう。男女とも最初の習い事は乗馬というのもお国柄でしょうか？

市議会の開催が通常夜間に開催されるのは、就業者が傍聴に来られる時間を選んだ末のことでした。この国も男女ともに働くのが当たり前なので、子どもは保育園で育ててもらい、食事は外食なのでレストランが非常に多いのが特徴になるようです。仕事に就くには高校や大学でその道を専攻しておく必要があるので転職のため年老いた大学生も増えるようです。学校は公立で7歳入学の3-3-3制、大学生の80%が奨学金をもらい18歳で独立して家を出て行くのが普通とのことでした。ちなみに定年は65歳の誕生日であとは年金生活になれるようです。さて、この議場の建造上の特徴は天井が



ヴァイキングルネッサンス様式の天井



市議会議場

され増改築を繰り返したバロック様式の宮殿で世界遺産にも登録されており、1981年より国王と家族の公式な住まいになっています。その広い庭園はヴェルサイユ宮殿のものを彷彿させる広大なものです。内部は一部公開されていますが写真撮影禁止だったので豪華なこと以外は思い出せませんよ！フエリーが市街地と約1時間で結んでいるようです。

ノーベル医学生理学賞の選考委員会がある王立カロリンスカ研究所は世界有数の医学研究機関ですが、バスの窓越しに見ただけでは普通のビルにしか見えませんし新病棟は建設中。これでスウェーデンの観光も終了です。そこで最後にスウェーデンで発明されたものを羅列しておきましょう。ダイナマイト、テトラパック、チャック、マッチ、冷蔵庫、スカイプ、錠前、水門、心臓ペースメーカー、ガンマナイフ、人工透析とはガイドさんの説明でした。

「オスロ」第4日目

今日はノルウェーに移動するので朝食代わりのランチボックスを渡され6時45分にホテルを出ました。30分程で空港に到着し免税の手続きを済ませてスカンジナビア航空SK845便に搭乗します。今回もLH機と同じ座席番号01Cなので駐機中はコク





「ハダンゲルの結婚式」



「叫び」



ゴッホ



セザンヌ



ロダン



ムンクの部屋は撮影禁止



ヴィーゲラン



フログネル公園（別名：ヴィーゲラン公園）



の国なので一応成田で5万円程の両替は済ませてありますが足りるでしょうか？この物価高では無理でしょうねえ！立憲君主国で王室があるのはスウェーデンと

ピットが丸見えで興味津々ですが、離陸時には閉じてしまったので、当然ですね！
迎えるバスに乗り込み現地ガイドのモモさんからこの国の概要が説明されます。通貨は1NOK=15円強で、同一店で315NOK以上の買い物で免税になるようです。物価高は同じなので超えてしましますよ！今旅行のメイン



同じですが、北海油田を掘り当てたのが一番の違いでしょうか？それでも水力の豊富なこの国の発電は100%水力発電とのことでした。

この国の最初の観光地はフログネル公園でヴィーゲラン作の彫刻が212点も置かれています。刻まれた人間の数は650体以上にもなるようで、撮影した枚数は数知れません。代表的な高さ17mの塔には男女121体が刻まれており周りも人生を感じさせる人間彫刻で埋め尽くされています。怒りん坊の左手はピカピカに！

ノーベル賞のなかでも平和賞はオスロの市庁舎で授賞式が行われます。スウェーデン市庁舎と異なっており壁にはヨーロッパ最大級の壁画が飾られていてきれいでした。また、市庁舎の南側はそのまま港に面しておりオスロフィヨルドなのです。北欧の首都が全て港町だったと改めて感じさせてくれました。やはりヴァイキングの末裔なのでしょう。か水上交通が非常に発達しているようです。

オスロの国立美術館は前半戦最後の目玉？となるムンクの描いた「叫び」の鑑賞になります。ムンクは「叫び」を5枚以上描いており、ムンク美術館に2点、国立美術館に1点が展示されています。国立美術館から1994年に油絵が、ムンク美術館から2004年にテンペラ画が盗まれ世界中のニュースになったものですし、2012年の競売でピカソやゴッホ以上の史上最高額96億円の値段がついたことでも話題になっていきます。あの独特のタッチとデフォルメに色づかいを一度見たら忘れられないものになってしましますね。昨年まではノーフラッシュなら撮影OKだったようですが、今回、ムンクの部屋だけは撮影禁止になっていました。非常に残念でしたが、隣の部屋では撮影OK？だったので望遠レンズで撮影してしまいました。よく撮れていて満足です。この美術館には、ゴッホ、セザンヌ、ロダンの彫刻、ヴィーゲランの彫刻に北欧の画家の絵が数点展示されています。ハダンゲルの結婚式を描いたグーデの作品やクリスチャン・クログ、ダールの作品などは写真を撮り放題！

美術品を十分に堪能した後は、ホテルに戻ってしばらく休憩し、4時からのフリータイムは市内散策をしました。ホテルは中央駅の隣の好位置にあるので、目抜き通りのカールヨハン通りを約2km王宮に向かって歩きます。途中にはオスロ大聖堂、国会議事堂、国立劇場、国立美術館、グランドホテル、オスロ大学等様々な建物が連なっていますが、それ以上



アーケシュフース城より湾



通りの噴水



カール・ヨハン通り



国立美術館



グランドホテル



カフェの壁画



王宮庭園のひなたぼっこ



王宮 銅像はカール・ヨハン王



オペラハウス

後半戦の旅行記

ここからは後半の主にフィヨルドの旅になります。同じような景色が多いので違いがわかるでしょうか？冒頭の旅行工程図を参照しながらご覧下さい

【オスロからガイランゲルへ】―第5日目―

今日は移動日でしょう。大型バスの座席を7〜8席占領できるとは言っても限界があるし、高速道路でもない約410kmの道中は時間がかかり退屈かもしれません。しかし、このバスにはナビがついて、現在地を知らせてくれるのが嬉しいことです。9時にホテルを出発しひたすら北へ北へと進みます。どうもヨーロッパハイウェイの一部であるようですが格段変わった点は見つかりませんでした。気温は15℃前後で時々小雨も降る曇天です。最初は気にもしなかった景色でしたが、いつまで経っても車窓から湖が消えず同じ景色がいつまでも続くように思えてきました。全長100kmもあるミューサ湖でノルウェー最大の湖とはあとで知ったこと。しかし、このような光景が連日車窓から広がることになるとは思ってもいませんでした。

ここノルウェーは日本と同じく森の国ですから木造の家が

に雑踏とショーウィンドウが目についたかもしれません。王宮は突き当たりのやや小高い丘に建っていますが、一部修復中でもありこの時期には公開されていません。しかし、王宮の庭園には多くの市民が太陽を求めて日向ぼっこをして寝そべっている姿が印象的。王宮を出てからは南下して港に向かいます。港にはノーベル平和センターに昼間訪れた市庁舎がそびえ立っており、その前には帆船がたくさん停泊していました。少し飛び出た半島にはアーケシュフース城が湾を見下ろしているので入城してきました。

最後に独特の形状で注目を集めるオペラハウスの屋根を全て歩き回って6時に道路反対側にあるホテルに戻ります。これでほとんどオスロのめばしい市街地を踏破したことになるでしょう。7時から夕食が用意されているので戻りましたが、まだ太陽の位置は頭の上にあります。そこで、夕食終了後の8時半でもまだ明るいので、再びグランドホテル1階にあるカフェを探索に出かけます。このカフェは歴史があって、あのムンクやイブセン等が集ったたまり場として有名で壁一面に当時の絵が描かれています。このカプチーノは41

これで1日も終わり、ぐっすりと眠れます。

明日からいよいよフィヨルドの旅になり、後半戦がスタートしますから。



非常に多いです。草木は北海道に近く白樺にライラック。北海道田の開発があってもガソリン価格は1L＝15NOKですから、日本の1.5倍。途中にはリレハンメル

オリンピックのスケート会場が湖越しに見え、湖の末端？の町のリレハンメルに到着。運良く雨も止んだ時にジャンプ台の見学になりました。でも下から見学しただけで台に昇ってはいませんよ。間違って落ちたら痛いですから、。

ここでの気温は13℃でしたが、日本は34℃との情報が入り唾然！バスに戻ると暖房が入っていましたから。昼食も隣町オリエルでアルペンスキー会場のレストラン「カフェ94」でした。

3時半にはロムの町にあるスタープ教会を訪れます。スタープ教会とは北ヨーロッパ独特の木造様式の教会で



スタープ教会



教会内部



最盛期には1,000棟以上もあったそうですが現在は28棟程で貴重な遺産になっています。のどかな背景に溶け込んだ建物も美しく、薄暗い内部にも歴史を感じさせる絵

画や調度品があつて心を癒してくれます。

ロムの町を出発してからは西の方に向かうようになり、周囲の景色が変わってきました。いくつかの山々の頂には万年雪が現れます。同時に単なる水溜まりにしてはあまりに広大な湖も様々な顔で無数と言つてよいくらいに現れます。ノルウェーの最高地点は、2,469mのガルピッゲン山ですが、その山の周辺を走っているとは後々に調べて知ったことで、1,500m級の山でも万年雪はありそうです。その山を分け入った所に造った有料道路の終着地がダルスニッパ展望台(1,476m)で車で来られる最高地点とのこと。こ



展望台の万年雪と周辺の湖は名もない湖

のような小雨混じりの曇天ではガイランゲルフィヨルド(海拔0m)が見下ろせないと覚悟して登っていきましたが、幸いなことに雲の切れ間から下界を展望することができました。まあ、立山の展望台から黒部湖を見下ろした感覚に近いでしょうか？黒部湖が海であればの話ですが。それにしてもバスの有料道路料金は約15,000円ですから一人あたり、高価な眺望です。

展望台はさすがに寒く6℃ほどで絶景が次々現れますが、人間が動き回っている観光地の賑やかさは全くありません。水面もまるで鏡のようで群青色や緑色に青白色等様々でし



た。フィヨルド波止場前のホテル・ガイランゲルに18時半到着しました。

ガイランゲルフィヨルドは海に通じるので海拔0mですが、どうみても山間部の写真になります！

【ガイランゲルからバールレストランドへ】第6日目

昨日の午後と同じような山岳ルートにフィヨルドクルーズが加わったのが本日の予定。

ホテル前の波止場から8時発のクルーズ船でバスごと乗り込みます。この先何度このようなバスごと乗り込むフェリーに乗ることになるのですが、簡単に言えばフィヨルドや湖の端にしか橋がかかっていないからです。フィヨルドは海

なので巨大客船が橋をくぐるにはベイブリッジ以上の高さの橋が必要ですが、フィヨルドの長さは200kmにも及ぶものがあるように現実的に無理だと理解できます。もちろん景観にも悪いでしょうし、湖も同じですから仕方がありません。

さて、クルーズ時の気温は大体12℃で鏡のような海面を航行



ガイランゲルフィヨルド



7人姉妹の滝



求婚者の滝



同型のフェリー



ガイランゲルフィヨルド



同じような光景が続きます



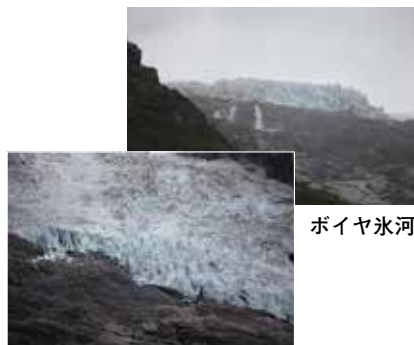
ヘルシストの滝は町中に



していきます。兩岸はそのまま切り立った断崖につながり無数の滝が流れ落ちていきます。

天気が悪かったために山頂はほとんど雲に隠れていました。しかし、かえって幻想的で良かったかもしれません。目立った滝には名前のついたものもあり、7人姉妹の滝や反対側の求婚者の滝は有名です。終点の町中にあるヘルシストの滝も勢いのあるものでした。

ヘルシストの町で下船し、バスで延々と湖畔をドライブする感じで南下していきます。途中のホルンダール湖はヨローッパで一番水深が深く透明度が高いと説明され大きな船もありましたが、ただ見ただけでは他の湖との違いはわかりません。地形図をみるとフィヨルドになりそこなった湖の形を



ボイヤ氷河



フィヤーランドの町



フィヤーランド
フィヨルド



お茶目な船長

が、出航まで時間があるので波止場で待機。おかしなことに何もない波止場にはトイレと古本の小屋があるだけ。本屋とフィヨルドとの関係はまったくわかりません？

フィヤーランドフィヨルドは最大のフィヨルドであるソグネフィヨルドの末端にあたります。ガイランゲルフィヨルドとは異なりここでは滝も少なく景色も平穏でのんびりとした航行になります。単に移動のためのクルーズにも思えました。船長も退屈そうだったので、「やあ船長！おつとめご苦労様。写真を撮って良いですか？」と聞いたら、何と「よっしゃOK！」とポーズをとって両足で操舵を始めました。何とお茶目な船長さんでしよう！？

バーレストランドの町に4時半に到着



していました。更に南下してオルデンの町で10時半まで休憩です。ここでは氷河より得られたミネラルウォーターの産地として有名ですが、ノールフィヨルドの末端の町でもあるので外洋船2隻が停泊していました。

再び、このような湖畔を1時間程走ってシェイの町で一休み。

レストランの予約時間に合わせるための時間調整ですが、この湖畔も静かで英国の老紳士達のツアーが散策していました。シェイを出発すると周囲の景色は岩肌もむき出しに荒々しいものに徐々に変わってきますが、雪をまだら状に配した景色や湖の雰囲気は同じです。そして、到着しました。氷河を眺めながら食事の出来るレストランにです。遠目にも氷河の青く輝く厚みは万年雪と全く違って感動さえ覚えます。レストランは斜めのガラスで覆われて頭上の氷河をダイナミックに見ることが出来ました。店内には氷河が現在の数倍も覆っていた時代の写真も飾られています。運良く太陽までもが顔を出してくれたので食後の散策は絶景の中に溶け込んだようです。

溶け出した氷河の水は小川となって至る所に流れ出ています。「冷たい！」氷河を触ったではありません！

氷河をあとにフィヤーランドの町に15時着きました。ここからフェリーで本日の終着地のバーレストランドに行きます

です。ここは、ソグネフィヨルド本流とフィヤーランドフィヨルド支流との交差点に当たります。ホテルは波止場近くの由緒ある雰囲気のある所で、ここでも部屋から波止場とフィヨルドを眺めることが出来ますが、外を見ると部屋が動いている錯覚に陥ってしまいますよ！

夕食は近くのサイダー工場見学後となり興味津々で出かけました。レストラン店主の趣味なのかわかりませんが、要するにサイダーとはアップルシードルのことでアルコール分19%のお酒でした。これを飲まなくても食事は食えることが出来ますのでご安心を！挽き肉のパイ包みの夕食でした。

「バーレストランドからロフトフースへ」第7日目

恒例の朝の散歩はホテルの周辺の散策でした。夜中に時計が1時間進んでしまったので予想外の早起きになって、、、、何が何だかわかりませんが、、、、

ホテル前の栈橋で水を口に含んでみたらうっすらしょっぱい味だったし、海藻も見つけたので海水なのでしょう！朝食は趣のある旧館でいただきましたが、他の日本人ツアー客と一緒にでした。



7時半に出発し、バス→フェリー→



各所に残雪と大小様々の滝が流れ落ち、屋根に暖房耐久性を高める草を生やしU字谷も現れる山岳ルート

フェリーバスと
フィヨルドを横
断しながら進行
し、バスは再び
山岳ルートを南
下していきま
す。このルート
も絶景の数々で
言葉に表せませ
んよ！目的地は
ヴォスの鉄道駅
です。

します。ベルゲン線の電車で10時に乗り込みミュールダール
駅で今度はフロム鉄道に11時に接続されています。このフロ
ム鉄道は知る人ぞ知る（当然ですが）世界の山岳鉄道マニア
憧れの一つらしく、標高約864mから約20kmの間で一気に
海拔2mのフロム駅まで下る急勾配の鉄道で、途中に20もの
トンネルを通過します。途中の景色が絶景であることが称賛
されている観光鉄道ですから車内の路線案内図も分かりやす
いものでした。実際に乗車してみると評判に嘘はありません



昼食と土産物店をいろいろ見て回って、1時半から約2時間
のクルーズでグドヴァンゲンまでの眺望を楽しみます。ここ
も言葉で表せないで動画撮影を行いました。旅行記では
静止画で雰囲気味わってください。気温は大体15〜18℃ほ
どで天気も晴れ間ものぞきそこそこ良かったです。ただ中国
人ツアーと一緒にいたのが誤算。大学生位の若い女の子連中
が一瞬カメラ片手に好位置でお互いポーズをとって何枚も撮
影しまくっていたので、他の観光客の撮影場所が制約を受け
てちょっと困りました。譲り合いの精神が欲しいなあ！さす
がに途中から気づいたようですが、、、
このように雄大な景色の中に小型モーターボートが走り
回って水面をかき乱すようなことはありません。ソグネフィ
ヨルドの中でもこの辺りの狭まったフィヨルドを特にネーロ
イフィヨルドと呼ぶようで世界遺産に登録されています。



ムまで飛んできてレンズもすぐに濡れてしまう程水量がも
のすごいです。誰もが記念撮影をしてホームには人があふ
れています。添乗員の工藤さんは見慣れているので座席
で荷物番をしていましたよ！また滝の途中の岩に現れる妖
精の踊りには違和感を覚えると嘆いていました。確かに、「何
で手旗信号をしているのだ？」との印象です。
フロム駅は
鉄道の終点で
もあり、北欧
最大のソグネ
フィヨルド観
光の基点にも
なります。12
時に到着後は
ムまで飛んできてレンズもすぐに濡れてしまう程水量がも
のすごいです。誰もが記念撮影をしてホームには人があふ
れています。添乗員の工藤さんは見慣れているので座席
で荷物番をしていましたよ！また滝の途中の岩に現れる妖
精の踊りには違和感を覚えると嘆いていました。確かに、「何
で手旗信号をしているのだ？」との印象です。



大迫力のショースの滝



妖精？



終着のグドヴァンゲンにはバスが待機しており、再びバスで南下していきます。さすがに観光疲れが出たのかしばらく睡眠に襲われてしまい景色がどうだったのかさっぱりわかりません。ルートは山越えなのできつと今までのような綺麗な景色だったのでしょうか！1時間少々経過した頃に渡し船（フェリー）に乗り込みましたが、ここはもうハダングルフィヨルドまで来ているようです。数十台のバスやトラックが乗り込むフェリーには至る所にトイレが設置してあるので一種のパーキングエリアの役目もあるのでしょうか。渡り終えてからは右手にハダングルフィヨルドを見ながら延々と30kmほど南下して目的地のロフトフースにあるホテルに5時40分に到着しました。

ホテルロビーには暖炉があり火が燃えていました。気温は何度でしょう？この部屋でもテラスの前にフィヨルドが広がります。



7450NOK=11万円もします



暖炉

このホテルで思い出深いのは、夕食時は車椅子の障害者団体と一緒に、食事には鯨肉や鹿肉が出

てきたことと、土産ケース展示の人形がめちゃくちゃ高額だったことでしょう！

「ロフトフースからベルゲンへ」第8日目

今日は朝食後に周囲の散歩です。この付近には果樹園があるだけで、あとはホテルになってしまいます。屋内卓球場やテニスコートにプール等があるようですがフィヨルドがらみでないとい何の写真かわかりませんか！

本日は近くにある穴場的絶景ポイントまでのハイキングと最終到着地のベルゲンまでの移動になります。周辺の写真撮影を終えてホテルロビーに戻るとリュックを背負った若者がニコニコして待っていました。21歳の地元ガイドのケティル君です。彼がボンドフース湖までのガイドを行ってくれることになっているとのこと。

8時半に出発し、ハダングルフィヨルドを



ホテルからハダングルフィヨルドを



ホテルを海から臨む



部屋より外はフィヨルド



ホテル裏の果樹園



ヨルド末端の町オッダの橋を久しぶりに渡ってUターンするうちに少々北上して左折し11kmほどのトンネルを抜けてスندگانの町で降ります。9時半からハ

イキングの開始。ケティル君が先頭をゆつくり歩いて道端の木の木の説明をしたりガイドしてくれます。ノルウェーの40%の果実はこの地方で獲れるそうで彼は平常はファミリーとのこと。約1時間歩きました。このグループの82歳のおじいちゃんもおばちゃんも頑張って歩きました。最後に見えた光景はまさしく「絶景!!」そのものだと思います。ここに外国観光客はいません。と言うより、1組の親子がただなので全く静寂そのもの。そこに鏡のような緑の水面に山々を写し込み、山には氷河が青白く顔を出しています。この景色を我々が独占状態。ケティル君がここで



雨のベルゲン



ホテルの部屋

人口26万人ほどですがノルウェー第2の都市の港町で、昔は首都でもありました。今ではフィヨルド観光の基点として観光

冷えたプラムとチェリーを出してくれました。実に美味しかった！種を飛ばしてボンドフース湖に入れても良いそうです。自然に戻すのだからOKとのこと。

帰りのハイキングでは地元の親子連れやクロカン大会に出会いました。ケティル君の先生にも会ってしまったようです。すれ違いざまの挨拶は「ハイ！」でOK。

12時に麓へ戻りレストランで地元ハンバーグを食べて朝来た道を引き返していきます。出発地のホテルでケティル君とお別れし、ヴォスの町を経由してベルゲンへと向かいます。あれほど晴天であったのにヴォスの町を過ぎた3時頃から雨が本降りになってきました。今旅行で一番の大雨です。まあバスの中なので問題はないし、車窓の眺めもう慣れっこの湖が存在する景色なので休憩でも良いでしょう！気温は12℃〜13℃になっています。一体この国には湖が何万個あるのでしょうかと言う印象です。

5時前にはベルゲンに到着しました。



ハンザ博物館にも入館し昔の説明を受け魚市場ではテレビ岩手の撮影クルーにも遭遇しました。雑貨店Ting隣のレストランでムール貝づくしの昼食を食べて自由時間になります。天気がいよいので是非とも早くフロイエン山にケーブルで登りなさいと急かされていました。いつ何時雨になるかわからないの

下車しての観光は世界遺産のブリッゲン地区です。ここに軒を連ねる三角屋根の一群はハンザ同盟時代からのもので建物は傾斜が激しくなっているようでした。奥に広がった建物には荷揚げ用の滑車が残されており昔は海が迫っていたそうです。



世界遺産のブリッゲン地区

ボンドフース氷河湖



プラムとチェリー



ハイキング



ルート地図



ボンドフース氷河湖



地元のクロカン大会



氷河



塔から市街地を望む

ます。ここも北欧最大級の美術館のふれ込みで、ムンクの絵をはじめピカソやミロなど収蔵してあるので出かけました。途中の市庁舎そばのフェスト広

ベルゲン駅近くの池の周りにはベルゲン美術館が並んでいます。ここも北欧最大級の美術館のふれ込みで、ムンクの絵をはじめピカソやミロなど収蔵してあるので出かけました。途中の市庁舎そばのフェスト広



ケーブルカーでフロイエン山に登りベルゲン市街を見下ろします



【ベルゲン】ー第6日ー
最後の観光地になります。恒例の朝の散歩は雨もすっかり上がったブリッゲン地区から魚市場や港の周辺を歩きました。
朝食後は地元観光ガイドの上野さんの説明で市内を大型バスでゆっくりと回ります。ガイドの制服は上下真っ赤で恥ずかしいと言っていました。たが本当かどうか？そして焼け残った集合住宅やお城のような老人ホーム、倉庫街、港を望む写真ポイント等を案内してくれますが、



ハンザ博物館



内部

にも力が入っており日本の感覚では100万都市のイメージ。そして、教科書でしか知らないハンザ同盟の中心地だったのです。また、1年で300日は雨が降ると言われるほど非常に雨が多いことでも知られているようで、ご多分に漏れず雨の歓迎を受けてしまいました。ホテルは世界遺産のブリッゲン地区に隣接した繁華街にあり足の便は良さそうです。まだ時間の余裕もあるので、雨の中を歩ける範囲で探検しておきました。



飛行機からのベルゲン周辺
無数の島々にフィヨルドが侵食して感動的！

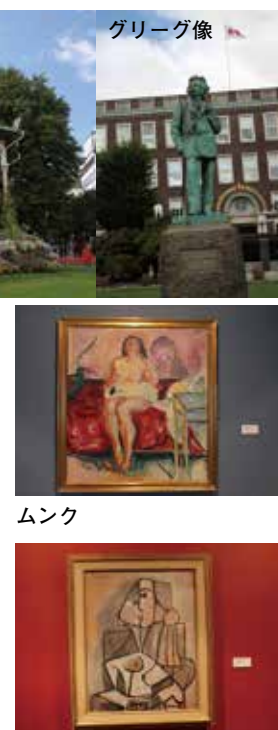
2012年12月10日追加記載

しよう。
それにしても、「ノーベル賞をもらったことはもう私にとっては過去のことで、まだマラソンの折り返し点でしかなく、これからiPS細胞を臨床応用していくのが使命…」のような発言をなさる山中教授は格好いいし大物ですね！ノーベル博物館でお土産のメダルチョコレートを1,000枚購入されたようですが、私は10枚ですから人間の大きさが全く違います！?本当におめでとうございます！

場にはきれいな花壇が飾られグリーグ像も建っており芸術地区の予感があります。
他にも西ノルウェー工芸博物館では世界最古のヴァイオリンを始め、中世の家具から現代のものまで幅広く鑑賞することが出来ました。



フェスト広場



グリーグ像

ムンク

ピカソ



ホーコン王の館

「ベルゲンから日本へ」第10日目

最終日は急ぎ水族館に行き殆どのベルゲン観光場所を踏破。

ベルゲンよりルフトハンザで飛び立ち2時間でフランクフルト。時間調整のため市街地へ電車で向かいレーマー広場等で時間を費やし20時45分NH210便で戻ってきました。

2012. 9月記す



以上のように、旅行から戻ると記憶が鮮明な間に旅行記を書き記しています。これを、そのまま孟宗の原稿にしていたのですが、今回ばかりは追加記載をしないとどうしても納得がいきません。

それは、山中伸弥教授がノーベル賞の医学・生理学賞を受賞されたことです。あのガランとしていた市庁舎の「青の間」がテレビ画像でみれば華やかな晩餐会場に大変身し、「黄金の間」も大勢の踊る姿が映っていました。メーラレン湖を挟んでの対岸に宿泊されたグランドホテルがありますが、ホテル周辺は雪で覆われており夏とは別の風景を映していました。このような日本の医学会にとって記念すべき年に山中教授に先んじて?会場を下見できたことは記憶に残ることで

南イタリア一人旅

伊東 幸子

平成二十年八月末に出かけました。

「光あふれるシチリア島・カプリ島と南イタリア十二日間」
JTB・心行く旅。

以前、ローマから南イタリアの旅を経験しましたが、あまりにも酷い旅でした。

もう一度ボンペイの遺跡と出来ればナポリの考古学博物館に行きたいと思いました。

シチリア島は、地中海世界のほぼ真ん中にあり、世界遺産も多く、今なお噴火が続いているエトナ山等興味津々の所でもありました。

参加者九名。この内なんと五名がドクター。一人旅の女性三人、共にお若くなく。

ローマ経由パレルモへ。アيطاليا航空従業員ストライキのため、遅れて零時ホテル着。フロントから、「FAXが来ています」。どきつ、高齢な義母の具合が悪く引き返せと？どうしよう、パレルモからローマまでは何とか一人で行けるけど、ローマから成田へは、あの広い空港を

二日目 パレルモ観光 二泊

パレルモは、紀元前八世紀、フェニキア人により町が作られ、紀元前、二五四年ごろより七百年にわたり古代ローマが支配し、衰退後一八六〇年のガリバルディの独立統一戦争によって統一されるまで多数の支配を受けました。現在では、アラブ、ノルマン、スペインそれぞれ時代の足跡を垣間見る事ができます。

観光の始めは、モンレアーレの大聖堂、修道院回廊見学。モンレアーレは、パレルモからそれほど遠くないカプリト山の傾斜地にある小さな丘。

オレンジ・レモンなどの果樹園、高級ワイン・上質のオリブ油でも知られています。

此処にシンプルで厳かな外観を備えたロマネスク様式の大聖堂があります。教会内部は、旧約、新約聖書に由来する、キリスト教の教育と信仰に最も重要なモザイク画が、礼拝堂の壁全体に描かれています。

祭壇正面の、両手を広げているキリストのモザイク画は素晴らしく、時間を忘れて見入ってしまいます。聖堂から続く修道院の回廊付中庭の眺めも美しく、特に、回廊の柱（円柱）は、黄金・貴石・溶岩・モザイク（素材はガラス）等様々な材料を用いて装飾されています。信じがたい美しさと精巧な幾何学模様です。

どう移動すればよいのか、私には至難の業。恐々封筒を開きました。そこには、「ママちゃま、湘南ベルマーレ鳥栖に勝ちました。気を付けて楽しい旅行を」。でした。旅行中FAXは届きましたが、ドキドキすることはありませんでした。ベルマーレが勝った時だけ送信されて来るのですから。シチリア島の一夜は、ルンルンで過ぎました。

旅のルートマップ



ドゥオモ 1174年建立
祭壇正面のキリストのモザイク画
聖母・天使・12使徒のモザイク画が飾られている



回廊と回廊の柱の彫刻とモザイク

パレルモへ戻り、旧市街散策、カーポ市場見学、からすみを見つけましたが結構なお値段でした。

乾物・野菜・果物・魚・肉類等々その種類の多さにびっくり、衣類、玩具までもありました。

好物のピスタチオを一キログラム求めました。何ユーロかは忘れましたが、日本よりはるかに安かったのです。お仲間に、「夜な夜なビールのおつまみにするのでしょ」と冷やかされながら旅行中持つて歩くことになってしまいました。この散策中、ジャカラントの花や、南米原産のカポックの花を初めてみました。

マルトラーナ教会へ。この教会の内部は、素晴らしいモザイクの装飾が施されているとの事でしたが、ちょうど、お葬儀が行われていたので、残念ながら、美しいと言われているモザイクは、はつきり見ることが出来ませんでした。

昼食後、今日のハイライト、ノルマン王宮・バラティナ礼拝堂を見学。

ノルマン王宮は、現在シチリア州議会堂として使われています。礼拝堂は、ノルマン王宮の二階に設けられ、アラブ・ノルマン様式の礼拝堂で君主とその家族の専用の礼拝堂として設計され、一一三〇年～一一四三年に完成。目も眩むほどのモザイク画が壁いっぱい煌めき、そのテーマは、キリストの生涯を中心に、新約・旧約聖



パラティナ礼拝堂の床のモザイクを修復中
(色々の大理石を使って形と色を合わせながら修復)

食は、からすみのパスタ、あまりからすみのお味はしませんでした。イタリアでもからすみはお高いのでしょうか。

今日は、芸術的、歴史的、キリスト教的にも素晴らしい多くのモザイク画を見る事が出来、大変エキサイティングな一日でした。

三日目 アグリジェントへ一泊
ホテルの隣が交易市場で、早朝から賑わっていました。野菜の種類の多さ、色鮮やかで大変豊かに感じました。

葡萄とシャボテンの実を買い求め試食、葡萄は美味でしたが甘く、シャボテンの実は、舌触り悪く酸味が強いだけでした。散策後、マザーラ・デル・ヴァッロへ。

七世紀にアラブ人が作った町で、アラブ文化が色濃く残っている



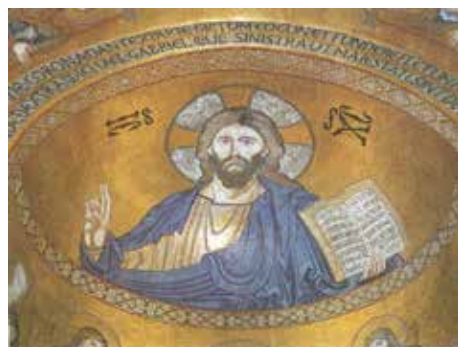
シャボテン 赤い実を食べます

書からの人物やエピソードが緻密に美しく描かれ、この感動は、私のつたない表現力では、お伝えすることは出来ないほどです。柱にも洗練された美しい象嵌細工が施され、贅を尽くして建てられた王宮は、当時の栄華が忍ばれます。礼拝堂のモザイクは、この建物のなかでは一番古く、王宮の中庭の回廊の壁にも素晴らしいモザイク画がありますが、細密で絵画のようです。時代が近世に近くなるほど細密になりよりリアルな描写に変化してくるように思われました。テーマは、狩の様子と戦いの様子が記憶に残っています。

旧市街の入口であるヌオーヴァ門を通りホテルへ。夕



パラティナ礼拝堂の祭壇



キリスト像を拡大

て、細い路地が多く見受けられました。路地を抜けると街路樹の整った海岸通り、おじさんたちが、五・六人屯したバコを吸いながらおしゃべりをして居ました。女性の姿は何処にも見あたりません。「奥様達は何をしているの」と聞きましたところ、「家で洗濯・家事をしている、旦那をおいて旅行なぞしたらおん出してやる」という返事が返ってきました。

アラブの旦那でなくて良かった。

午前中のハイライト、踊るサチュロス像を鑑賞。この像は、紀元前三～四世紀につくられたと言われている銅像、一九九八年、マザーラ・デル・ヴァッロから出航した漁船の仕掛けた綱から偶然引上げられたのだそうです。手足が取れているのですが、躍動感あふれるその姿は美しく、その顔は、力強く、今様に言えば、イケメン、ハйна目線を感じます。

サチュロスは、お酒の神バッカスの従者だそうです。この博物館は撮影禁止、禁止でなくても、私は見とれて写真は撮らなかつたでしょう。絵葉書を求めました。



踊るサチュロス

午後、アグリジェントへ。
アグリジェントは、ギリシャの遺跡（神殿の谷）とア
モンドの木々が訪れる人を迎えてくれる町です。（アー
モンドの花の咲く時期はさぞみごとでしょう）
国立考古学博物館を見学後、神殿の谷へ。八月のこと、
気温は三十度を越し、木陰もなく、暑さとの戦いでした。

ジュピター神殿

神殿の谷に横たわっているのは、レプリカでオリジナ
ルは、考古学博物館に展示されて居ます。巨大な人像で
神殿を支えていた柱の一部と考えられています。

ヘラクレス神殿

神殿の中では、最も古く、紀元前五二〇年の建造。天
に向かって伸びる柱は、力強く、ヘラクレスの名に相応
しいと思いました。

コンコルディア神殿

紀元前四五〇年～四四〇年頃、ディオスクロイ神に捧
げられたと推測されています。

ほぼ完全な形で残っているのは、初期キリスト教時代
に教会として使われていたので破壊を免れたと言われて
います。名前の由来は、平和・和解・調和を象徴するロー
マの女神の事だそうです。

信じがたいほど保存状態の良いこの神殿のたたずまい
は、美しくも堂々として、何にも負けない強さを私達に
示している様に思われました。

ヘラ神殿

紀元前四六〇年～四四〇年頃の神殿跡、紀元前四〇六
年カルタゴの攻撃にあつて炎上、続けて赤く変色した石
が内部に見られます。



②ジュピター神殿



③ヘラクレス神殿



④コンコルディア神殿



⑤ヘラ神殿



- 神殿の谷
①国立考古学博物館
②ジュピター神殿
③ヘラクレス神殿
④コンコルディア神殿
⑤ヘラ神殿

ヘラニズム期・ローマ期地区へ

紀元前四世紀の町の遺構。格子状に道路が走り、しっかりした都市計画が成されていたことを知ることが出来ます。

この頃の住宅は、床がモザイクで飾られ、壁は漆喰で塗られていたそうです。

この住宅地を散策して見ますと、床のモザイクは、雨風に曝されながらもその幾何学模様は美しく残っています。（幾何学模様が多いようです）お風呂場は、その壁に大小のお魚・鳥賊のモザイクが飾られ、状態よく残っていました。このお風呂に入った子ども達はさぞ喜んだ事でしょうし、大人達も入浴を楽しんだに違いないと思わせる図柄でした。

所どころ、床のモザイクが残っていて、住人の豊で大らかに暮らしていた佇まいが感じられて、炎天下の暑さも忘れ、歩き回りました。この地区のモザイクは、大理石の色々の石を使っているので、大変カラフルです。

私の今日のハイライトは古代ローマ歴史地区でした。

夕食は、野外テラスからコンコルディア神殿のライトアップを見ながら、名物鰯のパン粉焼きを頂きました。おすすめの、レモンジュウスを試飲、そのすっぱさには耐えられず一口でギブアップ。思い出しても身震いしそうです。

とか。

モザイク画から推測しますと、大変優雅に日々楽しく、食生活の豊かさも想像できます。

食する動物の狩猟風景、魚の種類、果物の種類の多さに驚かされます。野菜の描かれたモザイクが無いのは不思議ですが、やはり狩猟民族なのでしょう。

身分制度もはっきりしていた事をうかがい知るモザイクもありました。

興奮冷めやらぬ帰り、バスまでの道端で、中学生が自分で描いた絵を並べていました。

彼が薦めてくれた絵を三ユーロで求めました。「おつりはいいのだけど」と申しましたら、現地のガイドさんに、「ちゃんと貰ってください、教育に宜しくないから」と言われてしまいました。

もう一つの買い物は、やはり自分で開発したと云うレモン絞り器です。実演をみると成程日本より便利かなと思っただけでした。日本に帰って、試してみましたら日本のレモンは小さくてジュウシイでないのか上手に絞ることが出来ませんでした。道具というものは、その国にあったものが、長く伝えられているのだなと教えられた事でした。

神殿の谷の夜景は、素晴らしい眺めでした。

四日目 タオルミーナへ 二泊

ピアッツァ・アルメリーナは、小山に囲まれたのんびりした緑の町。旧市街から約五キロ離れた森の中に、ローマ時代（三世紀頃）の貴族の休養地として建てられた別荘があります。雄大な建物には、約四〇室もあり、部屋の壁はモザイクやフレスコ画で飾られており、床は一面モザイクで敷き詰められています。

当然所々剥げ落ちているところもありますが、その模様によって部屋の名前がつけられているようです。

浴場は暖房システムが設置され、温度差のある浴室が三室。

体育館もあり、相応してモザイク画が壁に飾られています。（壁の模様から体育館だったのでは？と名付けたのでしょうか。）

お手洗いも水洗、広々として床はモザイク画がありました。

このように、大変優雅な生活が偲ばれ、又狩りなどを楽しんだ様子や、狩りの後での、今様に言えば、バーベキューの様子が比較的良好い状態で残っています。

残念なことに、一番有名で保存状態の良いと言われている夫婦の寝室と子ども部屋は、修復中でみることはできませんでした。お二人の大切な日々が描かれている

ピアッツァ・アルメリーナのモザイク



狩りの様子



狩りの後の食事



ビキニの少女の部屋
勝利した少女（中央）冠とシュロを受けるところ



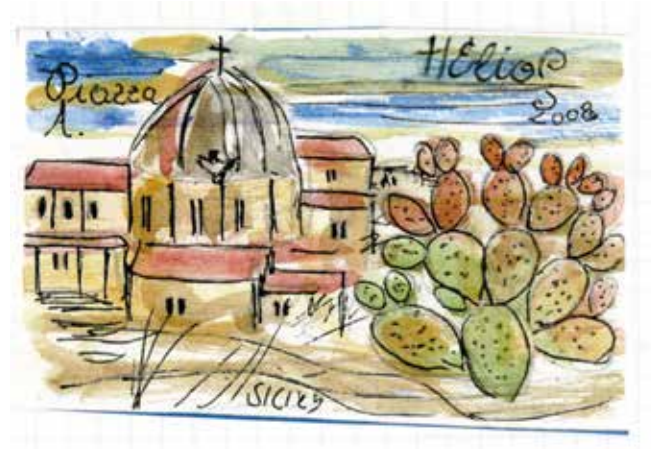
廊下のモザイク



廊下のモザイク



お手洗い



少年の絵



ギリシャ劇場



レモン絞りの道具



お菓子 マルトラーナ

バスは、エトナ山を眺めながら、タオルミーナへ。

タオルミーナ 二泊

タオルミーナは、青く美しいイオニア海と今なお噴煙上がるエトナ山を何処からでも眺められる風光明媚な保養地と言われています。

旧市街散策、街の中心である、ウンベルト一世通りは、賑やかで、観光客も多く、おしゃれなお店が多く並んでいます。

この街の歴史は古く、古代ギリシャ・ローマ帝国時代の遺跡もいくつか残されています。

その代表的遺跡は、シチリアで二番目におおきいとされているギリシャ劇場。紀元前三世紀に建造、ローマ時代二世紀に円形闘技場として、改築されました。天然の窪みを利用して階段状に客席があり、正面の舞台には両側に太い円柱が聳え、その間からみえる風景は素晴らしく、青い海、聳えるエトナ山、まさしく絶景とはこのことかと思わされます。

この素晴らしい風景を背景にして今でも夏はコンサートが開催されています。見学した時も、コンサートの準備中でした。

メインストリートであるウンベルト一世通りを進むと、四月九日広場に出ます。此処も又眺めの良い所で、緑と青い海の美しい海岸線のパノラマが開けます。広場の左

に十五世紀のゴシック様式の教会と十七世紀の時計台があります。

自由時間にウンベルト一世通りを散策。

シチリアがお塩の産地であることを知りました。クリスタルの塩でお土産に。アーモンドの粉で出来ているお菓子がおすすめと聞いて、お菓子屋さんで見つけましたが、可愛い籠に果物を模して作られているのですが、ちょうどお雛様のお菓子の様で色濃く色づけされていて、お土産にする気になりました。お菓子の名はマルトラーナ。美味しかったお菓子は、ナッツが一杯入っているソフトスガーをチョコレートで包まれたストロンチーニをお土産にしました。

午後は自由時間

希望者で、カステルモーラ村へ観光。

カステルモーラ村は、標高五二九メートル石灰岩の上に作られた中世の町です。

狭い道路を上がって行くと集落があり、此処も又素晴らしい眺めで、エトナ山噴火の折夜はとても綺麗だったそうです。街が眼下に開け、サッカー場が箱庭のなかにあるようでした。

夕食は、イカ墨パスタでした。当然色は真っ黒で頂くのはちょっと躊躇しましたが美味しくいただきました。

六日目 バリーへ 二泊

今日は、いよいよ本土へ。メッシーナ海峡をフェリーで渡り（二〇分）、約六百キロメートルを北上しました。途中昼食をはさんで二回休息はありましたが、一日高速道路を走り続けました。途中の道端は、ペットボトルやビニール類が散乱し、綺麗とは言えない道路のドライブでした。

道路の両側に畑が開け、イタリアは農業国かなと思いました。居眠りもだいぶしていたので、この思いは確かでしょうか。

タオルミーナを午前八時三〇分に出発、バーリへ午後六時頃到着。

この日は、シチリア州・カラブリア州・バジリカータ州・ブリーア州と四つの州を走り続けました。

（ご興味のおありの方は地図をご覧ください）。

七日目、バーリを拠点として、観光が始まりました。

アルペロベッロへ

世界遺産に登録されているアルペロベッロは、灰色の円柱形の屋根一つ、部屋一つ、壁は真っ白の特徴あるトゥルッリと言われる家屋が立ち並んでいます。

十六世紀中頃トゥルッリは造られました。

屋根の形は、諸説あるようですが、一つには家屋の税金を逃れるため、又雨の少ないこの地方は、雨水を地下槽に貯めるためとも言われています。

グラビーナ渓谷の西側に横一列に幾重にも重なる洞窟住居が眺められます。渓谷を挟んで反対側から見るとその眺めは、南イタリアの明るい太陽に忘れられた様な佇まいでした。

サッシの歴史や洞窟の説明のビデオを見た後、サッシの見学。以前訪れた時より足場はよく整備されていました。

道の両側には岩の間から草花も多く見られ、遠くで眺めるより明るく、サッシの中も、思ったより明るく、住みやすそうに見えました。

ロバと一緒に生活していたようで、当時の人々の生活が判ります。坂の多いこの地では、ロバは欠かせない家族の一員だったのでしょう。

他の洞窟では、イスラム教徒の迫害を逃れて移り住んだ修道士の作った聖堂が幾つかあり、壁には、ビザンチン様式のフレスコ画が書かれていました。このフレスコ画は、近年美術的にも高く評価されています。

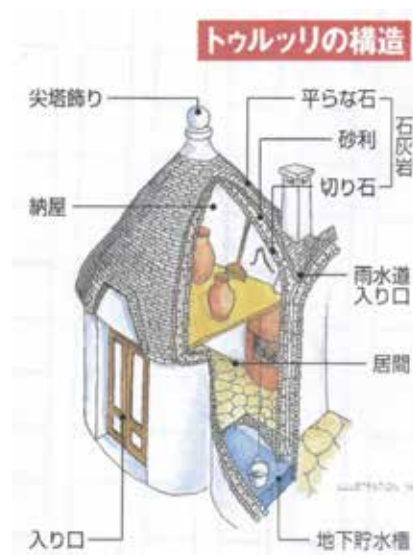
スラム化し、住む人がいなくなりましたが、現在は、特異な洞窟住居の価値が認められ、世界遺産にも登録され、保存、修復作業も進み、一部住居として生活して居る人も多くなっているそうです。



▼ サッシの居間



渓谷の片側から眺める景色



昼食は、トゥルッリを転用したレストランで。メニューは、オレキエッテイ（耳介の形をしたパスタ）・タコのトマト煮込み、レモンのアイスクリーム。記憶に残る美味しさでした。



午後、マテラへ
一九九三年ユネスコ世界遺産に登録された、サッシと呼ばれる洞窟住居群です。

バーリの町に戻り、旧市街散策、サン・ニコラ教会、一一〇五年に完成した教会。

バーリの守護聖人サン・ニコラ（サンタクロース）の御遺骨が聖遺物として安置されています。

訪れた時は、夕方でしたので、人も少なく荘厳な雰囲気でした。

夕食は、現地ガイドとしてバレルモからずっと付き添い、豊富な知識と、旅行者に対して頑固とも思える献身的なサポートをしてくれた彼ともソレントでお別れなので、この日の自由時間を利用して、感謝をこめて夕食会を開きました。又、添乗員の方も、成田から付き添い、幅広い知識と仕事とはいえ、現地で色々大変な事と察しられ、又暑い日々の日程で、何かと気遣い、楽しい旅行にすべく、献身的に動いて頂いた事に感謝の乾杯をしました。野外テラスで、スマートな楽しい夕食でした。

お料理は、アドリア海に面したバーリのことゆえ海鮮料理でした。

あのイタリア料理のお店に、もう一度訪ねたいと思うほど、ワインもお料理も最高でした。

八日目 ソレントへ 三泊

高速道路をナポリへ。アドリア海に面するブーリア州バーリからティレニア海に面するカンパニア州ナポリへ。南イタリア本島を横断したことになります。

ポンペイの遺跡へ

かの有名なベスビオス火山の噴火により、西暦七九年、一瞬にして、その灰と泥土に埋没した日そのままに甦りました。

あまりにも広く、一日でも廻りきれない広さです。主な所を見学しました。

先ず、眼前に開けるベスビオス火山を背景に、公共広場、二層式の円柱が残っています。

個人の家も、贅を尽くした大豪邸を思わせる、大広間や中庭・庭園があり、噴水もありました。

数多くある部屋の壁には、様々な題材、技法を駆使した壁画が残されています。

モザイク・フレスコ画の世界といったところでしょうか。多くは、ナポリの考古学博物館に収められています。半日の見学では、残念ながら堪能することはできません。

この日も木陰のない遺跡には、容赦なく太陽が照りつけ、暑い日でした。

噴火によって一瞬にして埋もれはしたものの、発掘により、甦り、彼らの生活がいかに大らかで、精神的・物質的にも大変豊かで、芸術を愛し、自然を愛して生活していた事を知ることが出来、あの時代に、高度な文化があったことも大変興味深く、一つ一つの邸宅の壁や床に残されているモザイク・フレスコ画を見ることは出来ま

ナポリでは、車窓から旧市街、港・たまご城下車、新城・王宮・オペラ座下車見学。

昼食は、ピッツア・マルガリータとカプリチュウサ（気まぐれと言う意味）と半分ずつ。

本場のピッツアは、やはり大変美味でした。

デザートは、BABA（ブリオッシュの様なケーキにラム酒味のシロップを浸み込ませたケーキ）。

イタリアでは、お食事の後コーヒーがオーダーできるので幸せでした。



サン・フランチェスコ・パオラ聖堂の前
プレビシート広場

食後、サン・フランチェスコ・ディ・パオラ聖堂見学、少時海辺を散策。海にはムール貝の養殖をしている筏が見られました。海の水も透明度よく、綺麗でした。

せんでしたが、心豊かになり、暑さを忘れるほどでした。



公共広場・市庁舎の柱（左）

九日目
カプリ島観光
ソレント港からマリナグラナデ港へ。約二〇分。
小舟に乗って「青の洞窟」へ。
波が高く、悪天候の時は、ナポリの考古学博物館へ行く予定でした。残念、波も静か晴天でした。
洞窟の水中の色は澄んで青く、美しく、夢の様でした。太陽の位置により午前中が最も美しく見えるそうで、この時間を設定されたのだと思います。
カプリ島散策、自由時間に、以前訪れたボトルシップを買い求めたお店を探しましたが、違うお店になっていました。がっかり。
ケーブルカーで港へ。
ソレントの港のお土産屋さんで、レモンを使ったりキュウル、リモンチェッロを試飲、甘く強いお酒でした。
ソレント市街、タッソ広場散策、お土産屋さんを見て回り、ボトルシップを探しました。探し当てたお店は、小さく暗く、お婆さんが店番をしていました。みせてもらったところ、「もうこれ一つ」といわれ、集合時間もあったので買うことにし

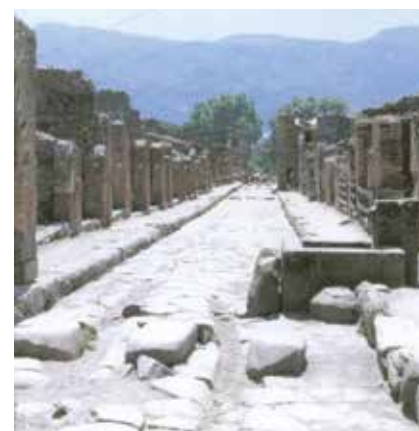


リモンチェッロ

ました。ちょっと安いなと思いましたが、ソレントの記念にしました。やはり、ビンの底を切って、船が入れてありました。
もう一つ欲しいものがありました。ソレントの近郊に日本の和紙に似た紙があるので、是非にとその紙を探しました。厚手の日本の和紙と同じで、レターセットになっていた。封筒の封のはしが漉いたままになっているのが特徴です。封筒のためだけに漉くのだそうです。
十日目
アマルフィ海岸観光
アマルフィ海岸は、一九九七年世界遺産に登録されました。
観光最後の日、世界一風光明媚と言われている、アマルフィ海岸の中で、アマルフィと人気を二分するポジターノを先ず訪れました。



ポンペイの赤といわれている独特の赤です
(あまり鮮明ではありませんが)



道路は舗装され、轍のあとが見られる
共同水道・水飲み場がある
渡りやすく飛び石がある



玄関前の犬 (モザイク)



大噴火で逃げ遅れたポンペイ市民
(復元)

展望台からは、変化に富んだ絶景が何か所も見ることが出来ました。

ポジターノの歴史は古く、九十一世紀に懸けて、商業で繁栄し、十六世紀には、貿易で裕福になりました。現在、イタリアで屈指のリゾート地になっています。

白い家並み、細い路地の両側のお店を見ながらの散策は、お買いものをしなくても楽しいひと時でした。

アマルフィに向かう途中、「エメラルドの洞窟」があるとの情報が入り、見物する事になりました。

道路からエレベーターで二階ほど降りて、手漕ぎの小舟に乗りエメラルドグリーンの海へ。洞窟の中は、白い鍾乳石の柱があり、水は青く澄んで、水中にマリア様の像が安置されていました。ちよつと楽しいひと時でした。



エメラルドの洞窟

アマルフィへ
アマルフィは、ナポリの南五十キロの所にあり、此処もまた、世界で一番美しいとされている海岸があります。
その昔、ギリシャ

神話の英雄ヘラクレスは、愛する妖精の為に街を拓いたとも言われている伝説があるくらい美しい景観です。

約四十キロもある入りくんで、切り立った断崖の僅かな平地に、レモン、オリーブの木が植えられ、家の屋根が木々の葉の陰からかいま見え、絵葉書のような景色です。

大聖堂と天国の回廊見学。

大聖堂のハサードは、黄金に輝くキリスト像がモザイク画で飾りつけられていたと記憶しています（記憶ちがいでしたらお許しを）。

天国の回廊は、上流階級市民の墓地として十三世紀に



ドゥオーモ 左が天国の回廊



天国の回廊

建築されたもので、中庭には、植物が植えられ、静寂な雰囲気のでした。

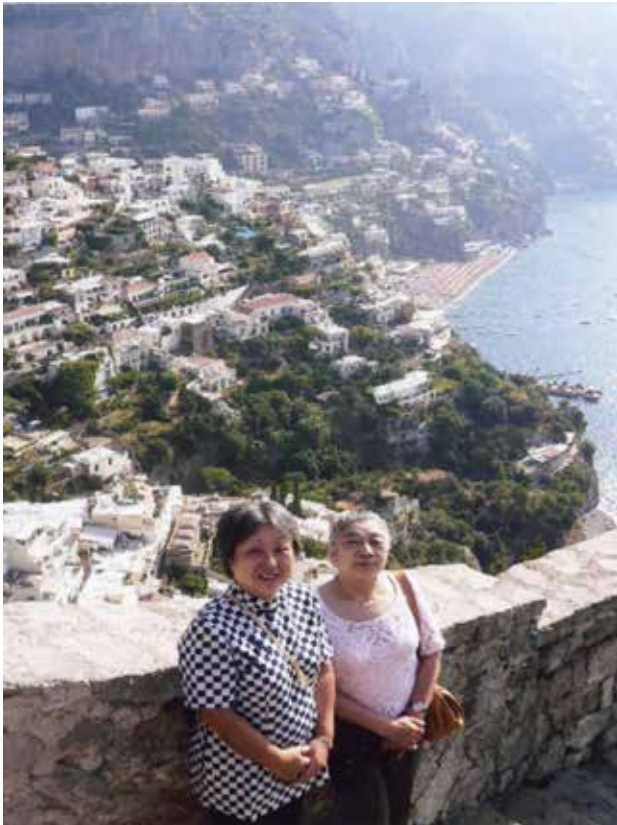
アマルフィ海岸の観光は、旅の最後の日にふさわしく、快晴で、空も海もあくまでも青く、街並みも美しく、五右衛門ならずとも「絶景かな・絶景かな」と言いたくなってしまいます。散策も楽しいものでした。

景色に見とれていたら断崖から落ちそうな狭く、曲がりくねった道でしたが、地元の運転手さんは、クラクションを鳴らしながら結構なスピードで走り抜け、スリリングなドライブを楽しむことも出来ました。

夕食は、ホテルで一つのテーブルを囲み、最後の晩餐を楽しみました。

明日は成田です。

飛行機で、夜明けを眺めることができました。真つ暗



アマルフィで

な闇の世界から、一筋青く明るくなり、徐々に黄色、赤へと夜明けが始まり大変幻想的でした。

終わりに

今回の旅は、一人旅を満喫することはありませんでしたが、職業の異なる女性二人と仲よくなり、今でも時々文通をしています。

ツアー参加は、職業も異なり、多くの経験を積まれた方々と親しくお話が出来ることが楽しみの一つです。小人数でしたし、ほぼ同世代で、価値観も変わらず、本当にたのしい旅行でした。

これには、添乗員の方の献身的サポートのお陰もあつたかと思っています。

何より、自由時間の過ごし方に悩まなくてすみました。何時も、自由時間の企画を考へ、連れて行って頂きました。レストランも素晴らしかったです。心から感謝です。

これから南イタリアへ行かれる方の、少しでもご参考になれば幸いです。

お断り

写真まったくだめ人間、例によって、文中の写真は、一部参考資料から拝借しました。ご了承ください。

充電器は持つて行きましたが、プラグが必要とは知りませんでした。ちなみに、イタリアはC2でした。ご参考までに。

訂正をお願いします。

孟宗・第四四号・頁七八上段三行目
ロエベ本店↓ロエベバルセロナ店

俳句

五色沼

信州松代

寺田公明

（詩歌の館）

草もみじ明るき館詩の宴
おやき食ぶ詩歌の館秋高し
新走り千曲のはやの甘露煮よ
朝の卓秋の葉一枚置かれいて
醬油豆散らし長いも朝の膳
秋茄子添え杏おこわの珍しや
信州の走り蕎麦かな今年酒
松代焼き青のさやけき小どんぶり
草の実の光る小瓶や夕餉とる
詩人集う新酒おでんに舌鼓

（大本営地下壕の跡）

荒削りの岩肌ひゆる闇の壕
秋深め素堀りの壕のがらば行く
壕深み岩屑を掌に秋の暮れ
ずり運びしトロツコの跡冷やかに
冷まじや大邱という文字岩肌に
刺されしままの削岩ロッド冷ややかに
雲の秋異国の人の影細く
異邦人むくの実拾う壕の蔭
拉致人のずり運ぶ山霧深し
壕口にたたずむや秋しぐれ

（千曲川・松代の町）

葛の葉のひろがる川辺さぎ渡る
列を組み光りを放つえのこ草
草の穂を手にくずさむ人のあり
千曲川遠みに霧らう白馬かな
詩朗読もみじの樹下に集い来て
博光の「千曲川」歌えば秋うらら

松代や長いも畑黄を点じ
つるうめもどき覗く路肩や日の熟れて
山里の杏林あんずばやしの爽やかに
武家屋敷秋日を散らす水走り
須磨子の家水澄む里の日に濡れて
秋出水土蔵に痕の残されて

磐梯・裏磐梯湖畔

桜もみじ積み石残す城の跡
城跡のもみじ影寄す鐘撞堂
湖遠み樹幹に光る鳶もみじ
磐梯や風に埋もるる草もみじ
雑木もみじ笹の緑を深めいて
磐梯路ななかまど目に痛きまで
雨あと日射しを返すななかまど
噴火跡の磐梯富士や雲の秋
会津富士わたる日照雨そばえや野路の秋
遊覧船憩う湖畔の秋日射し
野路くれば洋館の森秋蘭けて
少年になり割れば木の実の匂い立つ
いく代経たる桜大樹のもみじかな
秋晴れや高原風車めぐりたり

三輪車

沖繩に月虹わたる七日かな
「収束宣言」一一の句失う寒さ哉
大寒や娘らとこの湯気囲み
避難あと瓦礫のままに雪狂う
バーゲンに賑わう声や日脚のぶ
春立つとショパンの曲に耳寄せて
川面光る土手を子連れの春立つ日
寒明けや釣り糸光る午下の池
列島の闇へ声立つ鬼やらい
早春の磯の駅舎や人まばら
砂浜の二月の漁船日を寄せて
戸を開ける音の春めく二三軒
空真清朝の挨拶春めきて
白壁に竹の寒干し風に鳴り
生駒山背に竹の寒干し夕映えて
啓蟄や干されし布団猫眠る
迎春花小机飾るランドセル
占いのトランプ吉と春炬燵
春の雲浅瀬に小魚にぎわえり
磯近き駅舎に待つや風光り
三輪車走らす土手の遠霞み

猪苗代湖秋残照の雲湧きて
雨あとの紅葉を誘う五色沼
しらかんば梢ひらひら黄葉して
暮れの秋めぐる湖沼や雨はらはら
うすら日や山路に残るぐみの朱
枯葉舞う落葉松林足ゆるめ
しらかんば透かし紅葉の燃えさかり
べに溶かし漆もみじの沼明り
毘沙門の沼は紅葉に燃えさかり
もみじ溶かし湖にほつほつ狐雨
松原湖や紅葉をわたる小鳥たち
妖精か沼に紅葉の枝かざし
ひとときを水澄む里の沼めぐり
浮草の葭に添い寝や紅葉して
日の斑散らす沼に紅葉の根なし草
水草の紅葉を走る通り雨
ひつじ田のひろごり湖に櫂の音
もみじ深し湖に釣り宿二三軒
崖切り立ち夕闇せまる暮れの秋
秋日残す裏磐梯の峯荒ら荒ら

休耕田

姉さんかぶりの川瀬に洗う三つ葉芹
濠端や三桎の花日を寄せて
犬走り拾う小石や風光る
畑みちを赤い傘の子花菜雨
えびね蘭ささやく声の日に濡れて
「ただいま」とどこかで声の夕おぼろ
学校うら猫が飛び出す春嵐
鍬光る休耕田や春一番
石燈籠風呼ぶ苑の花楓
春日遅々大樹の根がた寝ころびて
春日遅々水面に小石走らせて
黒き土むき出しままに野火走る
一陣の風呼ぶ野火の音たてて
金・木の星のはざまや春の月
おぼろ月金・木星にいだかれて
災害地拾う石くれ彼岸ひがんにし西風

草野球

花曇り石工いしくの鑿のみの音冴えて
雨あがり山路は連曉日の熟れて
街なかにはどく花荷や風光る
岐れ路に梅のひとひら道祖神
残月のかかる土蔵や野梅咲く
駄菓子屋にころがる風船はぐれ雲
草野球はずむ高声山笑う
石段にかぞえる独楽こま絵花の昼
女主人和紙売る店の春灯
紙風船ころぶ幼なの泣き笑い
「おいでやす」和菓子のお舗しにせ春灯し
立ち話花海棠が笑ってる
子ら遊ぶ空き地に残る雪柳
夕明かり花のひとひら掌にうけて
夕ぐれて洗うパレット木瓜の花

砂時計

ママさんバレー声立つ丘の風五月
海のぞむ丘はダンスの五月晴れ
植木市値切りに負けて苦笑い
光り撒き海月手をふる怪しげに
足からませ踊る海月の群れなして
花山椒沼地をわたる通り雨
葉桜や挨拶交わす疎水みち
青山椒日暮れの雨の独り酒
余花の風吹きあぐ峪や貴船口
錦木の箭羽枝の先や花ほつぽつ
詩仙堂日ぐれ葉騒の大でまり
城うらに日ぐれ雨呼ぶ著莪の花
鈴蘭の匂う小鉢の土こぼれ
卯の花のこぼれて山の昼深し
数えつつ拾う幼な花どうだん
鮎あゆ上岩にしぶきの光り充ち
ジャスミンに誘われ洋館窓ひらく
茉莉花の風呼ぶ垣の坂小道
残り花のタンポポの絮吹かれいて
紫つゆくさ眠りを誘うはぐれ雲
ラベンダーがかえ少女のおさげ髪

夏帽子

素足まま砂遊びせむ除染あと
子ら唄う「月の砂漠」や夏の宵
はだしの子はしゃぐ日暮れのにわたずみ
砂日傘パング模様に子らはしゃぐ
砂時計繰り返す子や端午の日
草矢放つ子らの砂山日が匂う
夕立ゆだちあとあじさい色の雲流れ
街の露地曲がれば花袖匂いきて
峡の杜日の斑ふをよぎる黒揚羽
人ほがら雨後の原宿夏めきて
少女像のぞく薔薇門日が匂う
島は基地にえの血えこの花染めて
湯あがりや砂嘴さしに入日の夏館
夏帽子買わずあれこれ品定め
文字摺草隣りの子らは伸び盛り
ブランコ漕ぎ振り向く園児ねむの花
書を閉じてちぎれ雲追うねぶの花
山里や駅舎に残る花菖蒲
隠り沼山ちさ散らし夕ぐるる
紫陽花や入り日に湖のさざなみて

天道虫

炎昼を配る挨拶郵便夫
尾光らせ蜥蜴が走る閉鎖村
紺浴衣笑う花屋の夕明り
回転寿司笑いながらに皿重ね
バンデージしめてリフター汗光る
トラック過ぐ里の大暑の砂ぼこり
溪添いの奥夏座敷湯葉すくう
雲の峯クレインの光るビル工区
若妻の杖に鈴つけ山開き
四方眺め天道虫の風に翔つ
猫眠る垣に這い寄る灸花
雨あとの葉かげにのぞく花胡瓜
大雪山風呼ぶ峡のちんぐるま
昼寝覚め父は天下の大あくび

山上湖

サイクリング秋立つ日ぐれ葉騒はざいして
花時計丘に葉ずれの秋立ちて
顔あたる床屋の飾り秋めきて
雀二羽樹かげを拾う残暑かな

秋暑かな居眠る猿の尻みせて
金曜日デモ子は肩車秋あつし
原発集会列島どこも天高し
サイレンが走る街なか秋暑し
満月を兎と遊ぶ夢の中
日のあたる川洲に羽音むくの群れ
夕映えて川瀬をわたる黄鵠鴿
草の穂にあたり山径いく曲がり
山上湖残月いだく雲の秋
お焼き食ぶ水澄む里の道の駅
青北風やサッカーボールに声弾み
母と渡りし木橋のあるや十三夜
往診の父待つ母と十三夜
放射能禍人なき里の鳥兜
おこられて少年の闇みみず鳴く
少女らの笑い声過ぐ花芙蓉
横目つかう連刺の鰯そぞろ寒
安曇野の水澄む里や鍬光る
リュック置く風呼ぶ丘の花むくげ
日照雨わたる湖畔の家や竹の春

道祖神

山小屋に風の息聞く秋深し
山門に灯のつくころや蘇枋の実
赤煉瓦窓辺に蔦の伸びしまま
えのこ草光りを散らす狐雨
母が残せし摺り鉢かこみとろろ飯
衣被すべらす箸のとまどへり
残り蚊を叩くうたたね酔いのあと
初ものの秋刀魚焼きあぐ留守居して
朗々とそらんじて居り秋刀魚の詩
うすばかげろう沼地の翳に肩よせて
虫しぐれ戸を閉めかねつ独り酒
山葡萄吸えば遠い日父のかげ
人なき村仔犬さまよう秋暑し
野葡萄の色のとりどり峡のみち
野路曲がり草の実拾う道祖神
草むらに拾うむくろじ沼光る
桜もみじ日の斑を散らす朝かな

再稼働

鍋の鮫鰯なにを語るや酒の席
赤提灯唄の流れておでん酒
木枯らしやドラム高鳴る金曜日
小春日溜め遊覧船の湖わたる
宴終りプラットホームに北の吹く
冬川に残るクレーン車雨ほつほつ
待合室マスクの人の目はうつろ
置き忘れし有りの実ひとつ初しぐれ
冬望月逝きにし母の在りどころ
脱原発にわかに吹かす師走風
肩組みて歓喜の歌を師走ぞら
アメ横に売り子声立つ師走かな
投票所師走を急ぐ市民たち
小選挙区制民意捨てられ冬ざるる
民意なき小選挙区や冬旱
政界の闇に戻りし冬館
なに狙い鱈の目光る闇の海
「再稼働」暴言走る年の暮れ
再稼働のうごめく議事堂夕凍てて
原発ノ―寒夜波立つ群れの声
「美しき国」の虚構をはがせもがり笛

生きていることが

寺田公明

フクシマでまた男がいのちを絶った
まだ五十代の半ば
仮設住宅で一人住まいをしていた

妻と息子を失い
職探しを続けていたが
あてがないままに

瓦礫をかたづける仕事に出かけていたという

大震災から一年半

勤めていた加工食品会社のビルは

巨大津波に呑み込まれ 壊れたまま

夏草がぼうぼうと茂り

コンクリートと鉄骨の空洞をさらしている

津波で亡くなった人は一万五千を超え

行方不明者は依然二千八百人以上
すさまじい災害であった

それにしても

折角救われた命でありながら

自らのちを絶つ人がやまない

判っているだけでも

すでに七十人を越えているという

原発からの放射能汚染 長引く避難生活

味気ないだけでなく 問題を抱えた仮設住宅

働く場所がない 営業の再開がうまく進まない

さらには除染・賠償などへの折衝

多くの困難な課題が

被災者の心身を掻き乱している

孤独はこれに一層拍車をかける

挙げ句は絶望死だ

死者は まだ五十代半ば

仮設住宅で一人住まいをしていた

生きていることが

どれほど苦渋に充ちていたことか

水産特区

寺田公明

海底はどこも瓦礫で溢れかえり

足の踏み場もない

瓦礫を取り上げるたびに砂塵が舞い

土色でよごれた海水があたりを暗くした

津波で漁船は残らず砕かれ

ワカメや牡蠣を養殖する器具のどれもが

流され 打ち上げられ 海底に沈んだ

漁師たちは海にもぐり

瓦礫を取り除く以外なにも出来なかった

漁船と養殖の器具の公費負担を要請

激甚災害法に基づいたものだが

どういうわけか県の態度は冷たく曖昧だ

「災害で打撃を受けた沿岸漁業を再生したい」

「民間企業の力を借りようではないか」

知事は「水産特区」に力を入れ 弁舌をふるう

財界は以前から列島の沿岸を欲しがっている

政府も後押ししの漁業権の特区構想に飛びつく

災害に便乗 東北の一部を手に入れんと：

米国のジャパン・ハンドラーも暗躍し始めて：

漁業灌を巧みに握り 土地を獲りあげる

漁民に頭を下げずに原発をつくり 動かす

基地や空港をつくり 海にその拡張もしていく

新たなエネルギーの利権を狙い 不動産屋も：

水産特区とは財界が海をのつとることに尽きる

漁師は結束した

壊れた漁船がまだ散乱している浜に 集結する

残された大漁旗をかざす 赤銅色の肌が光る

漁具・船など 生活づくりの闘いが

「特区」を葬る闘いが いち早く始まった

再稼働

寺田公明

放射線をばらまく 原発はいらない
だから 原発はやめて と云っているのです
活断層が走っている 再稼働は危ない
だから 再稼働はやめて と云っているのです
あなたには この声がときませんか
人間の耳を傾ければ 直ぐにも分るはずす
だから 国民の声を無視するのはやめて
くりかえし 心の底からお願ひしているのです

あなたはよくご存じでしょう

チェルノブイリの原発は「レベル7」

どれほど悲惨な放射能障害をもたらしたか

そして二十六年経った今も

あの重大事故はまだ収束していないということも

フクシマ原発も深刻な事故を起こし

同じ最悪事態になっていることも

「年間被曝量を二ミリシーベルト以下にする」

こう国の法律はその限度量を決めています

料金

寺田公明

原発事故後一年目である

東電が電気料金的大幅な値上げを通告してきた

値上げ額が 年間一千万円にもなる業者

従業員に給料を減額して支払うしかないという

中小企業の町では誰もが苛立ち 怒りを隠さない

値段は少なくとも需要と供給の関係で決まる筈だが

電気の値段だけはそうはいかない

広範な地域に一つしかない独占企業の会社だ

どんなに高くとも 買わないわけには行かない

原発停止で 火力発電所の燃料費がかさむというが

いや そんな薄っぺらな理由ではあるまい

東電が これから被災者に支払わねばならない

事故の賠償、除染、廃炉にかかる膨大な費用が

むしろ電気料金値上げの中核なのではないか

事故後早くも四ヶ月目 政府は

原子力損害賠償支援機構なるものをつくり

原発のある町では 二年近く経っても
なお九〇ミリもあり 全くの危険地帯
町民は未だ誰一人帰宅できないでいます
三〇キロ離れても七ミリ 全村民避難した地域があり
関東一帯にはホットスポットが散在 危ない
大飯原発の再稼働に踏み切ったあなたさまよ
一旦事故を起こしたら どんなことになるか
チェルノブイリが フクシマが 再現されたら
若狭地域は 琵琶湖は 京都は 大阪は
関西一帯はどうなってしまうか
一考されましたか

原発をやめて

再稼働をやめて

国民の声を無視するのをやめて

普通の 人間の暮らしがしたいのです

どうか お願いです

巨額な公的資金を東電に手渡している

住民より先に東電を救済するのがこの機構の狙いか

以前から電気料金を決める仕組みがあった

総括原価方式という手前勝手のもので

巨額な広告代や寄付金など所謂原発マネーでも

かかった経費はどれも電気料金にしてしまう

なんとも都合のよい方式だ

そこで 東電が被災者に支払う一切の費用を

総括原価方式で 前もって電気料金に上乗せする

国民の負担で 国民に借りた金を返す

東電と政府のこの合作 実に見事だ

東電は事実上破綻しているはずだが

その独占企業の料金の決め方まで

国が手取り足とり

親切此の上もない

災害を蒙った国民など どこ吹く風

なんとも あきれ返った話だ

折り紙

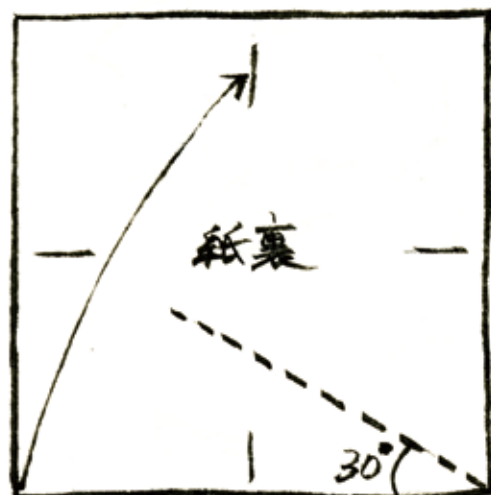
花の器より花卉を増やす。

遠藤 和邦

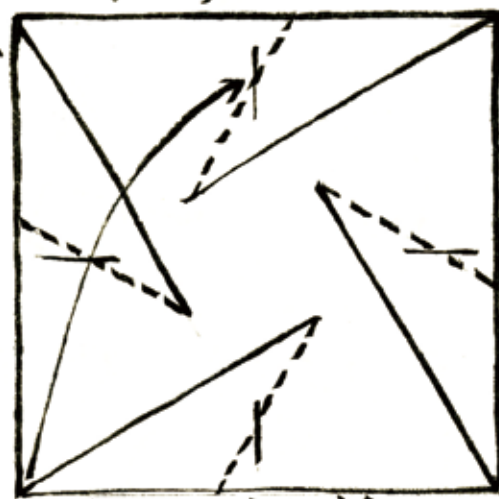
新しい創作折り紙作品が出来なくなつて1年以上になりました。何回も同じようなことを述べていますが、このような時期には古い作品を繰り返し折って日々を過ごして居ます。そうしている内に新しい工夫が生まれて来るからです。そのような時、矢張り自分で気に入っている作品をよく折ります。花の器もよく折ります。平成24年に花の器の変化から折る八重のバラの器に座布団折りを加えて12弁のものを作ってみることにして折り始めてみました。座布団折り部分を折り返してみた時に折り返しを変えて少し余分に折り返して見ました。その為に折り返しが大きくなり、折りもすつきりして角度も付き一枚の折り返して花卉が2つになるように折れました。ですから完成した時、花卉が12弁ではなく16弁に見えるではありませんか。やった!! 同一の折り方から、それぞれ形の良い一重、八重、それから16弁のものが出来上がり

です。今は時々大きな紙25cm×40cmを使って折り花卉をカールさせて完成品を眺めてニヤニヤしている今日この頃です。
その内新しい作品も出来るでしょう。頑張るぞ。

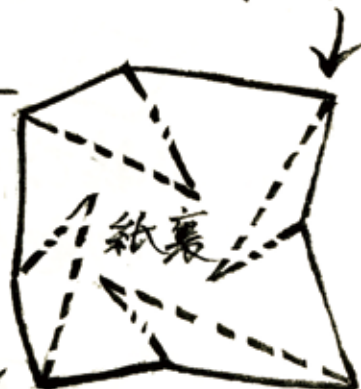
花の器～バラの器(同じ折り方)



紙裏に2辺の1/2部に印を軽く付け右下角を支点に左下角を上中央の印に合せ右1/2(対角線左)折線と入れこれを回転させながら4ヶ所で行い裏返す。



同様に右下角を支点にして左下角を上中央の印に合せ左1/2に折線も入れこれを回転させながら4ヶ所で行う。



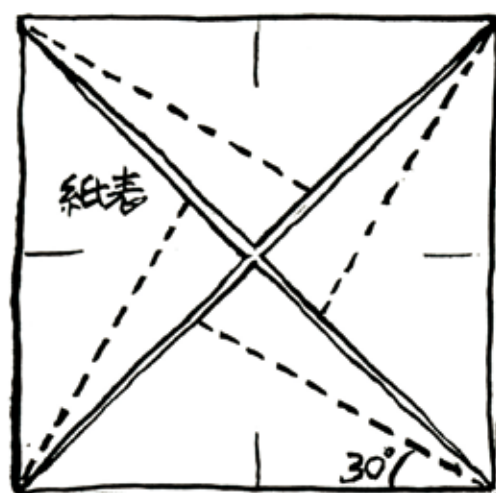
※1回で中央線より右側に合せると容器が小さく左側にすると大きくなる。花卉も変化する。



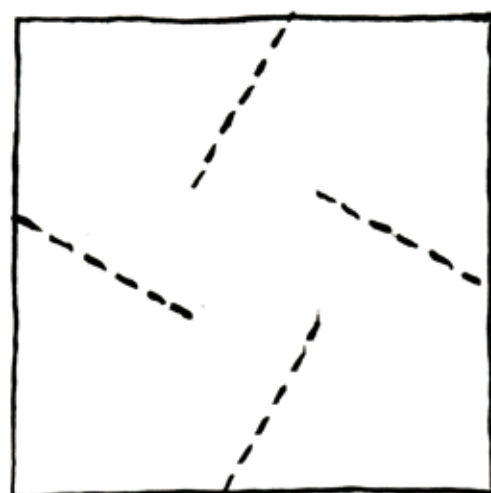
a部角をb部(角底の)に合せる。
一旦折り線を4ヶ所に入れてから下側へ押し込み止めを行い花卉部をカールさせる。

いかり折線も入れながら引き寄せ折りして器の形に組立て次図の如く折って止めを行う。

花弁の16あるばらの器(略図)



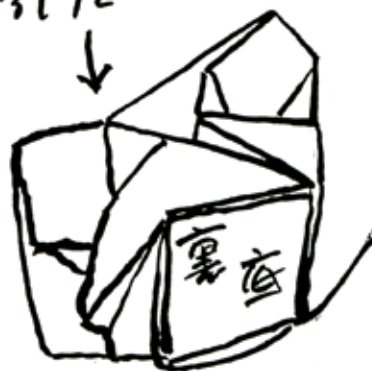
紙表を外に坐布田折一回に
花の器の折りと同様に折る。



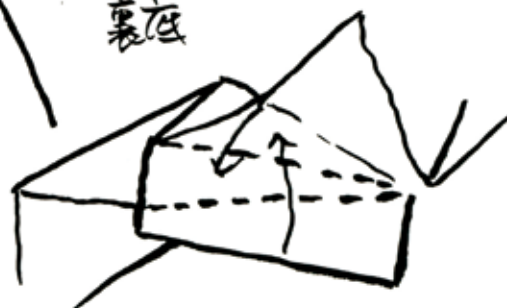
以下同様に折り込み、1重
のばら返折り進む。



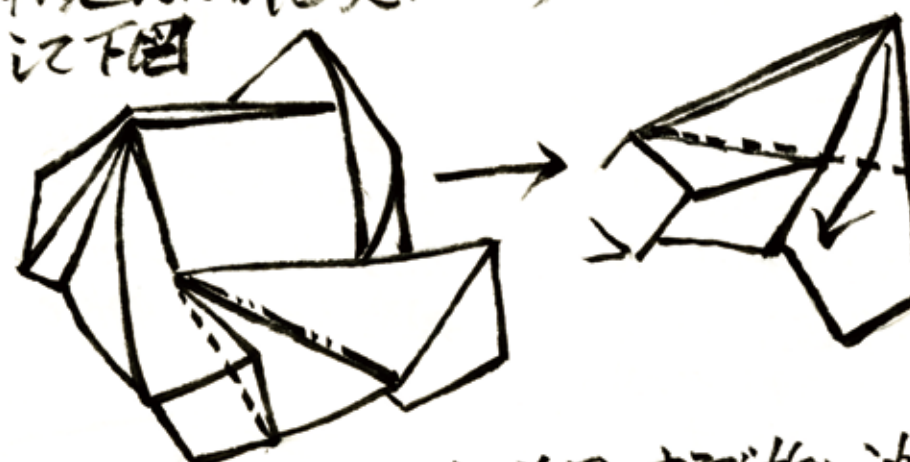
44折で
行くと



裏底



折込んだ部を度し中実の折り
て下図



谷線と山線で折り、次に次図の如く折り、氷を
44折で折り組合せをすると花弁が44になる。



花弁をカール
させて形を
整える。
バラの器が
見立てる。

〒254-0805
神奈川県平塚市高浜台5-21 遠藤和邦
0463 22 5573

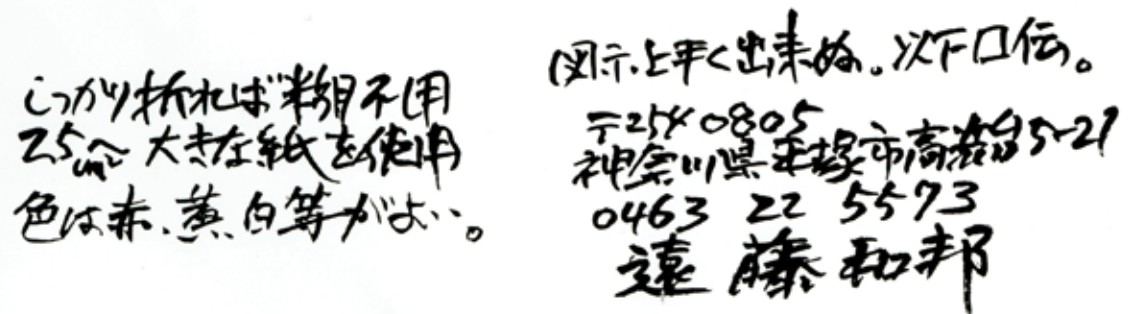
随
想

『マイ書評2012』

コレクション紹介という主旨で、2012年の1年間に会った書籍の中から数冊ご紹介致します。余程暇がないと、読む気がしないかもしれませんが、しばらくお付き合い下さい。

『ヘブンスコマンド大英帝国の興隆(上)』
 ジャン・モリス著
 (講談社 初版：2008.9.10)

結局、また歴史物になってしまいました。奴隷解放の福音主義を掲げて、版図を拡大する大英帝国のお話です。インド、南アフリカ、カナダ、オーストラリアなど帝国各地の戦乱と開拓の歴史、特にヴィクトリア女王即位から在位60周年を祝う1897年までの苦難と繁栄の歩みが描かれています。この間、大英帝国はヘブンスコマンド(天命)と責務に異常なまでにとらわれつつ、広大な領地を支配するようになります。大英帝国は次々と新たな帝国建設者の一群を送り出し、英国の海外投資、英国人の海外移住、商業活動、英国陸軍の軍事行動が切れ目なく続き、



ヴィクトリア女王の在位中に、世界人口の $\frac{1}{4}$ 、世界の陸地の $\frac{1}{4}$ を統べることになりました。その歩みは壮絶で、例えば人口が急増したアイルランドの飢饉の歴史やそれに関する大英帝国の係り方の記述など、いわゆる歴史秘話が満載です。大英帝国は、いい事もしたのでしょけれど、かなりきつい事をやってきた事がよくわかります。

作者のジャン・モリスは、1926英国生まれ、英米圏では第一級の歴史紀行作家として有名です。

『ヘブンズコマンド大英帝国の興隆(下)』

ジャン・モリス著

(講談社 初版：2008.9.10)

スエズ運河株を電撃的に買収して世界の制海権を掌握した英国は、富の力を誇示した大英断だけではなく、ナイル川の源流探検やアフリカ先住民との戦いを通して、数々の国民的神話を生みました。その歴史の真実と、帝国拡大の影で姿を消していった敗者の物語が描かれています。そしてついに、英国は世界の中で空いている場所はありません。入植者で埋め尽くし、大英帝国の人口は1837年からの60年間で3倍となりました。カナダの無人の荒野は耕地に変わり、オーストラリアのアウトバック

クは探索されて尽くされ、ビルマ、ニューギニア、ニュージラランド、香港は全て、ヴィクトリア女王が即位して以降に獲得されたのです。本分中に、英国国民の心情がよく描かれています。

——英国国民には、帝国の正しさを疑う物は少なく、自分達が悪意のある国民ではない事を知っていたし、帝国の偽善や欺瞞や残酷さに鈍感であったのは事実としても、文明教化の使命は心から信じていた。英国支配が、異教徒や未開の人々にとっては特に最善である事に疑いを持たず、自分達の善意に信を置いていた。——

『パックスブリタニカ大英帝国最盛期の群像(上)』

ジャン・モリス著

(講談社 初版：2006.10.24)

史上最大の帝国は、如何にして世界を支配したか。ローマ帝国と比較するお話が多いのですが、陸続きのローマ帝国と違って、北方の小さな島国は強力な海運力と技術力で、全世界を海側から制覇していったのです。島から島へ海底ケーブルを設置し続けたというのですから、当時のイギリス人は、よくやりましたね。本書では、大英帝国全盛期を祝うお祭り騒ぎに仕立て上げられた、ヴィ

クトリア女王即位60周年記念祭が行なわれた1897年6月22日を中心に据えて描かれています。後世からみれば、この記念祭に至るまでの50年間くらいが大英帝国の全盛期と考えられており、この時代においては、大英帝国の美德が全体的にみて優勢であった時代です。世界各地に英国流の文化が押し着せられていったわけですが、読み進めていくと、帝国にとって一番大切なインドへ至る道程となるスエズ運河が、まさに帝国の背骨、生命線であった事がひしひしと伝わってきます。

『パックスブリタニカ大英帝国最盛期の群像(下)』

ジャン・モリス著

(講談社 初版：2006.10.24)

絶頂期を迎えた大英帝国の支配方法は、極めて明瞭です。とにかく何処へ行っても英国人らしさを貫き通す事。とにかく何処へ行っても英国人らしさを貫き通す事。といわゆる、何の根拠もないけど、ひたすら英国人らしいやり方というやつです。生粋の英国人なら人前でみせない感情があり、毎朝『タイムス』紙を読み、なじみの仲間同士クラブで群れて、食事の後は殿方だけで葉巻を吸い、人に弱みをみせず、ベーコンエッグを食べて、クリケットに興じるなど、これら全てが帝国の象徴となり、人々

の憧憬の対象として至るところで模倣されました。これらの生活様式は、何世紀にもわたる一貫した国民性に根ざしていたため、統治の道具としてはうってつけだったようです。何があっても崩れない生活様式が、英国人を統治するべく運命づけられた特別な人間に見せたのです。その統治の課程で、一見フェアプレーで機会均等に用意されているように見える制度であっても、英国人を中心とする欧米白色人種とそれ以外の人種とではその運用はきちんと区別されていきました。そうです、現在も継続している「ダブルスタンダード」という支配方法です。

『帝国の落日パックスブリタニカ完結編(上)』

ジャン・モリス著

(講談社 初版：2010.9.6)

本編では、大英帝国の1897-1939年の歩みが描かれています。ローマを凌ぐ繁栄の頂点から大英帝国の衰退が始まりました。ヴィクトリア女王即位60周年の盛大な祝典から3年半後の1901年1月に、女王は崩御し、帝国の美德は消え失せ、新世紀とともに大英帝国は落日を迎えるのです。実は、1890年頃には、アメリカとドイツの急速な追い上げによって、それまで

の英国の技術的優位性は保てなくなっていたようです。1914年8月の第一次世界大戦の勃発をもって、「パックスブリタニカ」は終焉を迎え、大英帝国は初めて全面戦争を経験します。当時のアラブ世界の盟主オスマン帝国トルコは、ドイツ側について参戦したため、大英帝国の大艦隊は、1915年3月18日、ダーダネルス海峡の直接攻撃を開始しました。軍事史上最も壮観な光景とうたわれた出陣でしたが、待ち構えるトルコ軍にとっては格好の獲物でした。英国艦隊は主力艦3隻と将兵700名を失い、一つの時代が終わりました。英国海軍はこの後二度と、傲慢だけを頼りに戦争に勝とうとはしなくなったのです。

『帝国の落日 パックスブリタニカ完結編（下）』 ジャン・モリス著

（講談社 初版：2010.9.6）

本編では、大英帝国の1918―1965年の歩みが描かれています。帝国を維持する事が、利点となっていた時代は終わり、もはや維持する事が重荷となっている事に、大英帝国は気付きはじめます。1922年にエジプトの保護権を放棄、1932年サウジアラビア王国成立、

イラク王国、英国委任統治から独立、1936年スエズ以外のエジプトから撤退します。1939―1945年の第二次世界大戦をへて、1947年大英帝国にとって一番大切なインド統治から撤退し、インド連邦が独立します。大英帝国が、世界中に植民地を維持したのも、ひとえにインドを維持するためであったと言っても過言ではありません。それでもう帝国の存在意味はなくなったわけです。その後世界中での民族主義の高まりを背景に、反帝国主義陣営の急先鋒であるエジプトのナセルが、それまでフランス所有英国管理のスエズ運河の国有化を宣言したものですから、よせばいいのに英国のイーデン首相は大義名分があやふやなままにスエズに侵攻して、世界に恥をさらします。そしてついに、1965年1月24日、チャーチルが90才で息を引き取りました。大英帝国絶頂期を画した1897年のヴィクトリア女王即位60周年祭から、泣くに泣けないスエズの幻滅までの70年間を生き抜いた稀代の政治家の最後で、大英帝国は完全に幕引きとなったのです。

作者のモリスは、大英帝国の繁栄と衰亡は、世界史の必然であったとみています。英国がやらなければ、かわりのどこかの国がやっていたことであると。

大英帝国の世界制覇が人類にもたらした事は、（1）奴

隷制度を廃止したこと。（2）鉄道や通信網を普及させたこと。（3）世界制覇の結果として英語を普及させたこと、の3点です。そして、昔と違って近代らしいところは、宗教の押しつけをせず、現地人の宗教を尊重したことです。その世界制覇の道において、至らぬ点もあったし、行き過ぎもあった事は事実だが、それでも世界中の大多数は、当時の英国を着実で度量の大きい国であると認めていたから、世界制覇をやったのは英国で良かったのだという筆者の気持ち伝わってきます。僕も同じ感想です。もし、これが英国ではなくて、ドイツだったら厳格で自由がなく、ロシアだったら恐怖におびえ、フランスだったら制度の定着がいかがんになっていた？

『ヒストリアン（1・2）』

エリザベス・コストバ著

（NHK出版 初版：2006.2.25）

発売されると同時に全米ベストセラー第一位に輝いたエリザベスコストバの輝かしいデビュー作です。これは確かに売れると思いますよ。歴史ミステリ作品のおもしろさをたっぷり堪能できますから。お話の内容は、ドラキュラのミステリです。この謎をおいかけの歴史学者（ヒ

ストリアン）が、3つの時代で追い続けるのです。すなわち、若い頃のロッシが謎を追う1930年代、主人公の女の子の父親が若い頃に失踪したロッシを追い求めた1950年代、そして少女が父親の行方を探す1970年代、この3つの時代を行ったり来たりしながら、謎を追いかけるという展開です。国を越え、時間を越え、そして世代を超えて、闇に葬られた歴史に挑むヒストリアン達の命がけの物語！ というキャッチフレーズは嘘偽りなしです。ドラキュラ伝説の謎に迫りながら東ヨーロッパを巡る物語でして、ダヴィンチコードが表ヨーロッパならこちらは裏ヨーロッパというか、東ヨーロッパの魅力がいっぱい詰まったお話です。

ここで登場するドラキュラは、ブラムストーカーとハリウッドが作り出した「ドラキュラ伯爵」ではありません。15世紀ルーマニアにあるワラキアの封建領主である、ワラキア公ブラドツエペシュという実在した人物のことです。押し寄せるオスマントルコ帝国数十万の大群をわずかに数千の兵力で退けた国家の英雄であり、また英雄である一方、自国の民を何千何万と人間串刺しにして粛正したという血に飢えた暴君でもありました。この人物紹介だけでも、本編を読みたくなるでしょう？面白さのあまり止まらなくなり、徹夜覚悟ですけど。天使と悪魔など、

一連のダンブラウンの作品群が好きな方なら、200%はまりますよ。

著者のエリザベスコストバは、イエール大学卒業、ミシガン大学で創作学修士号を取得しているという才媛です。

松原一枝 『電灯が3回点滅した』

(エイジ出版 初版：1983.31)

大東亜戦争が終わっても、満洲や朝鮮にいた日本人居留民の引揚者が、無事に日本へ帰ることは容易ではありませんでした。通化事件(つかじけん)というのは、終戦の翌年である昭和21(1946)年2月3日に、かつての満州国通化省通化市で、日本人に対して一週間にわたって拷問と銃殺が行われ、あるいは凍死させられ、軍とは何のかかわりもない民間人二千人(一説によると数千人)が殺害された事件です。通化市というのは、いまの北朝鮮と支那の国境付近にあった市です。終戦時の通化は、中華民国(蒋介石・国民党)政府の統治下に置かれ、満州国通化省王道院院長を務めた孫耕暁が国民党通化支部書記長に就任し、満州国軍や満州国警察が転籍した中華民国政府軍によって治安が維持されていたのです。治

安が維持されていたから、満洲の奥地から日本に帰国しようとする多くの在留邦人や引き上げのために集まった日本人、17000名が滞在していました。男達は、満洲にソ連が侵攻した際の戦いに出自し、辺境で命を落としたり、シベリアに連行されたりしています。

通化事件の真相は謎に包まれ、当時現地にいた藤田実彦大佐が首謀者とされていました。筆者は前作品『藤田大佐の最後』で、「藤田大佐が首謀者であるというのは、事実ではない。」ことを伝えようとしています。その作品に対する読者からの、御指摘、情報をもとに前作品の内容の修正も含めながら、本作品は書かれています。現在では、この歴史上の謎は「加害者は、支那共産党軍と朝鮮人民義勇軍南満支隊(李紅光支隊)、被害者は日本人です。」と解明されていますが、そこに至る道のりは険しく、本編を読むと、「真実を解明して後世に史実を残す」という、物書きの執念というものが伝わってきます。

『ドレのドンキホーテ』

ミゲルデセルバンテス著

(宝島社 初版：2012.1.27)

世界中で400年にわたって読み継がれてきた古典「ドンキホーテ正編」に、キヌスターヴドレの描いた挿画を組み入れて編纂された本です。原作者のミゲルデセルバンテス(1547-1616)は、58才時、1605年に「ドンキホーテ正編」を著しました。セルバンテスは、あのレパントの海戦(1571年)に出陣し、負傷して左手が不自由になり、帰郷後に官吏となった後もいろいろご苦労があつて、この作品は牢屋の中で着想したそうです。そしてその文学史上に輝く傑作を視覚化するにあたって、ギヌスターヴドレ(1832-1883)は、短期間のうちに圧倒的な量の挿画を描き、ピサンという彫師が版木に掘ったと巻末に解説されています。物語は、ご存知の通り圧倒的に面白く笑い転げて一気に読んでしまうような展開ですが、ドレの挿画がすばらしくて、ドンキホーテの滑稽さが、リアルに伝わります。ドレの挿画の入った古典シリーズが同出版社から出ていましたので、全シリーズ購入しました。いいですよ。

『親鸞激動編(上)(下)』

五木寛之著

(講談社 初版：2012.1)

これは、同作者の『親鸞(上)(下)』の続編にあたるものです。親鸞の生涯は大まかに3つの時期にわけることができるといわれます。第一期は、幼少時から30代に至る放浪と勉強の時期で、これは『親鸞(上)(下)』で描かれています。第二期は、流刑者として越後に流され、やがて家族とともに関東へ移り住んだ時期で、本編『親鸞激動編(上)(下)』の担当はこの第二期です。

第三期は、最後に京都へ戻ってからの60代から享年90才までの期間で、こちらは現在出版されていません。タイトルの付け方が、五木寛之だけに、『青春の門(××編)』と酷似しているところが笑えます。内容も、楽しく飽きさせないお話です。親鸞の人間臭さ、弱さ、醜さが満載で、自分の嫌な所を直視して悩む姿が、読みながらいつの間にか親鸞を応援したくなるそうです。

親鸞が弟子に語ります。「おすくいくだされ阿弥陀様、ではない。われらの念仏とは、自分がすでにしてすくわれた身だと気づいたとき、思わずしらず口からこぼれ出る念仏なのだ。ああ、このような我が身がたしかに光に包まれて浄土へ迎えられる。なんとうれしいことだ。疑

いなくそう信じられたとき、ありがたい、とつぶやく。その声こそ、真の念仏なのだ。」いいお話ですね。

『百年の孤独』

ガスシア・マルケス著

(新潮社 初版：2006.12.20)

カリブ海に面したスペインの植民地であったコロンビアでは、スペインからの独立（1819年）後も保守派と自由派が対立し、ついに千日戦争と呼ばれる内戦に至りました。1902年にアメリカ海軍の戦艦ウイスコンシンで、ネールランディア協定が結ばれることで、この内戦は集結をみました。この物語は、何もないコロンビアの森を開拓してマコンドという村に定住を始めたブエンディア家の個性豊かな人々の100年間の歩みを描いています。描かれている時代は、コロンビア独立後、千日戦争を経た後、鉄道が敷かれたり、バナナ農園が作られたりした描写があるので、1860―1960年頃のようにです。ブエンディア家の歩みは、ホセ・アルカディオ・ブエンディアとその妻ウルスラの結婚から始まります。生まれてくる子達が、同じ娼婦と深い仲になって、そこから生まれてくる子達も、自分達の家族として面倒をみ

少女に純愛一筋となってしまう、という悲しくも心温まる老人の波乱にみちた恋物語です。舞台は、雨期乾期の季節や、スコールがででくるところや、大河マグダレーナ川、サンタ・マルタ、避暑地のカルタヘナ・デ・インディアスがでてくることから、スペインの植民地であったカリブ海に面したコロンビアのようです。時代背景は、1902年に集結をみた千日戦争の時に「博士」は少年時代を送っていたという描写があることから、90才の時は1980年頃ということでしょうか。

『十字軍物語―1』塩野七生著

(新潮社 初版：2006.9.30)

神聖ローマ帝国皇帝ハインリッヒが行なった人事に対して、法王グレゴリウス7世が反対したのを、皇帝は無視したのが気に入らないという理由で、法王は皇帝を破門にしまいました。中世の時代には、破門されたら、社会から村八分ですから、破門された皇帝は、法王に勘弁してもらうために、罪を悔い改め許しを乞う者が着る粗末な服装で、1月の降りしきる雪の中、3日3晩カノッサの城の前に立ち尽くしたのです。1077年 このカノッサの屈辱が世間に知れ渡るや、西欧中の善男善女は

ていくのですが、4世代5世代にわたって、同じような事をずっと繰り返してしまふところが強烈です。どんなに戦争で活躍しても、事業で成功をおさめても、百年という時の流れの中で、最後は跡形もなく吹き飛ばされ、ただの土埃になっていくだけ。人間の営みのはてに待ちうけているものは、圧倒的な空しさだけなのでしょうか。

『わが悲しき娼婦たちの思い出』

ガスシア・マルケス著

(新潮社 初版：2006.9.30)

巨匠ガルシア・マルケスが、10年ぶりに発表した最新小説です。90才を迎える記念すべき一夜を、汚れ無き処女と淫らに過ごしたい、というお話です。主人公は、かつて港町の猛者としてならした「博士」とよばれる男で、今も新聞の記事の一部を書く仕事（外電屋）を続けています。13才で初めて女性と関係したのも娼婦なら、その後も長年にわたって数多くの娼婦のお世話になってきたという設定です。「博士」は90才を迎えるのもひとりぼっちですが、いつも無理な希望を聞き入れてくれる慣れ親しんだ娼家の女将ローサのお世話で、14才の少女と出会います。ところが、「博士」は柄にもなくこの14才の

法王の権威の力に驚愕しました。坊さんが一番偉い時代だったのです。若くて気が強い皇帝ハインリッヒは、この屈辱をはらすために、この後8年間にわたって、軍事力で法王グレゴリウス7世を追いつめ、何とか法王の権威を足許から崩そうと画策するのですが、次世代の法王ウルバン2世は、皇帝には逆立ちしてもできない事、法王にしかできない事をやることで権威を維持しようとしています。

1095年クレルモン公会議で、法王は聖戦を呼びかけます。「イスラム教徒は地中海まで勢力を拡大し、お前達の兄弟を攻撃し、殺し、拉致しては奴隷にし、教会を破壊してモスクに変えている。彼らの暴行をこれ以上許すべきではない。今こそ彼らに對し、立ち上がる時がきたのだ。わたしが命じているのではない。主イエスが命じているのだ。」神の代理人は、法王だけです。ローマ法王こそが全ての世俗君主の上に立ち指導できる力をもつということ、ウルバン2世は示そうとしたのです。こうして、1096年から、第一次十字軍派遣がはじまりました。本巻では、ヨロロッパを後にした1096年から3年をかけてイエルサレムを陥落し、その後の18年を費やして確立した十字軍史の第一世代の活躍が描かれています。第一次十字軍によってシリアパレスチナの

地に打ち立てられた十字軍国家は、彼ら十字軍第一世代がつくりあげたのです。特に仁義に篤い、プーリア公ボエモンドと甥の若きタンクレディの活躍はしびれますね。

『十字軍物語Ⅰ2』塩野七生著

(新潮社 初版：2011.3.25)

本巻では、第一次十字軍世代の活躍で1099年に聖地エルサレムを解放し、十字軍国家を樹立したキリスト教徒(フランク人)たちが、そのあと90年にわたってイエルサレムを圧倒的少数の居住者で守り続けるために苦労した歩みが描かれています。この90年間は、キリスト教徒側にはみるべき人材があまり輩出しなかったのに比較し、イスラム教徒側には1170年頃から、サラディンが台頭し、その圧倒的な能力と人徳で1187年イエルサレムをもとのままの状態に戻します。しかも、イエルサレムに居住していたキリスト教徒を奴隷にしたり、殺戮することなく、キリスト教徒側が提示した身代金と引き換えに解放したばかりか、聖墳墓教会を残しキリスト教徒の巡礼を認め、巡礼者の医療のために建てられた病院騎士団の病院もそのままに残したのです。あまりに寛大な処置に対して、イスラム教の導師達が反対するのも

退けて、イエルサレム解放を成し遂げた英雄サラディンの男ぶりはほれほれします。このイスラム世界きつての英雄が、今なをあの世界ではことあるごとに冷遇されている、少数民族のクルド人であったことを、その後のイスラム教徒達は、知っているのだろうか？と読者になげかける著者の見識。しびれます。

これだから、塩野七生は読み込む価値があるのです。

『十字軍物語Ⅰ3』塩野七生著

(新潮社 初版：2011.12.10)

さていよいよ十字軍の歴史の中で華とされる第3次十字軍(1183-1192)の主役リチャード獅子心王(ライオンハート)の登場です。1187年のハッティンの戦いで勝利をおさめたイスラムの名スルタン、サラディンにリチャードが挑みます。第3次十字軍では法王代理が同行しない「世俗の人々による十字軍」ともいわれ、リチャードに続く登場人物は、悪賢いフランス王フィリップ、神聖ローマ帝国皇帝フリードリッヒ1世(赤ひげ)などおなじみの顔ぶれです。それにしてもライオンハートという綽名は、キリスト教徒側がつけたのではなく、対戦したイスラム側が名付けたといわれますから、獅子

奮迅のリチャードの戦いぶりが伺い知れますね。リチャードは帰国に際し、サラディンと講和を結びますが、この2人の講和は26年ほど続き、キリスト教徒とイスラム教徒が聖地で共存できたのです。この後も、平和共存の合間の争いの場面に派遣される十字軍は、第8次まで重ねられ、最後は1291年過激なマメルーク朝のスルタン、カリルがキリスト教徒に唯一残された砦アッコに総攻撃を加え、1099年に聖地エルサレムを解放して以来192年の後に、キリスト教徒は完全にパレスチナから一掃されます。この192年間、戦ってばかりいたわけでもなく、共に共存できた期間も長くあったのです。共存できた期間に共通して言える事は、トップにたつ指導者がキリスト教徒側もイスラム教徒側も、とも教養ある理性的な指導者であった事です。数多くの登場人物が活躍しますが、僕は第6次十字軍のキリスト教徒側のリーダーである神聖ローマ帝国皇帝フリードリッヒ2世が、好きです。法王グレゴリウスに2度にわたって破門されても知らんぷり、幼少時から独学で6カ国語を習得し、相手のアラブ人より教養あるアラビア語で交渉することができたそうです。おまけに、自分の配下の戦士達にもイスラム教徒が大勢いて、しかもそれを全て許容したというのですから、キリスト教徒達からみたら、とんでも

ないことです。相手のイスラム教徒たちは、フリードリッヒの事を、「無神論者」と評したそうです。好きですね、こういう皇帝。

『都会と犬ども』マリオ・バルガス・リョサ著

(新潮社 初版：2010.12.20)

1963年に発表されたバルガス・リョサの出世作といわれる作品です。ペルーにあるレオンシオ・ブラドという士官学校での作者自身の苦しい寄宿生活の体験が素材になっています。主人公のアルベルトは、高級住宅地に暮らす上流階級出身の若者ですが、その根性をたたきなおす、という父親の教育方針でペルーの5年間にわたる中央教育の途中から後半の3年間をこの士官学校で学ぶように、カトリック系の名門校から編入させられました。レオンシオ・ブラド士官学校は、ペルーというカラテンアメリカ全体の縮図と言われます。そこには、ペルー各地から、様々な人種や階層の少年達が集まってきて、キャンパス全体にジャングルのような荒々しい緊迫した雰囲気満ちています。そこは、腕力と狡賢さが物を言う弱肉強食の世界、まさに軍人が支配する世界です。そのジャングルに入った少年達は、皆1匹の犬ころ扱いされるこ

とから始まります。3年間の教育は、彼らの魂を荒廃させ、弱い犬ころから、残酷で野蛮で偽善的な大人へ作り替えていくのです。主人公のアルベルトは、この3年間の教育の中で、傷つき、学び、新しい「偽善」という価値観を受入れることで、「大人として生き延びる術」を身につけていきます。学友には、暴力の権化ジャガー、自ら変質する事ができず弱いままの人間として死んで行く奴隷ことリカルド・アラナ、上官からの圧力に屈することなく男の愛を貫くことで左遷されていく指導教官のガンボア、皆魅力的な男達ですね。特に、指導教官ガンボアの気骨にはしびれます。

『悪い娘の悪戯』 マリオ・バルガス・リヨサ著

(作品社 初版:2012.11)

この作品は、著者のバルガス・リヨサが70才の時、2006年に発表されたものです。リヨサが得意としてきた歴史長編とはがらりと違った自伝とも思われる作品で、ある女性との40年にも及ぶ愛の軌跡が描かれているとあって、刊行前から話題沸騰となったようです。

主人公は、ペルーのリマ、ミラフローレンス地区出身のリカルド・ソモクルシオなるおぼっちゃまです。彼が

少年時代に惚れ込んでしまったのが、自称チリ出身という謎の転校生美少女という設定です。勝手に思い焦がれ美少女に翻弄されるまま、結局は別れる事になりましたが、1960年代、通訳の仕事で食いつなぎながら、革命に傾倒してパリで暮らしていたリカルドは、パリで暮らす彼女に再会するのです。しかも彼女はフランスの役人とかっちり結婚していたのです。その後も本名などないに等しい性悪女に強くひかれ続け、さんざん利用されたあげくに捨てられ逃げられて、リカルドは自分の人生を見失っていくわけです。1970年代は、ヒッピーが人生を謳歌するロンドンで、同じ事を繰り返して、1980年代は東京でヤクザの女になっていた彼女に出会い、また人生を攪拌されます。1990年代の舞台はスペインで、最終的には50才を越えて病のために見る影もなくなったこの性悪女の最期を受け止めるのです。15才から55才にかけての40年間にわたって、性悪女に注ぎ込んだリカルドの愛の軌跡、こういう愛もあるということでしょうか。それにしても凄まじいですよ、リカルドが惚れ込んでしまった性悪女、どうしてこういう女に惹かれちゃうんでしょうかねえ。それとも、実はどの男の心の中にもリカルド的価値観が潜んでいるのかな？

金目川河畔のチョウー10ー

キアゲハ

内田 久則

キアゲハは、数年前までは、金目川河畔で数多く見かけたが、最近はすっかり少なくなった。これはキアゲハの幼虫が食べる食草が金目川周辺で少なくなったことに関連していると思われる。最近この周辺の農地耕作者が減ってニンジン、パセリ、ミツバなどキアゲハが好んで

食べる野菜が少なくなつたためであろう。

図1は平成19年9月22日に朝のウォーキングの時、金目川の堤防上で見かけた夏型のキアゲハのメスである(図1)。キアゲハは蛹で越冬し、春は4月頃から出現する。その後、東京近郊では、年に2〜



図1 金目川堤防上の植物に静止する夏型のキアゲハのメス。平成19年9月22日

4回羽化を繰り返して、10月始め頃までその姿を認めることができる。図2は平成13年4月15日伊豆高原で撮影したツツジの花で吸蜜する春型のキアゲハのオスである(図2)。春型のキアゲハはやや小型で、オス、メスとも翅表は明るく(図23、25)これに対して夏型は非常に大型で翅表は黒化が目立つ(図30)。キアゲハの幼虫の食草は、前述の農作物以外にもハナウド(図3)、アシタバ(図4)、シシウド、セリなどであり、多くの野草類を食べる。平成16年5月に新潟県三島郡越路町の「はかま温泉」へギフチョウの採集にでか



図2 静岡県伊東市伊豆高原赤沢でツツジの花で吸蜜する春型オスのキアゲハ。平成13年4月15日



図3 ハナウドの花。神奈川県横浜市青葉区鶴見河畔。平成10年6月



図4 金目川河畔で見かけたアシタバの葉。
平成 24 年 12 月

かもしれないと考え、採集し、川崎の自宅へ持ち帰った。予想に反してこのキアゲハのメスは100個以上の多数の卵を産んだ。採卵及び飼育には野生のミツバを用いた。数日後卵は孵化した。食欲は旺盛で、数が多いので野生のミツバはすぐに無くなってしまふ。川崎の自宅附近では野生のミツバが手に入らなくなり、金目川上流の伊勢原附近まで探索に出かける始末となった。幸い伊勢原附近の金目川流域で野生ミツバの繁殖地を見つけることができたので、しばらくは餌の確保は大丈夫と安堵した。この間餌が足りないため、スーパーマーケットの野菜売り場でミツバを購入し、与えてみた。ところがこれを食べ

た。この折に「はかま温泉」の山畑近辺の雑草が生い茂った斜面で、羽化がうまくいかず後翅が変形し飛べなくなっているメスのキアゲハを見つけた。この状態で交尾を済ませているかどうか難しいな、と思いながらもメスなので採卵ができる

べた幼虫群は元気が無くなり、60%が死亡してしまった。食用に販売しているミツバには、恐らく除虫剤が散布されていたのではないだろうか。この経験から、販売用のミツバを餌にするのはやめた。やがて幼虫は終齢となり、食欲は益々旺盛で餌のミツバはすぐに足りなくなった。川崎市黒川附近には里山が残っていて、野菜栽培農家が点在し、畑がある。この付近で野生のミツバが見つけれないかどうか探索に出かけてみた。鶴見川の源流の南岸は台地になっていて、ここを登ると多くの畑が目に入り、そのなかにはミツバを栽培している畑があった。また運の良いことには、その畑で持ち主が農作業を行っていた。早速近寄ってわけを話し、ミツバを売ってもらうことにした。栽培のミツバなので株は大きく、白菜1個分程度ある。農家のご主人の話では今の時期のミツバは大きくなりすぎて売り物にならないとのことであり、買ってもらえてむしろありがたいといわれた。10株ほど根がついたままで分けて貰い、プラスチックの大袋に入れ、帰宅した。自宅で、早速、プランター5個にミツバを植え付け、多数のキアゲハの終齢幼虫を移した。また、幼虫が脱走しないようにあらかじめ作っておいた目の細かいプラスチック製の布袋で各プランターを被覆した。これでおそらく食草を追加することもなく蛹になり、やが



図5 アシタバ上に産みつけられたキアゲハの卵。

て羽化してチョウになるだろうと予測した。今回のように80頭以上のアゲハチョウ類を飼育すると、餌の確保が大変なことをあらためて実感した。数日後、終齢幼虫は順調に前蛹となり、蛹になった。やがてキアゲハは無事に、順次、羽化していった。

餌の確保で大変苦労したが、最終的に十分なミツバを与えることができたので、立派な夏型のチョウに育ち、自然界で見られる夏型のキアゲハと同じ大きさであった。一般に与える餌が不足すると、体が小さい個体となってしまう。このときの飼育は、キアゲハの数が多く、毎日の記録、写真撮影などが十分できず観察が不十分のため、いずれ綿密な再調査が必要と考えていた。平成24年度になって、もう一度キアゲハの飼育をやってみたいと考えていたところ、蝶の飼育を行っている友人の中西氏がこの話を聞いて、実はキアゲハの飼育をやっているというのであった。平塚では、前述のように、最近

キアゲハを見かけることが少なくなった。しかし平塚市長持の中西氏の自宅では、畑に野生のミツバやアシタバが繁茂していて、キアゲハが数多く飛来し、卵を産みつけているとのことである。



図7 脱皮直後の2齢幼虫。尾側に殻がある。右側は初齢幼虫の食痕。



図6 キアゲハの初齢幼虫



図 13 蛹化したキアゲハ。頭部に突起がある。



図 12 アシタバの茎で前蛹となったキアゲハ。体に回した糸に注目。



図 9 脱皮直後の 3 齢幼虫。緑化している。尾側後方は殻。



図 8 2 齢幼虫。体中央部に白帯がある。頭部前方は幼虫の食痕

に黒色であるが、体中部に白帯が認められる。初齢幼虫の食痕は、写真で示したように、葉の表面のみに舐めとられたような形態であったが、2 齢幼虫になると太い葉脈は残すが細かい葉脈は食べている(図 8)。その後、8 月 9 日には脱皮し 2 齢幼虫から 3 齢幼虫となり、体色は緑になった(図 9)。緑色の環状の縞と黒色の環状縞が交互に入り組み、黒色の縞の上には橙色の斑点が散らばり、なかなか美しい外観である。この形態は、明らかにゆずぼうし型

と呼ばれるナミアゲハやクロアゲハと異なる。なお、この幼虫は脱ぎ捨てた殻を食べてしまった。この習性はたんぱく質の補給に役立つと思われる。さらに 2 日後の 8 月 11 日には最後の脱皮を行って、幼虫は終齢となった。食欲は旺盛で体は著しく大きくなった。上から見ると緑色の環状縞はやや細くなり黒色の環状縞が幅広くなり、橙色斑がより強調される美しい外観である(図 10、11)。8 月 14 日になると幼虫は食欲がなくなり飼育箱の中を激しく動き回るようになった。蛹になる前兆と思われたので、木の小枝を飼育箱



図 11 橙色斑が強調される美しい外観の終齢幼虫。食欲は旺盛でかなり太い葉脈も食べてしまう。



図 10 脱皮直後の終齢幼虫。尾側は殻。



図 15 蛹から脱皮直後のキアゲハ。



図 16 翅はぐんぐん伸展する。



図 17 ほぼ翅の伸びきったキアゲハ。口吻も一本の管となり丸く巻かれている。尾端の形態からオスである。



図 14 黒化したキアゲハの蛹。間もなく羽化が始まる。

ら上方へ登り始めて、羽を十分伸展させることが可能な場所を確保しようとする(図 15、16、17)。約 15 分もすると翅はすっかり伸びきり、2 つに分かれていた口吻は 1 本になりやがてぜんまい状に巻かれる(図 18)。このとき羽化した 2 頭はいずれもオスであった。もしこ

に入れた。1 頭の幼虫はこの枝に取り付き、もう 1 頭はアシタバの葉蔭の茎で前蛹になり(図 12)、翌日には蛹になった(図 13)。この二頭の蛹は 8 月の早朝に外観が黒色となった(図 14)。こうなるとまもなく羽化が始まる。この 1 時間後に羽化がはじまった。殻からの脱出は 10 秒前後で終わってしまうので、写真に撮影したいと準備していてもなかなか時間に間に合わない。この時もうまくいかなかった。殻から脱出したチョウは、翅を震わせなが



図 21 日本産夏型オスのクロアゲハ。静岡県伊東市赤沢採集。神奈川県川崎市で飼育した個体。尾状突起が発達している。平成 11 年 7 月 14 日



図 20 黒化した F 3 の死卵（矢印）。1 卵も孵化しなかった。

を産んだ。ところが産卵はこの一日のみでその後はまったく産まなかった。しかし母蝶はその後も生き続け 4 日後に死亡した。このことも異常で、一般には母蝶は産卵すると 1 日で死亡するのが常である。この 3 代目の卵を観察していたが、10 月 18 日には色調が変わり、幼虫が生まれるのかなと期待していたが、卵はそのまま黒化してしまい、孵化しなかった（図 20）。卵はすべて死卵であつたと思われる。近親交配でこう

なったのか、調べてみる必要があると思われた。この経緯を纏めたのが表 1 である。今回のともかくも 1 代目のハンドペアリング法の成功から、これまで考えてきた各種のチョウの交配による飼育の計画が可能になると考えられた。そのひとつは日本産クロアゲハ（図 21）と香港産オナシクロアゲハ（図 22）の交配である。日本産クロアゲハには尾状突起があるが、香港産オナシクロアゲハにはない。尾状突起のあるのが優性か劣性か判断するには、交配してみるとわかる。交配種がどうなるか興味深い。石垣島産クロアゲハではこの尾状突起があるものの、本土産より短いことが知られている（文献 1）。

交配を行うことで相互関係が明らかになると思われる。またナガサキアゲハについても、メスには有尾型と無尾型があり、いずれが優性か劣性かを明らかにするには、交配検討が必要である。



図 22 香港城門仔郊野公園産。神奈川県川崎市で飼育のオナシクロアゲハ夏型のオス。尾状突起はない。平成 2 年 7 月 5 日

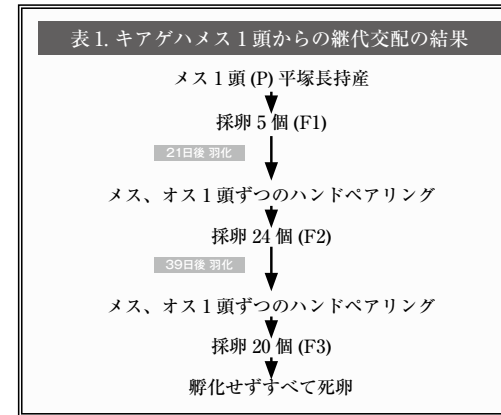


図 18 数分経過後羽化が終わり、静止し、飛び始める前に体液を排泄する。

庭のアシタバの葉を詳細に調べてもらったところ、たまたま 8 月 3 日にキアゲハが産卵するのが観察され、卵が 5 個採集できたのととで、この 5 個の卵を頂いた（F 1 卵、※表 1）。中西氏からの追加の 5 個の卵は、その後幼虫から蛹になり、間もなく羽化した。幸いオスとメスであったので早速ハンドペアリングを行って交配した。交尾の時間は 5 分程度で短かったが、その後メスに産卵させたとこ

ろ、24 卵を産ませるのに成功した。これは F 2 の卵である（※表 1）。この卵から初齢幼虫が 18 頭生まれた。その後



図 19 F 3 のキアゲハのメスとオスをハンドペアリングにより交配しているところ。翅を開いているのがメスで、翅を閉じているのがオス。

も発育は順調でやがて終齢幼虫となり、9 月 25 日ですべて蛹になった。この頃から朝晩の気温はやや低くなってきたためか、幼虫の発育は 8 月の頃に比べて遅くなり、また、個体差も出てきた。蛹になっ



図 28 神奈川県中津川愛川産、夏型のキアゲハのメス。大型でオスに比べ黒化が目立つ。しかし、後翅亜外縁の黄色斑列（矢印）は明瞭である。



図 27 神奈川県平塚市産、夏型メスのキアゲハ。大型でやや黒味が強い。後翅外縁の黄色斑列（矢印）は明瞭である。平成 12 年 11 月 26 日



図 24 新潟県三島郡はかま温泉産、春型オスのキアゲハ。小型で明るい黄色で、後翅表面亜外縁の黄色斑は明瞭（矢印）。平成 4 年 5 月 5 日



図 23 東京都小金井市多磨霊園産、春型オスのキアゲハ。やや小型であるが、翅は黄色で明るい。下翅外縁の黄色斑列（矢印）は明瞭。平成 12 年 5 月 7 日

ハンドペアリング法を用いると、この他にも極めて興味深い様々な事実の解明が可能となる。

キアゲハは学名を *Papilio machaon hippocrates* C.Felder R.Felder. 1864 という（文献 2）。わが国においては、屋久島以北の日本全土に分布しているとされる。国外では、旧北区のほぼ全域を含め、北アメリカ北部まで広い分布を示す。文献的には屋久島以南のわが国には分布して

いないように記されているが、果たしてそうだろうか？台湾の文献を見るとキアゲハの分布は多くない、と記載されながら高山地帯には分布しているようである。台湾産のキアゲハの学名は *Papilio machaon sylvina* Hemming, 1933 とい、日本産の学名と異なる（文献 4）。多少の斑紋の違いがあると推定されるが、図鑑で一見したところでは、台湾産も韓国産も日本産と変わりが無い（文献 3、4）

わが国のキアゲハについては地域による斑紋上の変化は無いとされている（文献 2）。しかし、詳細な調査はこれまで行



図 26 山梨県甲府市櫛型産、夏型のキアゲハのオス。春型に比べて翅表の黒化が認められる。しかし後翅亜外縁の黄色斑（矢印）は明瞭で明るい。平成 4 年 7 月 25 日



図 25 北海道旭川愛山溪温泉産、春型メスのキアゲハ。小型であるが明るい黄色で、後翅表面亜外縁の黄色斑列（矢印）は明瞭。平成 8 年 6 月 25 日

われてこなかったのではないかと思われる。私の手元には、現在、北海道、新潟県、東京都、神奈川県、山梨県、岐阜県産など多数の標本がある。この各地産のキアゲハについて、地域的斑紋変化を調べてみると、東京産（多磨霊園）のオスの春型（図 23）、新潟産（新潟県三島郡はかま温泉、図 24）のオスの春型、北海道産（旭川愛山溪温泉、図 25）のメスの春型はいずれもやや小形で、全体の色彩は明るく、後翅外縁の黄

色斑（矢印）が明瞭によく発達している。また、夏型については全体的に大形で、色彩は黒味を帯びているが、山梨県産（甲府櫛型）のオスでは後翅亜外縁の黄色斑は明瞭であり（図 26）、夏型のメス（図 29）、夏型のメスについても神奈川県産（平塚市徳延、図 27、中津川愛川、図 28）は、いずれも後翅亜外縁の黄色斑（矢印）が明瞭である。

ところが、群馬県月夜野産（図 29）、及び新潟県小国産（図 30）の夏型のメスではいずれも後翅表面亜外縁の黄色斑



図 30 新潟県小国産、夏型メスのキアゲハ。後翅表面は黒化が著しく、亜外縁の黄色斑列（矢印）は消滅しかかっている。平成 9 年 7 月。



図 29 群馬県月夜野産、夏型メスのキアゲハ。大型で翅表の黒化が著しく、後翅前面亜外縁の黄色斑（矢印）は不明瞭で、消えかかっている。平成 10 年 7 月 8 日

(矢印) がすべて黒化して不明瞭になっている。これに対して、前述の産地以外の川崎市産、岐阜県産、山梨県産などの夏型のメスでは、すべてこの後翅亜外縁の黄色斑は明瞭に認められる。このように新潟県及び群馬県北部に産するキアゲハメスの夏型に認められる後翅表面亜外縁の黄色斑が黒化し消失しかかっているのは、一種の地域による斑紋変化と思われるが、今後さらに検討の必要性があると考えている。

今回、キアゲハの飼育を行った結果2つの新しい事実を発見した。

第1点は、ハンドペアリングによる、1頭のメスからの継代飼育では、遺伝子の交雑がないため、3代目あたりから卵の死滅する可能性が高くなると思われる。

第2点は、日本産キアゲハには地域による斑紋変化があり、新潟県、群馬県北部産の夏型のメスは後翅前面の黒化が著しく、亜外縁の黄色紋が消滅する傾向がある。この2点はこれまで報告されることがないと思われ、間違いない事実かどうか、調査を継続する必要がある。

参考文献

- 1 猪又敏雄著。原色蝶類検索図鑑、北隆館。平成2年(初版)・・16。
- 2 猪又敏雄著。原色蝶類検索図鑑、北隆館。平成2年(初版)・・12。
- 3 陳維壽著。台湾的彩蝶、南天書局有限公司。民国76年10月1日(初版)・・46。
- 4 申裕恒著。Coloured Butterflies of Korea, Academy Publishing Co., Ltd. 1991: 26～27。

新入会員紹介

新任の挨拶と、結核漫談

横浜ゴム健保組合平塚診療所 塩之入太

平成24年4月に、横浜ゴム健保組合平塚診療所および横浜ゴム平塚製造所安全衛生課産業医に着任しました、塩之入太(しおのいり ふとし)と申します。

昭和44年に横浜市中生まれ、A日程の長崎大学医学部に昭和の最後の学生として入学しました。JA水戸協同病院、KKR横須賀北部共済病院(現・横須賀共済病院分院)を経て、小石川東京病院(旧・日通東京病院)と、職域の総合病院に勤めることが多く、このたび横浜ゴムにお世話になることになりました。脂質異常症・動脈硬化について、山田信博筑波大前学長のもと指導を得て、糖尿病専門医と循環器専門医となりました。

専門医はとったものの、各所では内科としての職務が多く、横須賀では塵肺や石綿肺、そして文京区と豊島区の境にある、小石川東京病院では結核を診る機会があり、今日は結核の漫談をさせていただきます、自己紹介とさせて

いただきます。

「湿性肋膜炎など診断に窮するものか?」と、諸先達の皆様には一笑に付されてしまうでしょうが、なにぶん平成卒の呼吸器門外漢にとって、手探りの連続でした。振り返れば、熱研・旧二内と長崎は感染症に長けた先生方が多く、学部で教えてくださったことは大変頼りになりました。

小石川に来たのは、マシンで各大学が休校になった春のこと、そのときも4名の成人麻疹症例に遭遇し、発疹を薬疹じゃないか、風邪が治らないのは誤診じゃないかと、ねじ込まれて凹んでおりました。

そんななか、お彼岸に風邪を引いてから治らないという、60歳手前の男性が受診しました。右の鎖骨に接して撒布像があり、昔結核をしましたか?と尋ねても、そんなことは無いと色を成して仰るものの、一般だけではなく抗酸菌も提出して、それが1回目で陽性・結核菌PCR陽性とすんなり診断がつき、幸い区内の東京医科歯科大学の病床もあいており速やかに入院させていただきました。この男性が、自分で診断した最初の結核症例でした。

次の症例は、寝たきりの90歳過ぎの女性で、60歳代の息子さんが独りで介護していました。食が細く、30kgを切るくらい痩いうことで、往診の先生から紹介されてきました。聴診すると、右の呼吸音がありません。むかし、肋膜炎をしましたか？とたずねても、息子さんは知りません。往診の先生も、往診だけで写真はありませんかと仰る。呼吸音のことは判らないと。満杯の胸水と圧迫された無気肺。癌性胸膜炎ならと穿刺してみると、胸水はリンパ球が主体で、糖は40mg/dlと低い。ADAは80と高い。一般培養も、細胞診も所見を欠き、抗酸菌染色も結核菌PCRも陰性。そもそもPCRは感度が、チールニールセンとそう変わらないのですが、3回目の胸水の液体培地が3週間目で抗酸菌培養陽性となり、診断に結びつきました。

しかし、2つの壁がありました。結核性胸膜炎は肺外結核であり、この症例では痰も胃液も結核が出ないものですから、呼吸器の先生もお引取りにならない。認知症状の周辺症状はないものの、却って活気も乏しくハイ・イエという意思疎通も難しい方でした。食が細く、胃瘻など拒否した経緯もあり、十分な抗結核薬が呑めない。結核でなければ治療の手控えてよいかと思うものの、結

核となるとそうはいかないことを、さらに1週間掛けてご納得いただき、経鼻チューブからINH、筋肉注射でストマイをという変則的な治療だけさせていただきました。しかし、なんとかその後2週間で胸水も半分になり、減るとともに食事も取れるようになり、通常のリファンピシンも呑めるようになり、胸水がなくなるとともに、ご自宅へお戻りいただけることになりました。

3つめの症例は、胃がんで切除して十数年という80歳代の男性でした。微熱がつづき、右のリンパ節が腫れる。主治医が外科の先生でしたので、リンパ節を生検してということになりました。おもったより軟らかく癌ではなさそう、割をいれると、ニキビの芯のようなものが数個見られる。なんの事はなく、乾酪性壊死の結核性リンパ節炎でした。痰も胃液も結核が出ないものですから、外来で型どおり4剤を始めたものの、リンパは一つだけでしたし、切除してしまったので、熱も引き、振り返れば、手術での治癒症例となったようなものでした。瘰癧（るいれき）・結核性リンパ節炎は連なって腫れるとおもっていると、ごく小さなものもあるようです。

4つ目の症例は、インド料理の店主さんでした。本郷あたりはラーメン屋より、本場の南アジア人のやっっているカレー屋さんのほうが多いようなものです。3週間

37・5度の熱が引かない、夜苦しくて目が覚める。と、転々

としてきた方でした。最近の里帰りはない。2つめと一緒で、左の胸水がある。胸水糖正常・胸水培養と痰培養は陰性であったし、利尿剤で胸水は引いたので、循環器を主科として、心外膜炎としてみてもらえばよいだろうと、クリスマス前に転院先を東京大学として送り出しました。東大では心のう水も穿刺して、結核性心のう膜炎であることが判明しました。抗結核薬投与で、東大も正月を過ぎし軽快退院となりました。胸水には結核感染症の病態の座はなく、心外膜炎・軽度の心タンポナーゼが胸水・夜間臥位呼吸苦を産んでいたようでした。

5つと6つめの症例は、5つ目は他の内科の先生の症例です。近くの整形外科医院で理学療法をうけながら、風邪の折は内科的処方も受けていたが、治りにくいという紹介でした。喀痰陽性ということで、専門病棟のある病院へ手続きをすすめました。まったく偶然に、同じ週に、その医院の理学療法士の20歳代男性が右胸の痛みで来院しました。聴診すると呼吸音はなく、気胸かなと写真を撮ると、下肺に胸水がありました。これが6例目になります。化学療法研究所がお近くと言うことで、紹介しました。病歴から、結核性胸膜炎だろうと早速4剤の治療に入られ快癒したそうですが、胸水・痰などの検体から

の同定には至りませんでした。

7つめは肺結核です。ある年の秋に、90歳代の女性が眼科の白内障術前検査で、内科に併診されてきました。胸部レントゲン写真にて肺尖部に小粒状影があり、結核精査をアルバイトの内科医師から指示されていました。手術はそれから！と。しかし、そのまま眼科手術を行い、眼科外来に3月まで通院しました。11月に自宅で転倒し、整形外科的な手術を必要として、入院になりました。このときは、ガフキー7号、あいにく結核菌PCRも陽性に、時間が掛かり、事後措置にも窮しました。ルーチンで内科に掛けるもののその内容は見ずに知らなかったと言う眼科医を含めて、7名の職員などにQFT-TB（クオンティフェロン）を行い陰性でした。眼科も整形外科も本人の希望で個室への入院だったのは幸いでした。

8つめは、整形外科に入院された別の80歳代の女性でガフキー3号が出ましたが、QFT-TBが陰性で結核が否定できました。結核菌PCRも陰性で、マイコバクテリウム・アビウム・コンプレックス（MAC）でした。整形外科の先生は前の症例で過敏に反応して下さいました。内科に併診するのに必要だろうと、QFT-TBまで検査を出してから連絡してくれたのです。自分なら出

さない検査です。高齢者でも、QFT-TBが陰性な人も居るものですね。早くに疑いを晴らすことが出来ました。疑いは晴れても、逆に薬剤に対して反応の乏しい、治りにくい非結核性抗酸菌症（NTG）ゆえ、腰椎麻酔で手術したものの、すっきりと抗結核薬が効く症例とどちらが幸いなのかは、判りにくいです。

9つめも、整形外科の80歳代の女性の症例です。3月35kg、7月33kg、8月32kgと体重が漸減し、時折37度の微熱が見られていたので近医で、感冒薬などを所望していたようです。7月7日に左鎖骨がびりびりして整形外科に掛かり、7月29日にCTを撮影したところ、右肺尖の小粒状影、両肺底背側の気管に沿った散布影がありました。先ほどの2例で大変活性化されていた整形の先生から連絡がありました。ツベルクリン反応では、硬結や水泡はないものの、40×20ミリと強陽性でした。8月に3回痰を見たが膿性でも血性でもなく、抗酸菌染色は3回とも陰性、4週間目までの培養も陰性でした。9月9日の4回目の痰では、抗酸菌染色は陰性だが、結核菌PCRが陽性。次第に肺尖の影が増強されていることもあり、9月13日に保健所に肺結核としての届けを出し、公費申請をして、4剤の治療を9月14日に開始しました。入院なしで在宅で治療を続け、体重も戻りましたが、

と正常範囲内でした。しかし、転院先の東京医科歯科大学では、腹水の抗酸菌染色塗沫陽性、結核菌がPCRで確定しました。この症例のその後は聞いておりませんが、想定外というのは難しいものです。

結核がでると、病院の職員は凹みます。看護職だけでなく、受付のクラークも、視機能訓練士も、治療にあたってくださいました。小石川東京病院の職員の皆さんに、感謝申し上げます。

さて、小石川にいた5年で自分の症例は先に挙げた8つと、あと結核性胸膜炎1例・肺結核1例の10例です。肺外結核・肺結核は、6対4となります。診断に失敗した、心臓の膜・腹膜の2例を引いても、4対4となります。

咳と痰で、肺結核というなら、最初から呼吸器のある病院へ行くでしょうし、紹介するにしても、コレステロールの医者など指名はしないので、肺結核がほとんど紹介されてくるはずはないと思うのですが、随分とは肺外結核があつたものです。

5年で他の内科医3名が診断に至った結核は、5つ目の症例を含めて塗抹陽性の肺結核が3例でした。

平成22年、平塚市 [http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/005_databox/0511_kekkaku/PDF/kekkaku_22.pdf] で肺活動性結核は38例・肺外活動性結核は8例だったそう

鎖骨のピリピリは変わらないそうです。右と左ですから、それは変わらないでしょうね。

最後の症例は、2月末入院の70歳代男性です。これもインド人の症例と同様、自分では診断治療に結び付けられませんでした。2月初旬に掛かりつけの東京医科歯科大学でいつもの通り降圧剤をもらいました。その後徐々に倦怠感と仰臥位になると苦しいということで、大学病院は予約がとれないと、当院に初診してきました。「随分と内臓肥満ですね」と、失礼なことを最初に申し上げました。「ベルトのアナが幾つか増えました」と、しかし、触つてみて、波動を触れてビックリ、腹水がある。肝臓はトランスアミナーゼの上昇はないものの萎縮し、尿蛋白は陰性。さて、東京医科歯科がかかりつけでも、消化器にあたらなないといけないが、何病か判らないと紹介もしにくい。主治医に電話して、満床というのでとりあえずお預かりすることになりました。癌性腹膜炎ではなさそうで、門脈腫瘍塞栓もない。普通の腹膜炎といっても、虫垂などもふくめての腸の穿孔もない。通常の抗生剤をいくつか変えながら投与していくうちに、反応が得られなまま、胸水まで出現し、主治医に病床を確保してもらえて、3月上旬に転院しました。当院では腹水の結核菌PCR陰性だったですし、腹水ADAは30・6（40以上）

です。文京区の統計でも、平成20年 [<http://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev0/0018/1183/kaku4shou.pdf>] 肺活動性結核は37例・肺外活動性結核は14例でした。平成21年肺活動性結核は36例・肺外活動性結核は5例でした。

大学病院が4つあるほかは、小石川東京病院を含めて百床の病院が3つあるだけという文京区の状態を考えても、毎年40例ほどの届出、5年で200例ほどでしょうか。その5%ほどを、自分が占めているというのは、突飛なものです。肺外結核なら1割に関与していたらいいのですから。

6つ目に挙げたMAC感染症は5年で十例弱くらいだったでしょうか、ガフキーがでるたびに、MAC！NTG！とお祈りしましたが、結核性と非結核性の比は半々でした。

更に、不可解なことに、肺がんそのものは見つけれませんでした。本当に見落としてなかったのか、いまでも心配は残りますが。



自己紹介

医療法人湘鵬会内田クリニック 内田 泰至

平塚市医師会員の皆様、はじめまして。このたび平塚医師会に加入させていただきました、内田泰至と申します。平成12年から平塚市徳延で開業しておりました医療法人湘鵬会内田クリニックにおいて、平成24年4月より、父、内田久則とともに地域診療に携わらせていただくことになりました。

私は、北里大学医学部を平成4年に卒業し、同大学の外科学教室に入局、6年間の外科研修ののち、北里大学外科学院に入学。学位取得後5年間相模原市内の森下記念病院で消化器外科全般の診療に従事したのち平成20年に北里大学医学部外科にもどり、大学病院では末梢血管外科を専攻しておりました。現在も週1回は大学で専門外来をさせていただいております。昨年までの手術漬けの毎日から急に外来だけになってしまい、戸惑うことも多かったのですが、最近ようやく少し日々のペースがつかめてきたところです。医師会会員の皆様、今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。

私は、スポーツはゴルフを少々たしなむくらいで、どちらかといえば文系の人間です。父親は、この孟宗でも盛んに投稿している通りの昆虫マニアですが、私はバイオリンを小学

生から習っていたこともあり、中学生から大学卒業までは、クラシック音楽にのめりこんでおりました。高校から大学卒業まで交響楽団に在籍し、大学時代は学校に行っても授業は半分、あとはバイオリンばかり弾いていました。

大学時代の一番の思い出は、全国の医学部学生が集まる医科学生オーケストラに参加させていただき、サントリーホールで演奏したことです。外科に入局してからは演奏する余裕もなくなり、しばらく楽器とはご無沙汰の毎日でしたが、息子たちにも楽器を習わせてみようと思最近長男にチェロを始めさせたことがきっかけで、私自身もバイオリンのリハビリを始めたところです。将来の夢としては息子たちと弦楽合奏をすることなのですが、まだまだ当分先になりそうなので、医師会の方々に弦楽器をたしなまれる方がもしいらっしゃいましたら、是非お声をかけていただければと思っています。

クリニックについては、地域の皆様に少しでもお役にたてるよう研鑽に努めていきたいと思っておりますので、皆様今後ともよろしくお願いたします。



思い出話

高橋克孝先生を悼む

武川 慶孝

先生の姿を求めて、自分の記憶を辿っていくと、約20年前の胃がん・大腸がん判定会まで遡る。私が判定会の責任者をしていた頃で、先生はまだ若く、多少シャイな感じで、黙々と仕事をこなすタイプだった。二人で間接フィルムを覗き込んでいるうちに、段々と気心が知れる間柄になったように思う。ある日、皆が帰ってしまった後で「この写真みてもらえますか?」と、数例の注腸レントゲンフィルムを持ってこられた。当時は、完璧な注腸レントゲン撮影のむづかしい頃で、レントゲンの撮り方を含め、微に入り細に入り話合ったのが、今では懐かしい。その後、判定会の責任者を彼にバトンタッチしている。

次に思い出されるのがテニス。それは、13年程前の当医師会テニス部の納会。大磯プリンスホテルのテニスコートに、ラケットを持って突然現れた。数年前から始めたらしい。当時、市民病院の副院長だった宮沢先生との練習（乱打）を見

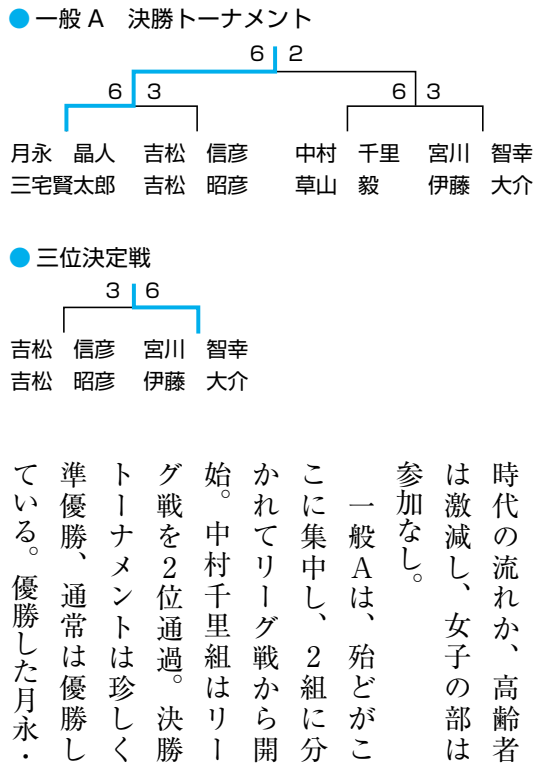


部報

テニス部報

武川慶孝

例年の如く、県医大会の結果から報告します。
第48回神奈川県医師テニス大会 5月27日（日）、横浜ふるさと村テニスコートにて開催された。好天のもと13組（26名）の参加があったが、時代の流れか、高齢者は激減し、女子の部は参加なし。



ていたら、彼は、まるでスタミナがない。前に後ろに、一生懸命走るので、もう汗グショグショで息もたえだえ……。そんな彼に「大分、歳は違うと思うけど、副院長は余裕だよ……」。「二年間、鍛えてきます！」。そして、一年後、別人の如くスタミナは回復していた。努力の人である。その後、Mコートに移ってから、試合も出来る程になったのだが、ボーリング中に右上腕筋の部分断裂をきたし、スポーツは不可となる。せっかく頑張ったのに、どうも運がない。

最後は産業医部会。当時、副会長だったこともあり、産業保健担当理事を、お願いしたら気持ちよく引き受けてくれた。当時の産業保健関係の仕事には問題も残っていたが、彼は、それらをあいまいにせず、正論を表に出して是正していった。一見、おとなしそうに見えるが、芯は強かった。

その後、内科部会の会長を引き受け、更に社保の審査委員をも引き受けてしまった。本業の自分の診療所も多忙であり、さすがに当方も、先生の身を案じるようになっていた。「先生、相当に厳しい毎日だけど大丈夫か？」と尋ねても、「自分は、こういう事が好きだから……」と笑っておられた。

平成23年2月下旬に産健連で仕事をしたのを最後に、間もなく東京の大病院に緊急入院。最初の情報では、命は大丈夫と確信していたが、入院期間は予想をはるかに超えて長引き、帰宅されたのは5月の中旬であった。雨の夜、先生宅を

訪ねた際は、思ったよりは元気に見えた。尻が痛むとのことで、厚い座布団を敷いていた椅子に座り、30分程、話ができた。内容は、すべて今回の病に関する小生の問いかけで、それ以外は、体力を考慮し控えざるを得なかった。短い時間ではあったが、それでも小生の心は救われた。この機会がなかったら、それこそ、こんなに淋しい別離はなかったであろうから……。約1か月後の葬儀には、なんの躊躇もなく火葬場まで同行させて戴いた。残されたご家族とも、家族ぐるみのお付き合いを大切にしたいと思っている。

高橋先生、長い間ありがとうございました。心安らかにお休み下さい。

訃報

平成二十三年度は、六名の先生方が、ご逝去されました。

平成二十三年六月十七日 中山隆市先生（享年80歳）

平成二十三年六月二十日 高橋克孝先生（享年60歳）

平成二十三年七月十六日 中野政男先生（享年91歳）

平成二十三年七月二十八日 津田康之先生（享年83歳）

平成二十三年十月三十日 萩原通先生（享年61歳）

平成二十四年三月一日 野口憲一先生（享年59歳）

つつしんで御冥福をお祈り申し上げます。



●一般 A-A 組

	中村・草山	青柳・尾崎	岩崎・前田	清水・遠藤	月永・三宅	勝敗	順位
中村 千里（平塚） 草山 毅（秦野）		6-0	6-5	6-0	2-6	3-1	2
青柳 祥夫（横浜） 尾崎 亮（横浜）	0-6		0-6	1-6	1-6	0-4	5
岩崎賢太郎（横浜） 前田 純一（東京）	5-6	6-0		6-5	3-6	2-2	3
清水 大輔（横浜） 遠藤 徳之（小田原）	0-6	6-1	5-6		3-2	1-3	4
月永 晶人（横須賀） 三宅謙太郎（横須賀）	6-2	6-1	6-3	6-3		4-0	1

三宅組は親子ほど年齢差のあるインカレ出身の現役。決勝戦が6試合めとなれば、この結果もやむなし。一般A以外の3チームは2試合しか出来ず、不合理ではあるが、クラス分けは申告制なので自動的に決まってしまう。大会の主旨は親睦なので、多少の不備は許されるのでありがたい。写真の出来の悪いのは百も承知ですが、記念ですので出させて戴きます。

第48回神奈川県医師ソフトテニス大会（兼県下医科学生ソフトテニス大会）10月28日（日）、小田原城山庭球場で開催された。朝から雨で、懇親会だけでも出席のつもりで出発する。というのも、主催者の小田原医師会・辻内先生からペアが足りないので、ぜひ出席をと懇願されていたからである。小生は、ここ数年、硬式・軟式共、練習をしていないので極力出場を控えている。

小田原に着いたら、丁度、雨がやんでいて、練習もソコンコに早速、試合に入る。小生の属する寿は、70歳以上と80歳以上の先生がペアを組み、70歳代は脚力があるが、80歳で走れるのは、小生のペアの佐藤先生のみ。故に戦う前から勝敗は決まっている。

ソフトテニスは4ゲーム先取で、2試合のみだから、「アツという間」に終わってしまった。70歳代の寿は、40歳以上の

壮年より実力は上と思われるが、これも親睦とあきらめるしかないか。

医科学生を10名程招待した親睦会は、硬式とは比較にならぬほど内容があり、これは今後とも、大切に継続されるよう期待している。

納会

11月23日Mテニスコートにて

当日は雨となり、夜の懇親会のみ（ラ・シャールにて）体調を崩され、テニスはまだ無理の矢嶋先生も出席し、会話の方は絶好調なので心強い。

この調子なら、テニスも夢ではなさそうだ。

神奈川県医師テニス連盟理事会報告（平成25年2月6日）協議事項として、理事会の若返りについて話し合いがなされ、実質的な責任者である理事長に中村豊東海大学教授（当医師会中村副会長の弟）を推挙する旨、確認された。

尚、訃報もあり、藤沢選出の服部慎理事が平成24年11月30日に逝去された。矢嶋先生と学生時代にペアを組んでいたという優しい人物でした。



一般 壮年	佐野・後藤	梶本・大澤	辻内・畔上	勝敗	順位
佐野 貴史（愛知） 後藤 慶暁（東京）		1-④	0-④	0勝2敗	一般 2位
梶本 光要（静岡） 大澤 亮太（静岡）	④-1		④-1	2勝0敗	一般 1位
辻内 和人（小田原） 畔上 拓也（小田原）	④-0	1-④		1勝1敗	壮年 1位

熟年 実年	菅沼・遠藤	前田・前田	岡本・柴田	勝敗	順位
菅沼 明人（静岡） 遠藤 徳之（小田原）		2-④	2-④	0勝2敗	熟年 1位
前田 亮二（東京） 前田 昭太郎（東京）	④-2		0-④	1勝1敗	実年 2位
岡本 哲（東京） 柴田 武士（東京）	④-2	④-0		2勝0敗	実年 1位

寿	八木・児島	及能・蜷川	佐藤・武川	勝敗	順位
八木 剛平（茅ヶ崎） 児島 瑞夫（横浜）		④-1	2-④	1勝1敗	2位
及能 茂道（横浜） 蜷川 栄三（秦野）	1-④		0-④	0勝2敗	3位
佐藤 肇（横浜） 武川 慶孝（平塚）	④-2	④-0		2勝0敗	1位

ボウリング同好会

(平成二十四年度活動報告)

鈴木盛彦

平成二十四年度のボウリング同好会は、毎月一回、第三木曜日の午後八時から寒川町にある寒川ボウルにおいて月例会を開催し、会員間の親睦を兼ねて、ゲームを行っております。

表1は、平成二十四年の一月から十二月までの優勝者氏名と優勝スコア(三ゲームのトータルピン)、ハンデキャップならびに、ハイゲーム者の氏名とハイスコア(一ゲーム)を表にしました。

表2は、平成二十四年の一月から十二月までのアベレージの表です。

個人戦は三ゲームですが、終了後に気分を変えて、ボックス(四〜五名)でチームを作り、投球順番を決め、一人一球ずつ順番に投げて二ゲームのトータルで優勝を争う団体戦も行っております。「スぺアー」や「ストライク」が出るとチームメイトから大歓声が湧き、和気藹々とゲームを楽しんでいます。

第七回平塚市医師会のスポーツ医学部会主催・ボウリング



部共催のボウリング大会が、平成二十四年十月二十日(土)に、武川会長参加の下、三十九名で神奈中ボウルで開催されました。大会はヨーロッパアンスタイルで二ゲームトータルで行いました。

優勝は、151、193、計344、二ゲームハンデ40 計384で鈴木でした。二位・高山慶介先生、四位・事務局の長野勉さん、七位・遠藤和邦先生、八位・山田幸宏先生、十位・西村猛先生、十三位・事務長の清水正明さん、十四位・武川慶孝先生、二十五位・北山禎昭先生、三十位・久保田亘先生、三十二位・久保田毅先生でした。

「第十二回 愛知・神奈川・静岡・東京医師ボウリング親睦大会」が、静岡市のボウルアピアで、平成二十四年六月十日(日)行われました。十月にボウルアピアで全日本医師ボウリング大会が開催される為、遠くは、岩手県から二名の先生が参加されました。結果は、成績紛失の為、割愛させていただきます。

第四十三回神奈川県医師ボウリング大会が、平成二十四年九月十七日(月・敬老の日)戸塚ボウリングセンターにて行われました。参加者は、医師会員十六名、準会員二十一名の三十七名でした。鈴木は医師の部で十一位、準会員の部で事務局の長野勉さんは、三位でした。

第二十四回全日本医師ボウリング大会が、静岡市のボウル

アピアにて、平成二十四年十月七日(日)、八日(月)に開催されました。参加者は、百七十二名でした。鈴木は、四人チーム戦では、四十三チーム中 十四位、ダブルス戦では、茅ヶ崎市の山崎先生と組んで、八十六組中 三十六位でした。シングル戦は、最後のゲームで二〇四を打ちましたが、九十五位でした。

平塚市医師会ボウリング同好会は、毎月一回、第三木曜日の午後八時から、寒川町にある、寒川ボウルにおいて月例会を開催しておりますので、会員の先生はもとより、会員の家族の皆様、従業員の皆様方の御参加を心からお待ち申し上げます。

表 2

平成 24 年 年間アベレージ表

平塚市医師会ボウリング部

氏 名	ゲーム数	年間トータル	アベレージ
鈴木 盛彦	36	6091	169.19
遠藤 和邦 先生	3	438	146.00
山田 幸宏 先生	3	433	144.33

(ハンディは除く)

医師会事務局・薬品会社 (2回以上参加者)

女性

氏 名	ゲーム数	年間トータル	アベレージ
長野 (医師会)	30	5128	170.93
橋本 (バイエル)	15	2384	158.93
佐々木 (第一三共)	6	917	152.83
田中 (武 田)	18	2713	150.72
杉山 (アストラ)	24	3590	149.58
廣田 (大日本)	18	2620	145.56
石山 (ノバルティス)	21	2942	140.10
遠藤 (アルフレッサ)	36	4856	134.89
小野 (ケミファ)	15	2001	133.40
井口 (中 外)	18	2379	132.17
棚島 (ベーリンガー)	21	2754	131.14
斉藤 (アステラス)	15	1948	129.87
森 (ファイザー)	9	1164	129.33
尾垣 (第一三共)	15	1844	122.93
戸田 (大 塚)	9	1103	122.55
堀内 (第一三共)	6	707	117.83
小川 (ノバルティス)	15	1441	96.07

他 9 名参加有り

表 1

平成 24 年 優勝・ハイゲーム者

平塚市医師会ボウリング部

★★ 個人賞 ★★

開催日	優勝者氏名	3 G 合計	HD	ハイゲーム	1 G
H24.1.19 (木)	鈴木 盛彦	492	60	小野 (ケミファ)	185
H24.2.16 (木)	鈴木 盛彦	544	60	橋本 (バイエル)	207
H24.3.15 (木)	長野 (医師会)	627	75	鈴木 盛彦	210
H24.4.19 (木)	鈴木 盛彦	535	60	橋本 (バイエル)	187
H24.5.17 (木)	長野 (医師会)	592	75	長野 (医師会)	189
H24.6.21 (木)	長野 (医師会)	623	75	長野 (医師会)	186
H24.7.19 (木)	長野 (医師会)	617	75	長野 (医師会)	212
H24.8.28 (木)	鈴木 盛彦	587	60	鈴木 盛彦	204
H24.9.20 (木)	長野 (医師会)	617	75	長野 (医師会)	203
H24.10.18 (木)	長野 (医師会)	603	75	鈴木 盛彦	209
H24.11.15 (木)	長野 (医師会)	603	0	田中 (武田)	187
H24.12.20 (木)	鈴木 盛彦	590	60	橋本 (バイエル)	220

★★ チーム賞 ★★

開催日	優勝チーム	2 G 合計
H24.10.18 (木)	棚島 (ベーリンガー)	1 G 174
	長野 (医師会事務局)	2 G 182
	1 G HD10 ピン含む	合計 356

開催日	ハイゲームチーム	ハイゲーム
H24.4.19 (木)	尾垣 (第一三共) 棚島 (ベーリンガー) 斉藤 (アステラス) 1 G HD10 ピン含む	187

編集後記

平成24年度は、東日本大震災や原発事故からの復興がなかなか進まないなか竹島、尖閣諸島の領土問題も持ち上がり、円高、失業率の改善が認められず、景気が良くならない状態が続きました。そのため、年末に行われた衆議院選挙では自民党が単独過半数の圧勝となり、円高改善、日経平均株価も一万円台の王台に乗って景気改善が期待されます。民主党が「社会保障・税の一体改革」の一環として消費税率の引き上げを決め、今後消費税増税分の使い道に社会全体で見守っていく必要があります。

明るい話題は、東京スカイツリー(634m)の5月22日の開業で商業施設も含め半年で2792万の集客がありました。7月開催されたロンドン五輪では史上最多38個のメダルをとりました。卓球、バトミントンで初めてメダル獲得しましたが、お家芸の柔道では、メダルラッシュとはいきませんでした。また、10月には京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞を受賞。様々な組織や、臓器細胞を作り出せるIPS細胞を開発し、再生医療実現の道を開きました。

今年も多数の玉稿を頂戴し、編集委員一同感謝しております。

ます。次号もより多くの原稿をお寄せ下さいますよう、お願い申し上げます。

高山秀明

編集委員

内田久則 遠藤和邦 宮入朗
高橋昇司 高山秀明

孟宗 四十五号

発行日 平成二十五年 八月
発行 平塚市医師会
印刷 (株)コムプランニング
電話

〇四六三・二四・〇三一六

